

目標

- ・簡単なことがらを分類整理して、一元表やグラフに表し、それらを読むことができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「教科書8ページの黒板を見て考えましょう。」 「昼休みに、どんなことをしていますか。」 『なわとび・お絵かき・ドッジボール』など</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">昼休みのすごし方を、わかりやすくあらわしましょう。</p> <p>2. 「教科書9ページのグラフの続きをかきましよう。」 ・教科書のグラフの続きを教科書にかき入れていく。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 40px;">黒板のしたことに印をつけながら、グラフに○をかきようにするとよいでしょう。</p> <p>「グラフの○の数が、クラスの人数と合っているか確かめましよう。」 「ドッジボールをしていた人は何人ですか。」 『7人』 「5人がしていたことは何ですか。」 『なわとび』 「グラフの人数を教科書の表に表しましよう。」</p> <p>3. P10</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 40px;">グラフと表を見て考えましよう。</p> <p>「人数の一番多いすごし方は何ですか。」 『ドッジボール』 「お絵かきと読書では、どちらが何人多いでしょう。」 『読書が4人多い。』 「人数が一番少ないのはどれですか。」 『お絵かき』 「グラフや表に表すと、どんなことが分かりやすくなりましたか。」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 40px;">自由に気付いたことを出し合うとよいでしょう。</p> <p>『人数の多い少ないというのがわかりやすいのは、グラフだ。』 『人数がわかりやすいのは、表だ。』</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 40px;">グラフと表には、それぞれのよさがある。</p>	<p>1. 教科書の絵を見ながら考えさせる。(5分)</p> <p>2. 落ちがないように、チェックしながらかくことが大切である。</p> <p>教科書のグラフにかき入れる。(15分) 教科書の表にかき入れる。(25分)</p> <p>3. 表やグラフのどちらを見るとわかるのかを考えさせ、表やグラフの特徴を読み取っていくことが大切である。(35分)</p> <p style="text-align: right;">(45分)</p> <p>P11は宿題。</p>

II 指導のポイント

- ・板書するグラフや表の枠を前もって、紙にかいておくといよいでしょう。
- ・ワークシートはこの時間には使用せず、教科書に記入させるとよいでしょう

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・表やグラフから特徴を読み取ったり、説明したりする活動に取り組む経験を積んでいくことが大切です。

IV 板書計画

表やグラフ

グラフ

表

まとめ

グラフのわかりやすいところ

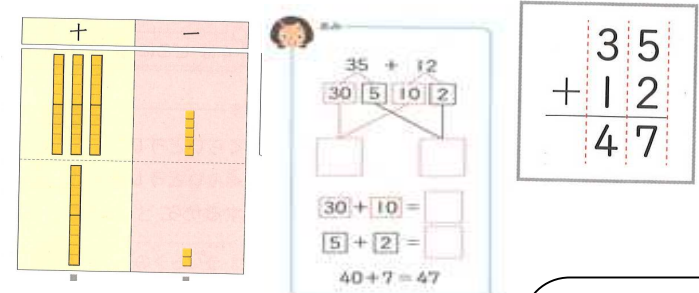
表のわかりやすいところ



目標

・十進位取り記数法に着目して、筆算の仕方を考えることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. みかさんは、35円の ドーナツと 12円の わたがしを 買います。だいは いくらに なりますか。</p> <p>「何算になるでしょう」 『たし算』 「式を考えましょう。」 『$35 + 12$』</p> <p>2. $35 + 12$ の計算のしかたを考えよう。</p>  <p>3. 「それぞれのやり方を説明しましょう。」 『図を使って説明する。』 『数字を分けて説明する。』 『筆算を使って説明する。』 『どれも十の位と一の位を分けて考えている。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>十の位と一の位に分けて考えるとよい。 筆算を使うと簡単に計算できる。</p> </div> <p>4. P15の1の問題を解く。</p>	<p>1. 問題文から何算になるかを考えさせる。 (5分)</p> <p>2. 図と数字を関連付けて考えさせることが大切です。→シート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>図や数字を位に分けてしっ かりと考えることができる ようにしましょう。</p> </div> <p>わからない子には、ブ ロックなどを使って考え させる。(20分)</p> <p>3. それぞれの考え方を関 連付けながらまとめて いく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>筆算ができるだけでなく、位取 りの考え方を図や数字と関連 付けることが重要です。</p> </div> <p>(35分)</p> <p>4. 個別に対応する。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・筆算のみで終わらせるのではなく、筆算の意味をしっかりと理解させましょう。
- ・筆算と結びつける際、筆算の手順と図の操作を同時進行で二人の子に説明させるとよいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・図を使って考える活動を丁寧に扱うことが、これからの算数に役に立っていきます。

IV 板書計画

問題

子どもの考え1

(図)

子どもの考え2

(数字を分けて)

子どもの考え3
(筆算)

まとめ



月

日()

時間目 名前

みかさんは、35円の ドーナツと 12円の わたがしを
買います。

だいは いくらに なりますか。

<図をかいて 考えましょう。>

十の位	一の位

<数字で考えましょう。>

十の位	一の位

<筆算で考えましょう>

月

日()

時間目

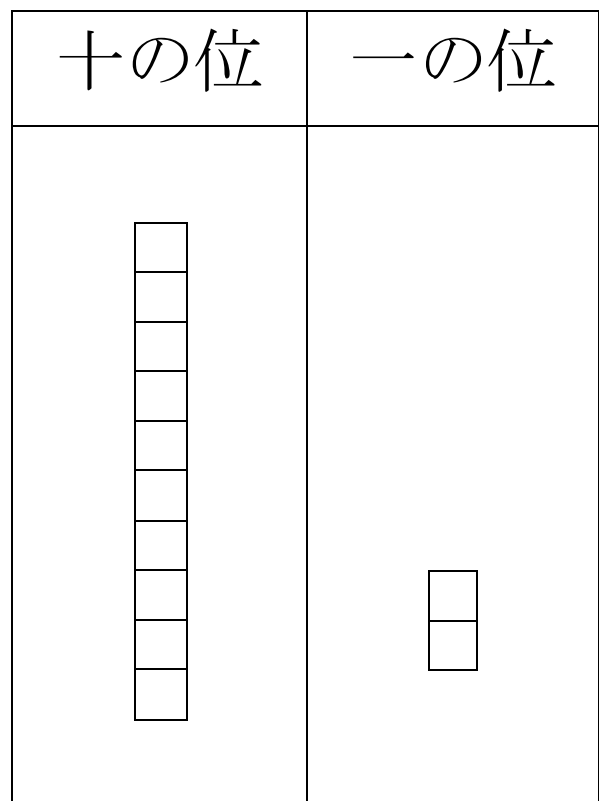
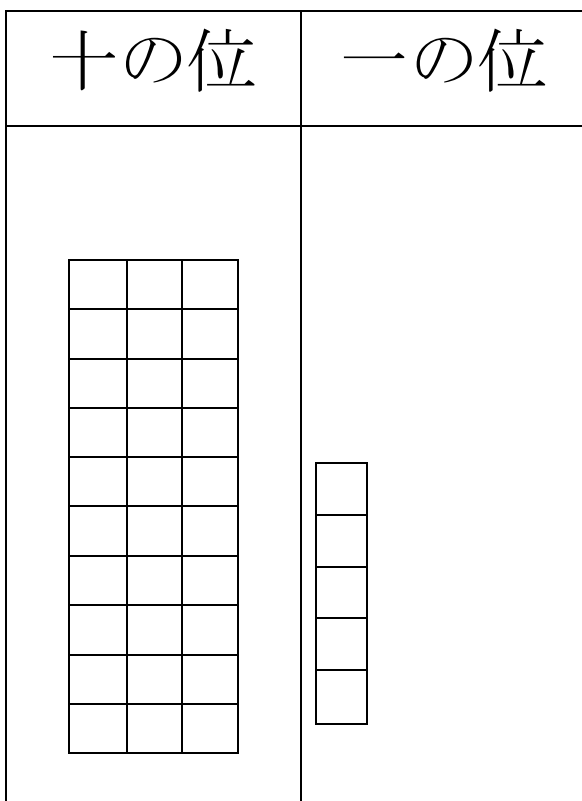
名前

解答

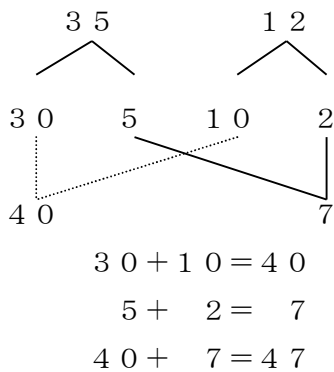
みかさんは、35円の ドーナツと 12円の わたがしを
買います。

だいは いくらに なりますか。

<図をかいて 考えましょう。>



<数字で考えましょう。>



<筆算で考えましょう。>

$$\begin{array}{r}
 35 \\
 + 12 \\
 \hline
 47
 \end{array}$$

目標

・2位数+1位数の加法の筆算ができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. $32 + 4$ をひっ算でしましょう。</p> <p>「$32 + 4$ の筆算を考えましょう。」 「$35 + 12$とのちがいはなんですか。」(たす数が一桁) 「4はどこに書くのですか。」</p> $\begin{array}{r} 32 \\ + 4 \\ \hline 36 \end{array}$ <p>2. P16の②の問題を解く。</p> $\begin{array}{r} 43 \\ + 5 \\ \hline 48 \end{array} \quad \begin{array}{r} 7 \\ + 52 \\ \hline 59 \end{array} \quad \begin{array}{r} 3 \\ + 70 \\ \hline 73 \end{array}$ <p>3. P16の2の問題を解く。</p> <p>4. 先生問題を解く。(時間に余裕があったら問題を出す。)</p> <p>この時間は、繰り上がりのない筆算の習熟の時間として活用しましょう。</p>	<p>1. 一桁と二桁の筆算についてとらえさせる。 (10分) 十の位同士、一の位同士を計算することをおさえる。</p> <p>2. 個別に対応する。 (17分)</p> <p>3. 位取りに気をつけさせる。</p> <p>4. 数字をしっかりとそろえ、丁寧に筆算を書かせるようにする。 スピードよりも、きれいにノートに位取りをそろえて、筆算が書けることを大切にする。</p>

II 指導のポイント

- ・筆算の習熟のため、一人一人の子供に寄り添って見取り、指導していくとよいでしょう。
- ・位取りに気をつけて丁寧に書かせるようにしましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからなくなったときには、位取り表に戻り考えさせることが大切です。

IV 板書計画

問題

練習問題

はるとの考え

みさきの考え



目標

- ・ 繰り上がりのある筆算を十進位取り記数法に着目して考えることができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. ひろしさんは、35円のドーナツと29円のグミを買います。 だいはいくらになりますか。</p> <p>2. 式を考えましょう。 $35 + 29$</p> <p style="text-align: center;">35 + 29の筆算の仕方を考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>りく くらいごとに計算して...</p> $\begin{array}{r} 5 + 9 = 14 \\ 30 + 20 = 50 \\ \hline 14 \\ + 50 \\ \hline 64 \end{array}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>しほ くらいごとの計算を2だんに分けて</p> $\begin{array}{r} 35 \\ + 29 \\ \hline 14 \dots 5 + 9 \\ 50 \dots 30 + 20 \\ \hline 64 \end{array}$ </div> <div style="text-align: center;"> </div> </div> <p style="text-align: right;"> $\begin{array}{r} 1 \\ 37 \\ + 28 \\ \hline 65 \end{array}$ </p> <p style="text-align: center;">→ワークシート</p> <p>3. 「それぞれのやり方を説明しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 『図を使って説明する。』 『数字を分けて説明する。』 『位ごとに分けて計算する』 『筆算を使って説明する』 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">繰り上がりのあるたし算も、繰り上がりに気をつけて筆算を使うと便利だ。</p> <p>4. p18, 1の問題を解く。</p>	<p>1. 問題文から式を考えさせる。(5分)</p> <p>2. それぞれの考え方を認め、繰り上がりの処理の仕方に着目させる。(20分)</p> <p>35 とする子には、位ごとに計算 $+ 29$ させ考えさせるとよいでしょう。 614 よう。</p> <p>位ごとに分けて計算する不便さから筆算の工夫を導き出すとよいでしょう。</p> <p>3. 繰り上がりのある筆算の仕方を定着させる。(35分)</p> <p>4. 個別に対応する。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 筆算のみに終わらせず、繰り上がりの意味をしっかりと理解させましょう。
- ・ 位ごとに分けて計算する考えと、筆算を結びつけて説明させるとよいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 前時に続き、図を使って考え筆算と関連づけることが大切です。

IV 板書計画

問題

子どもの考え1

(図)

子どもの考え2

(数字を分けて)

子どもの考え3
(筆算)

まとめ



月 日() 時間目 名前

ひろしさんは、 35円の ドーナツと 29円の
グミを 買います。
だいは いくらに なりますか。

<図を書いて考えましょう>

十の位	一の位

十の位	一の位

<数字で考えましょう。>

<筆算で考えましょう>

月

日()

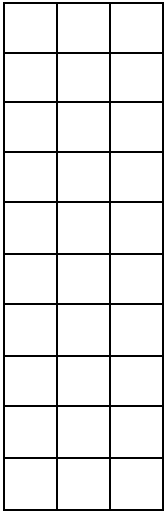
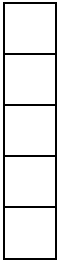
時間目

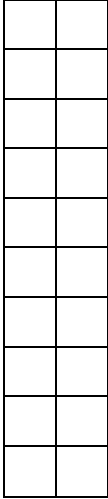

名前

解答

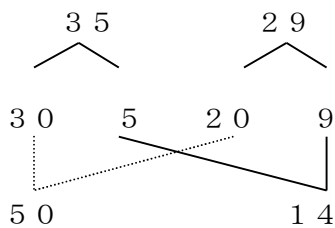
ひろしさんは、 35円の ドーナツと 29円の
グミを 買います。
だいは いくらに なりますか。

<図を書いて考えましょう>

十の位	一の位
	

十の位	一の位
	

<数字で考えましょう。>



$$5 + 9 = 14$$

$$30 + 20 = 50$$

$$14 + 50 = 64$$

<筆算で考えましょう>

$$\begin{array}{r}
 35 \\
 + 29 \\
 \hline
 14 \\
 50 \\
 \hline
 64
 \end{array}
 \rightarrow
 \begin{array}{r}
 1 \\
 35 \\
 + 29 \\
 \hline
 64
 \end{array}$$

目標

・繰り上がりのある加法の筆算ができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ひっ算のしかたを考えましょう。</p> <p>「28 + 32 の筆算を考えましょう。」</p> $\begin{array}{r} 1 \\ 28 \\ + 32 \\ \hline 60 \end{array}$ <p>2. P19, 2の問題を解く。</p> <p>3. 「28 + 6 3 + 87 の筆算を考えましょう。」</p> $\begin{array}{r} 1 \\ 28 \\ + 6 \\ \hline 34 \end{array} \quad \begin{array}{r} 1 \\ 3 \\ + 87 \\ \hline 90 \end{array}$ <p>4. P19の3、4の問題を解く。</p> <p>5. P119のほじゅうのもんだいエ・オを解く。</p> <p>この時間は、繰り上がりのある筆算の習熟の時間として活用しましょう。</p>	<p>1. 1の位が0になる筆算についてとらえさせる。(10分)</p> <p>2. 個別に対応する。(17分)</p> <p>3. 位取りに気をつけさせる。</p> <p>4, 5 数字をしっかりとそろえ、丁寧に筆算を書かせるようにする。</p> <p>スピードよりも、きれいにノートに位取りをそろえて、筆算を書くことを大切にしましょう。</p>

II 指導のポイント

- ・筆算の習熟のため、一人一人の子供に寄り添って見取り、指導していくとよいでしょう。
- ・位取りに気をつけて丁寧に書かせるようにしましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからなくなったときには、位取り表に戻り考えさせることが大切です。

IV 板書計画

問題

子どもの考え

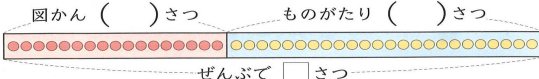
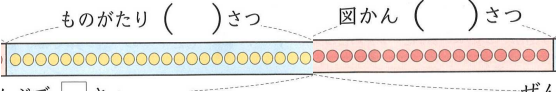
練習問題



目標

・図などを活用して、加法の交換法則について考えることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 本は、 ぜんぶで 何さつ ありますか。 ずかん 17さつ ものがたり24さつ</p> <p>「式を考えましょう。」</p> <p>『$17 + 24$』 『$24 + 17$』</p> <p>2. 『$17 + 24$と$24 + 17$の計算をして、答えを比べてみましょう。』</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 17 \\ + 24 \\ \hline 41 \end{array}$ </div> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 24 \\ + 17 \\ \hline 41 \end{array}$ </div> </div> <p>3. 答えが同じになることを図を使って説明しましょう。</p> <div style="text-align: center; margin-bottom: 20px;">  <p>$17 + 24 = 41$</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>$24 + 17 = 41$</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>たされる数と たす数を 入れかえて 計算しても、 答えは 同じに なります。</p> </div> <p>4. P21、1の問題を解く。</p>	<p>1. $24 + 17$が出なかった場合は、教師から提示する。(7分)</p> <p>2. 筆算で答えを出させる。(15分)</p> <p>➡ワークシート</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>教科書P20にある、テープの図は、今後、問題解決していくうえで重要になってくるので、しっかりと定着させるとよいでしょう。</p> </div> <p>3. 図鑑と物語の位置を入れ替えることと、式とを結びつけて考えさせる。(30分)</p> <p>4. 個別に対応する。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・この時間は、答えを出すことよりも、交換法則を、図と結びつけて考えることができるようにすることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・テープの図を式と結びつけてかく活動をしっかりと行うことが大切です。

IV 板書計画

問題

式 1

式 2

図 1

図 2

筆算 1

筆算 2

まとめ

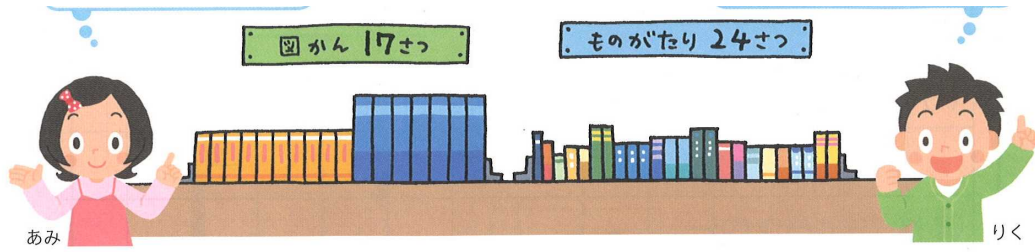


月

日()

時間目 名前

本は、ぜんぶで 何さつ ありますか。

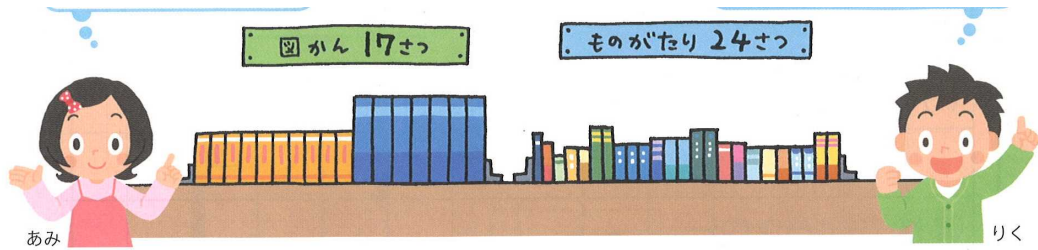


<ひっ算で答えを出しましょう。>

<図を使って考えましょう。>

月 日() 時間目 名前 解答

本は、ぜんぶで 何さつ ありますか。

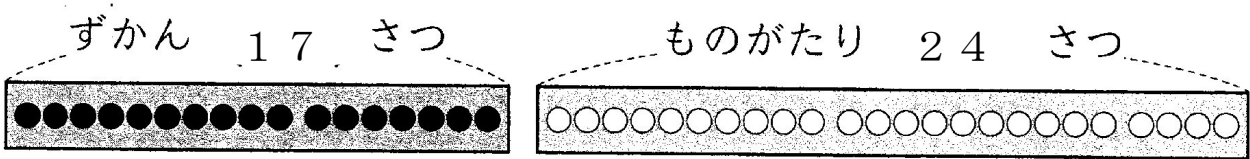


<ひっ算で答えを出しましょう。>

	1	7
+	2	4
	4	1

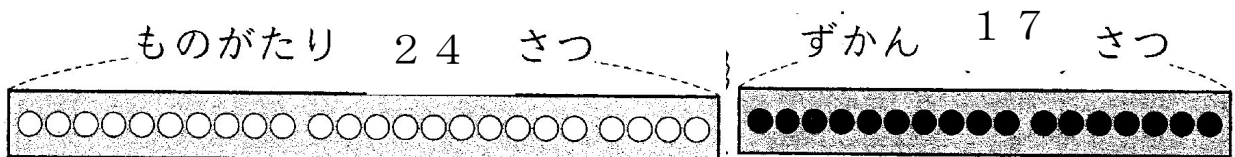
	2	4
+	1	7
	4	1

<図を使って考えましょう。>



$$17 + 24 = 41$$

41さつ



$$24 + 17 = 41$$

41さつ

目標

・筆算形式による2位数の加法計算ができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1 「この時間は、P 22のたしかめようをやりましょう。」</p> <p>「教科書を見て、筆算は位をそろえてきれいに書きましょう。」</p> <p>「速くやることよりも、きれいに丁寧にやることが大切です。」</p> <p>「では、始めてください。」</p> <p>2. 早く終わった子は、P 23、「算数の目」127の『おもしろもんだいにチャレンジ』の問題を解く。</p> <p>3. P 22が終わらなかった子は宿題とする。</p>	<p>1. この時間は、個別指導の時間とし、筆算ができるようにする。</p> <p>2. できた子から、教師が見てまわり○をつける。わからない子にしっかり関わる。</p> <p>(45分)</p>

筆算のできない子にかかわり、この時間で筆算ができるようにしましょう。

II 指導のポイント

- ・一人ひとり進度が違うので、教師が○をつけて回る方がよいでしょう。
- ・速い子は、P 23に進ませ、全員がP 22を終えた時点で、答え合わせをしてもよいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・習熟の時間であるので、特になし。

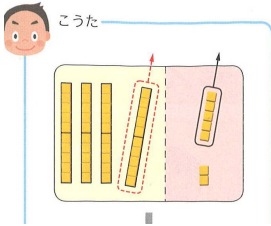
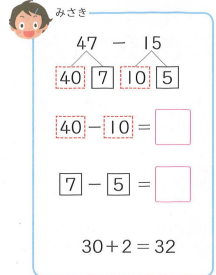
板書なし



目標

・十進位取り記数法に着目して、筆算の仕方を考えることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. けんじさんは、47円 もって います。 15円の ゼリーを 買います。 のこりは いくらですか。</p> <p>「式を考えましょう。」 『47-15』</p> <p>2. 47-15の計算の仕方を考えよう。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;">  </div> <div style="margin-right: 20px;">  </div> <div style="margin-right: 20px;"> $\begin{array}{r} 47 \\ -15 \\ \hline 32 \end{array}$ </div> </div> <p>3. 「それぞれのやり方を説明しましょう。」 『図を使って説明する。』 『数字を使って説明する。』 『筆算を使って説明する。』</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>筆算ができるだけでなく、位取りの考え方や図や数字と関連付けることが重要です。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>2けたの数のひき算は、10のまとまりどうし、ばらどうしに分けて計算する。</p> </div> <p>4. P27の問題を解く。</p>	<p>1. 問題文から何算になるかを考えさせる。(5分)</p> <p>2. たし算の時のように、図と数字を関連付けて考えさせることが大切です。 →ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>図や数字を分けてしっかりと考えることができるようにしましょう。</p> </div> <p>わからない子には、ブロックなどを使って考えさせる。(20分)</p> <p>3. それぞれ絵の考えを関連付けながらまとめていく。(35分)</p> <p>4. 個別に対応する。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・たし算の時を想起し、筆算の意味を考えることができるようにしましょう。
- ・たし算の時のように、筆算の手順と図の操作を二人の子に同時進行させて説明させるとよいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・たし算の時のように、図を使って考える活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

問題

子どもの考え1

(図)

子どもの考え2

(数字を分けて)

子どもの考え3
(筆算)

まとめ



月 日() 時間目 名前

けんじさんは、47円 もって います。
15円の ゼリーを 買います。
のこりは いくらですか。

<図をかいて 考えましょう。>

十の位	一の位

<数字で考えましょう。>

<ひっ算で考えましょう。>

月

日()

時間目

名前

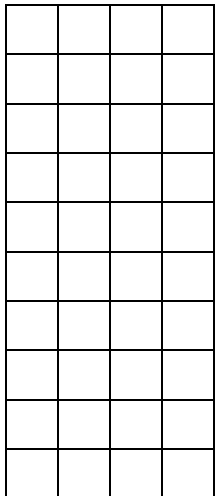

解答

けんじさんは、47円もっています。

15円のゼリーを買います。

のこりはいくらですか。

<図をかいて考えましょう。>

十の位	一の位
	

<数字で考えましょう。>

$$\begin{array}{r} 47 \\ \wedge \\ 40 \end{array} \quad - \quad \begin{array}{r} 15 \\ \wedge \\ 10 \end{array}$$
$$40 - 10 = 30$$
$$7 - 5 = 2$$
$$30 + 2 = 32$$

<ひっ算で考えましょう。>

$$\begin{array}{r} 47 \\ -15 \\ \hline 32 \end{array}$$

目標

・2位数-2位数・1位数（繰り下がりなし）の筆算ができる。

（数量や図形についての技能）

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ひっ算のしかたを考えましょう。</p> <p>① $\begin{array}{r} 36 \\ -26 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 36 \\ -32 \\ \hline \end{array}$ ③ $\begin{array}{r} 36 \\ -2 \\ \hline \end{array}$</p> <p>「3問、順番に筆算しましょう」</p> <p>2. 「答え合わせをしましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ひき算の筆算は、位をそろえて計算するとよい。 十の位の0は 書かない。</p> </div> <p>3. P28の2の問題を解く。</p> <p>4. P28の3の問題を解く。</p>	<p>1. 位をしっかりとそろえて筆算をさせる。(15分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; width: fit-content;"> <p>たし算と同じように、位をそろえるとよいことに気付かせましょう。</p> </div> <p>2. 黒板に答えを書かせる。(20分)</p> <p>3. 個別にかかわる。(30分)</p> <p>4. 位に気をつけさせる。(45分)</p> <p>終わった子は、P119カ、キの問題を解く。</p>

II 指導のポイント

- ・0の処理に困っている子には、たし算の時の筆算をもとに考えさせるとよいでしょう。
- ・筆算のできない子にたくさんかわりましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・筆算が定着していない子には、図などを使って考えさせましょう。

IV 板書計画

問題（順番に子供に答えを書かせていく。）

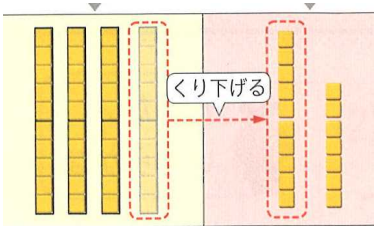
まとめ



目標

- ・十進位取り記数法に着目して、繰り下がりのある筆算の仕方を考えることができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ひろこさんは、47円 もって います。18円の チョコレートを 買います。 のこりは いくらですか。・</p> <p>「式を考えましょう。」 『47-18』</p> <p>2. 47-18の計算の仕方を考えよう。</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> $\begin{array}{r} 31 \\ 47 \\ -18 \\ \hline 29 \end{array}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> $\begin{array}{r} 47 \\ 30 \quad 17 \\ -10 \quad -8 \\ \hline 20 \quad 9 \\ \hline 29 \end{array}$ </div> </div> <p>3. 「それぞれのやり方を説明しましょう。」 『図を使って説明する。』 『数字を使って説明する。』 『筆算を使って説明する。』</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>繰り下がりのある場合は、十の位から繰り下げて一の位から計算するとよい。</p> </div> <p>4. P30の問題を解く。 終わった子は、P120のクを解く。</p>	<p>1. 一の位からひけないことに着目させる。 (5分)</p> <p>2. 図と数字を関連づけて、十の位から繰り下げることを理解させる。 →ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>繰り下がりを図や47の分解と関連付けて考えることができるようにしましょう。</p> </div> <p>(20分)</p> <p>3. それぞれ関連付けながらまとめていく。 (30分)</p> <p>4. 個別にかかわる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・繰り下がりの書き方をしっかりと指導しましょう。
- ・ブロックなどを実際に動かしながら、説明するとわかりやすいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・図や、ブロックを使って考える活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

問題

子どもの考え1

(図)

子どもの考え2

(数字を分けて)

子どもの考え3
(筆算)

まとめ



月 日() 時間目 名前

ひろこさんは、 47円 もって います。
18円の チョコレートを 買います。
のこりは いくらですか。

<図をかいて 考えましょう。>

十の位	一の位

<数字で考えましょう。>

<ひっ算で考えましょう。>

月

日()

時間目

名前

解答

ひろこさんは、47円もっています。
18円のチョコレートを買います。
のこりはいくらですか。

<図をかいて考えましょう。>

十の位	一の位																																																						
<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																													<table border="1"> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> <tr><td></td></tr> </table>										

<数字で考えましょう。>

$$\begin{array}{r}
 47 \\
 \swarrow \quad \searrow \\
 30 \quad 17
 \end{array}$$

$$\begin{array}{l}
 30 - 10 = 20 \\
 17 - 8 = 9 \\
 20 + 9 = 29
 \end{array}$$

<ひっ算で考えましょう。>

$$\begin{array}{r}
 3 \ 1 \\
 \cancel{4} \ 7 \\
 - 1 \ 8 \\
 \hline
 2 \ 9
 \end{array}$$

目標

・空位、欠位のある減法の筆算ができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ひっ算のしかたを考えましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(1) $\begin{array}{r} 40 \\ -18 \\ \hline \end{array}$</p> <p>0から8はひけないので、十の位から1繰り下げるといいことに気付かせましょう。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(2) $\begin{array}{r} 45 \\ -38 \\ \hline \end{array}$</p> <p>十の位は繰り下げると3-3=0となり、十の位には0を書かなくてもよいことに気付かせましょう。</p> </div> </div> <p>2. (3) $\begin{array}{r} 45 \\ -8 \\ \hline \end{array}$ (4) $\begin{array}{r} 40 \\ -8 \\ \hline \end{array}$</p> <p>既習の筆算から、筆算の仕方を考えるようにしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>繰り下がりのある筆算は、今までのように十の位から繰り下げて一の位から計算するとよい。</p> </div> <p>3. P31の問題2、3、4を解く。 終わった子は、P120のケ、コを解く。</p>	<p>1. ①一の位が0となることに着目させる。 ②十の位に着目させる。 (15分) わからない子には、ブロックを用いて考えさせる。</p> <p>2. 個別にかかわる。 (20分)</p> <p>3. 個別にかかわる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・繰り下がりのある筆算をしっかりと指導しましょう。
- ・わからない子には、ブロックを使い説明するとわかりやすいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからなくなったときに、図をかいたり、ブロックを使ったりする活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

問題

(1) ~ (4) の筆算

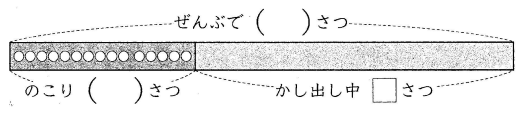
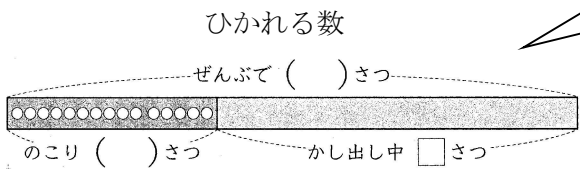
まとめ



目標

・ひき算の答えにひく数をたすと、ひかれる数になることを筋道だてて説明することができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ゆきさんの クラスには、本が ぜんぶで 41さつ あります。今、15さつ のこって います。 かし出し中の 本は 何さつですか。</p>  <p>() に、数を書きましょう。 「式を書いて 答えを求めましょう。」 $41 - 15$</p> $\begin{array}{r} 41 \\ -15 \\ \hline 26 \end{array} \quad 26 \text{ さつ}$	<p>1. 図に数字を記入し、筆算をする。 (10分)</p> <p>数字と図を結びつけて考えるようにさせましょう。</p> <p>→ワークシート</p>
<p>2. 「41をひかれる数、15をひく数といいます。」</p> <p>答えにひく数をたすとどんな数になるでしょう。図を使って説明しましょう。</p>  <p>ひかれる数 ひく数 答え</p> <p>『貸出中の本の数と残りの本の数をたすと、全部の本の数になる。』</p> <p>ひき算の 答えに ひく数を たすと、ひかれる数になります。</p> <p>3. P 33の1の問題を解く。</p>	<p>2. ひかれる数、ひく数という用語をしっかりと定着させる。</p> <p>図の中に、ひかれる数、ひく数を書き、問題と関連付けるとよいでしょう。</p> <p>図と関連付けてひく数ひかれる数、答えの関係を押さえる。 答えを確かめるときに用いることを理解させる。 (30分)</p> <p>3. P 34, 35は宿題。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・ひき算のたしか目をたし算であることを図と関連付けて説明させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・図に数字を記入し、図を用いて自分なりの説明ができるようになるとよいでしょう。

IV 板書計画

問題

テープ図

式

答え

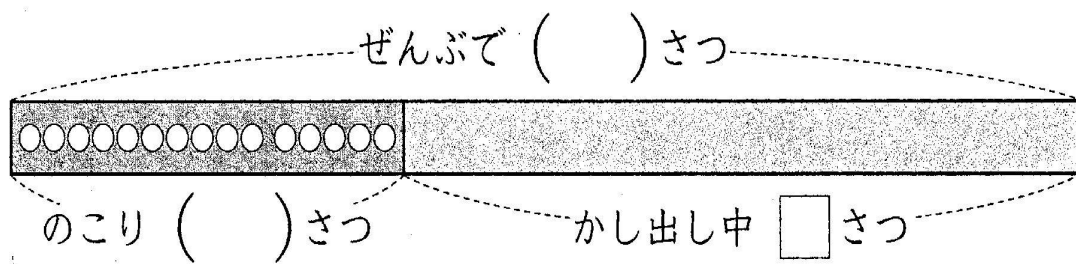
答えをたしかめる方法

まとめ



月 日() 時間目 名前

ゆきさんの クラスには、 本が ぜんぶで 41 さつ
あります。 今、 15 さつ のこって います。
かし出し中の 本は 何さつですか。



<しき>

<ひっ算>

<答え>

<まとめ>

目標

・問題文を読み、立式し答えを求めることができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">教科書の問題を見て、答えを出しましょう。</div> <p>① $12 + 24 = 36$ 36本 ② $29 - 2 = 27$ 27人 ③ $7 + 24 = 31$ 31台 ④ $35 - 28 = 7$ ことみさんが7回多くとんだ。</p> <p>2.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">教科書の絵を見て、自分でたし算やひき算になる問題を作りましょう。</div> <p>自分で作った問題をノートに書く。 自分の作った問題を解く。</p> <p>友達と交換して、友達の問題を解く。 友達に答え合わせをしてもらう。</p>	<p>1. 立式し、筆算を使って答えを出す。 (15分)</p> <p>2. まず、絵を見てお話づくりをさせる。</p> <p>子どもたちの作った問題とその解答を見て回り指導する。(30分)</p>
<p>3. 時間のある場合には、自由に問題を作らせる。</p>	<p>3. 自由に問題を作らせるが、既習の問題に限定する。(45分)</p>

友達同士自由に交流させるとよいでしょう。

II 指導のポイント

・この時間は、たっぷり問題づくりと子ども同士の交流に時間を使うとよいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・わからない子どもには、ブロックや図を使って考えさせましょう。

IV 板書計画

問題①～④の式と答え

子どもの作った問題を書く。



目標

・間接比較や任意単位を用いた比較の方法を考えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. いちばん長いえんぴつはどれかな。 いちばん長い線の長さは、どれだけといえればいいかな。</p> <p>「一番長い線は、どれですか。」 身近なものを利用して測る。</p> <p>『テープを使って測る。』 『ブロックを使って測る。』 『クリップを使って測る。』 『消しゴムを使って測る。』</p> <p>2. 友達の結果と交流する。</p> <p>長さの違いがばらばらだけど、どうしたらみんなに 違いがわかるだろう。</p> <p>『みんな使ったものの大きさがばらばらだ。』 『みんな同じもので測ると、わかる。』 『でもこのクラスにいない人には伝わらないよ。』 『みんながわかるものがほしい。』</p> <p>いつでも長さをわかりやすいようにあらわすのに、センチメ ートルを使います。長さは、1センチメートルがいくつ分あ るかであらわします。センチメートルは長さのたんいで、c mと書きます。</p> <p>3. cmの書き方を練習する。 4. p135のものさしを使ってア、イ、ウを測る。 5. p42の1、2、3の問題を解く。4の活動を行う。</p>	<p>1. 見た目で、どれが長い と思うか予想させる。</p> <p>何を使って測るか見通しをもたせる。</p> <p>→ワークシート1 (15分)</p> <p>2. 友達を数字が違うこと に着目させる。</p> <p>任意単位から、共通な単位が 必要なことに気付かせ、普遍 単位につなげていくとよい でしょう。</p> <p>3. 空書きをさせた後に書 かせる。</p> <p>→ワークシート2 (35分)</p> <p>4. お手本を見せる。 (40分)</p> <p>5. 活動は宿題でもよい。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・子どもがそれぞれ選ぶ任意単位と、教室内でまとまる共通の単位、世界中でわかる普遍単位の必要性を順次感じさせるよう工夫しましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・自分で考えたもので測る活動、紙の物差しで測る活動をたっぷり保障しましょう。

IV 板書計画

問題

使ったもの、いくつ分を表に
まとめる。

cmを書き、書き方を示す。

まとめ



月

日()

時間目

名前

解答

いちばん 長い えんぴつは どれかな

いちばん 長い 線の長さは どれだけといえ

いいかな。

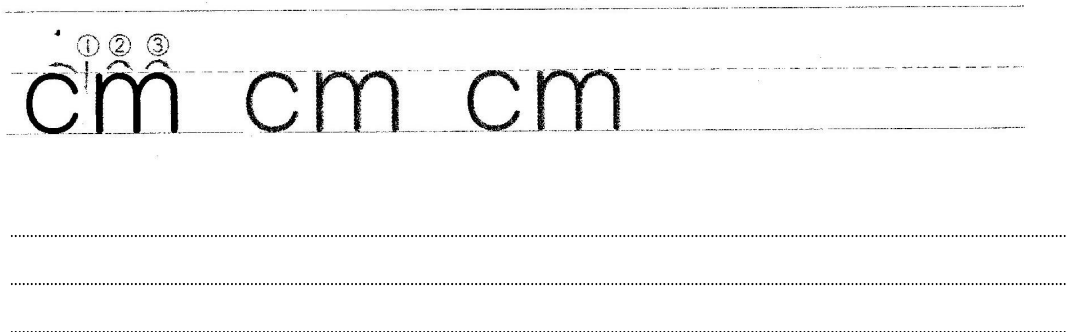
<つかった もの> ワークシート1

<長さは、どれだけですか>

ア	イ	ウ

<いちばん 長い線の 長さは どれだけといえいいかな。>

ワークシート2



目標

・長さを表す単位「ミリメートル」と、その読み方、書き方を理解する。

(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>はがきの よこと たての 長さを しらべましょう。</p> <p>1. 「縦と横の長さを予想しましょう。」 それぞれ自分の予想を書く。 「紙のものさしを使って長さを測りましょう。」 『横の長さは10cm』 + 『縦の長さは14cmと15cmの間になる』 『もっと細かい目盛りがほしい。』</p> <p>2. 1cmより短い長さの表し方を考えよう。</p> <p>『半分よりも少し長い。』 『数字も一の位十の位があるから、10に分けるといい。』 竹のものさしを与える。 「竹のものさしを見て、一番小さいめもりは、1cmをいくつに分けているか調べましょう。」 『10に分けている。』</p> <p>1cmを同じ長さに、10に分けた1つ分の大きさを1ミリメートルといい、1mmと書きます。mmも長さのたんいです。</p> <p>mmの書き方の練習をする。 1cm=10mm</p> <p>3. はがきの縦の長さをしらべましょう。 『14cm8mm』</p> <p>4. 教科書P45の5, 6, 7の問題を解く。</p>	<p>1. 長さを見積もらせる。 →ワークシート1</p> <p>定規ではなく、前時に使った紙のものさしを使って測らせましょう。</p> <p>→ワークシート2 (10分)</p> <p>2. いくつに分けるとよいかを考えさせる。</p> <p>紙のものさしを操作し、書きこみながら考えさせましょう。</p> <p>友達と一緒に考えさせる。 (20分)</p> <p>mmについて知る。 (30分)</p> <p>→ワークシート3</p> <p>3. ものさしの使い方を見て回る。 (35分)</p> <p>4. 個別にかかわる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ものさしの端を、測ろうとするもの一方の端に**きちんとそろえる**。
- ・**めもりを上にする**。

III 子どもにさせる算数的活動のポイン

- ・ものさしの使い方をしっかりと定着させましょう。

IV 板書計画

問題

よこの長さ
たての長さ

指導のポイントを書く。

ものさしを拡大したもの

まとめ



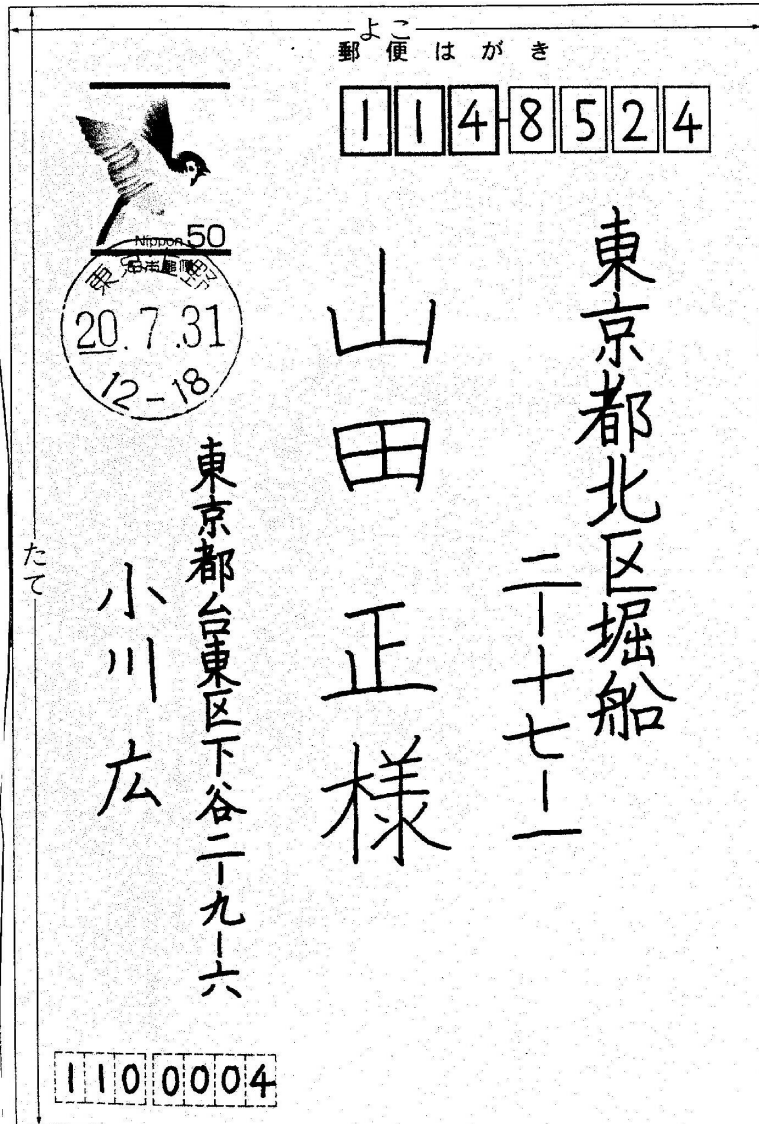
月

日()

時間目

名前

はがきの よこと たての 長さを しらべましょう。



<よそう> ワークシート1

よこ～

たて～

<よこの長さ>

<たての長さ>

ワークシート2

目標

・長さを測定でき、指定された長さの直線をものさしを使ってひくことができる。
(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 線の長さは、何cm何mmですか。また、何mmですか。</p> <p>ものさしのめもりを読む。 『7cm5mm』 「7cm5mmは何mmですか。」 $1\text{cm} = 10\text{mm}$だから、$7\text{cm} = 70\text{mm}$ $70\text{mm} + 5\text{mm} = 75\text{mm}$ ②を解く。 $68\text{mm} = 6\text{cm}8\text{mm}$</p>	<p>1. cmとmmの関係をもとにして考えさせる。 →ワークシート1 (8分)</p>
<p>2. まっすぐな線を 直線と いいます。</p> <p>3. P47の8、9の問題を解く。</p> <p>4. ものさしをつかって、10cmの 直線をひきましょう。</p>	<p>2. (10分) 3. 個別にかかわる。 (15分) 4. ずれないように気をつけてひく練習をする。 (25分)</p>
<p>→ワークシート2</p> <p>P46, P47の下の写真を見ながら、丁寧に直線をひく。</p> <p>5. P47の10の問題を解く。</p> <p>6. アの線とイの線の長さをくらべましょう。</p> <p>「アとイの線の長さは、どれだけですか。」 『曲がっているから、直線部分を測ってたしてみよう。』 アは、$4\text{cm} + 3\text{cm} = 7\text{cm}$ イは、$4\text{cm}5\text{mm} + 4\text{cm} = 8\text{cm}5\text{mm}$ 「どちらがどれだけ長いですか。」 『ひき算を使おう。』 $8\text{cm}5\text{mm} - 7\text{cm} = 1\text{cm}5\text{mm}$</p>	<p>6. 直線部分を測ってたとよいことに気付かせる。 (40分)</p>
<p>7. p48の1の問題を解く。 8. p50, 51は宿題にする。</p>	<p>7 単位をそろえさせる。 (45分)</p>

ひもを使ってピンと伸ばし直線を意識させるとよいでしょう。

長さは数字であらわすことができるのでたしたり引いたりすることができることに気付かせましょう。

II 指導のポイント

・ものさしを使って測ったり直線をひいたりするときに個をしっかりと見取り習熟させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・ものさしを使う活動を丁寧にいきましょう。

IV 板書計画

問題

7 c m 5 m m

7 0 m m 5 m m

7 5 m m

問題

長さの計算

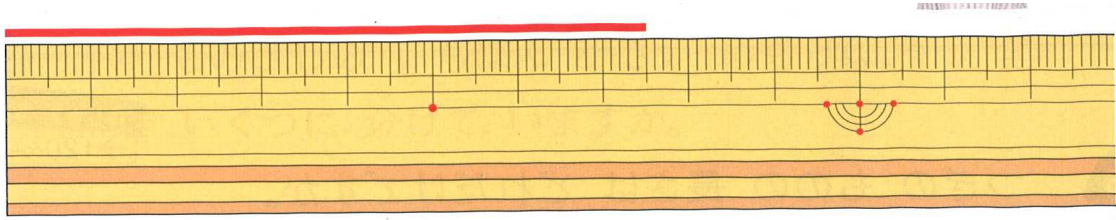


月 日() 時間目 名前

線の長さは 何cm何mmですか。

また、何mmですか。

ワークシート1



ものさしを つかって、10cmの 直線を ひきましょう。

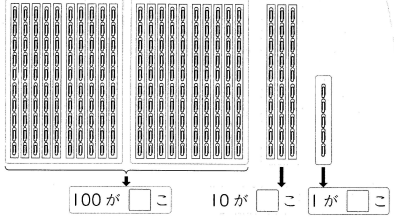
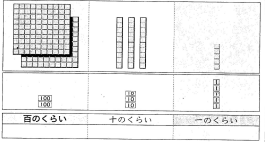
ワークシート2

目標

・2位数の表し方から類推して、3位数の表し方を考えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. クリップは 何こ ありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1個ずつ数えていく。 ・2とび、5とびで数える。 ・10のまとまりに分けて数えていく。 ・10のまとまりを10個集めて100のまとまりを作る。 <p>2. 数えた方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1個ずつ数えるよりもまとめて数える方がよい。 ・2個ずつ(5個ずつ)数えると10のまとまりを作りやすい。 ・10のかたまりを作るとよい。 ・10のまとまりが10個集まると100になる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>百を2こ あつめた 数を、二百と いいます。 二百と 三十五を あわせた 数を、二百三十五と いいます。</p> </div> <p>3. 二百三十五を数字で書きましょう。</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> <p>2位数の時の位の部屋を思い出させ、百の位を作らせるとよいでしょう。</p> </div> <p>百の位、十の位、一の位の数字を確認する。</p>	<p>1.</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>各自にクリップが2 3 5個ずつあたるように準備しましょう。クリップでなくてもよいです。</p> </div> <p>2とび、5とびで数えるよさを認めてあげる。 (10分)</p> <p>2. それぞれの工夫を交流させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>かたまりを、しっかりと意識させましょう。</p> </div> <p>➡ワークシート1 (30分)</p> <p>3. 位取りを意識させる。 それぞれの位の部屋に数字を入れさせる。 (45分)</p> <p>➡ワークシート2</p>

II 指導のポイント

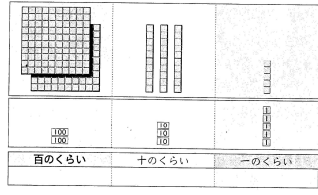
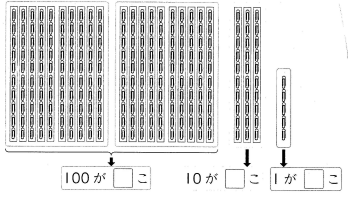
- ・数える活動をたっぷりと保障しましょう。
- ・100, 10, 1のカードをそれぞれ9枚ずつ用意して、最後に時間が余ったら、カードをそれぞれ何枚かずつ出して数字を書かせるとよいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・実際に具体物を用いて数を数え、まとまりを作る活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

問題



まとめ



月 日() 時間目 名前

クリップは 何こ ありますか。

ワークシート1

100が こ 10が こ 1が こ

数字で書きましょう。

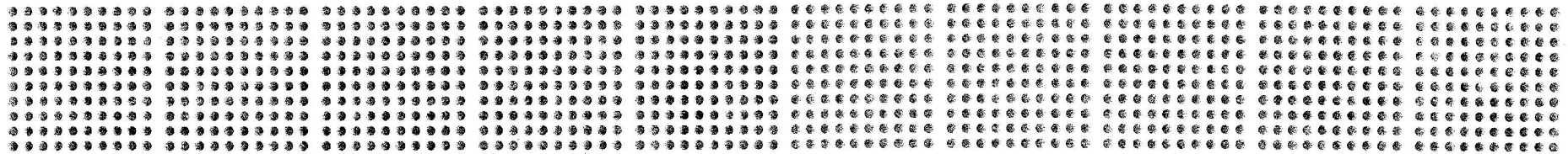
ワークシート2

<input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
百のくらい	十のくらい	一のくらい

月 日() 時間日 名前

下の ●は 何こ ありますか。

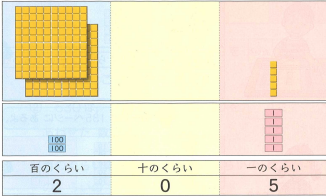
ワークシート



目標

・空位のある3位数の記数法を理解する。 (数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点																		
<p>1. □の 数を 数字で 書きましょう。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>十の位に入っていないことに気付く。</p> </div> </div> <p>「位の部屋に数字を入れましょう。」 『十の位の部屋には何もないから、0が入る』 205と書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">二百五は、205と書きます。</div> <p>2. P55の1, 2, 3の問題を解く。 終わった子は、P121のセを解く。</p> <p>3. カードを ならべて、数を あらわしました。 それぞれ いくつを あらわして いますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" data-bbox="244 1160 518 1288"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>百のくらい</td> <td>十のくらい</td> <td>一のくらい</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="667 1160 925 1288"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>百のくらい</td> <td>十のくらい</td> <td>一のくらい</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> </div> <p>「100, 10, 1は、それぞれいくつありますか。」 『100が8, 10が4, 1が7』 『100が5, 10が10, 1が3』 『10が10で、100』</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <p>847</p> <p>603</p> </div> <p>4. ③の問題を解く。 5. P57の4, 5, 6, 7の問題を解く。</p>				百のくらい	十のくらい	一のくらい							百のくらい	十のくらい	一のくらい				<p>1. 図を見て位の部屋に数字を入れさせる。 →ワークシート1 (10分)</p> <p>何も無いことを表す0を数として認めることが、このポイントです。</p> <p>2. 個別にかかわる。 (20分)</p> <p>3. 2つ問題を一緒に考えさせる。</p> <p>10が10個で百の位に繰り上がることに気付かせましょう。 →ワークシート2 (30分)</p> <p>4. P135のカードを使う。 (35分)</p> <p>5. 個別指導 (45分)</p>
百のくらい	十のくらい	一のくらい																	
百のくらい	十のくらい	一のくらい																	

II 指導のポイント

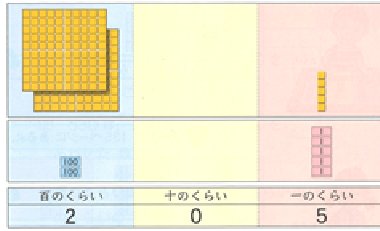
- ・図と照らし合わせて、位取りに気をつけながら、数字を入れるようにしましょう。
- ・二百五を、200と5を続けて読み、2005と書く場合があるので0を数として認めさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

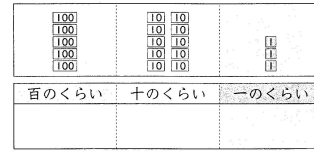
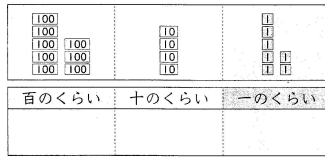
- ・わからない子には、実際にブロックを使って考えさせましょう。

IV 板書計画

問題



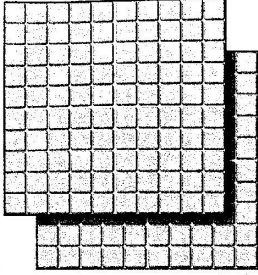



問題



月 日() 時間目 名前

□は 何こ ありますか。数字で 書きましょう。

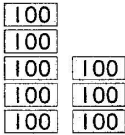


ワークシート1

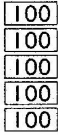
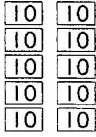

		
		
百のくらい	十のくらい	一のくらい

数カードを ならべて、数を あらわしました。

それぞれ どんな 数を あらわして いますか。

ワークシート2

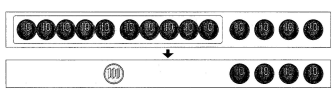
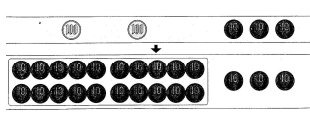
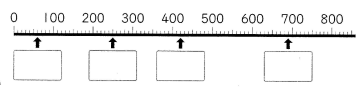
		
百のくらい	十のくらい	一のくらい

		
百のくらい	十のくらい	一のくらい

目標

- ・10や100のまとまりに着目して数をとらえることができる。(数学的な考え方)
- ・1000までの数の系列、順序について理解する。(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. 10を14こあつめた数はいくつですか。</p> <p>「ワークシートに自分の考えを書きましょう。」</p> <p>① </p> <p>② 10が14こ 10が10こ → 100 10が4こ → 40 140</p>	<p>1. 図や数を用いて考えさせる。</p> <p>→ワークシート1 (10分)</p> <p>二つを結びつけて説明できるとよいでしょう。</p>
<p>2. P58問題8の①を解く。</p> <p>3. 230は、10を何こあつめた数ですか。</p> <p>「ワークシートに自分の考えを書きましょう。」</p> <p>① </p> <p>② 230 200 → 10が20こ 30 → 10が3こ 10が23こ</p>	<p>2. 個別指導。(15分)</p> <p>3. 図や数を用いて考えさせる。(25分)</p> <p>→ワークシート2</p> <p>二つを結びつけて説明させましょう。</p>
<p>4. P58問題8の②を解く。</p> <p>5. 下の数の線を見て答えましょう。</p> <p></p> <p>「一番小さい1めもりはいくつですか。」 『100を10に分けているから10だ。』 「□に数を入れましょう。」 「550, 790のめもりに、→を書きましょう。」</p> <p>6. P59問題9を解く。</p>	<p>4. 個別指導。(30分)</p> <p>5. 今後数直線は重要なものとなります。丁寧に扱しましょう。</p> <p>1めもりに着目させましょう。</p> <p>→ワークシート3 (40分)</p> <p>6. 個別指導。(45分)</p>

II 指導のポイント

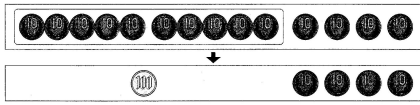
- ・図と数字を関連付けて説明することができるようにしましょう。
- ・数直線の一めもりに着目させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

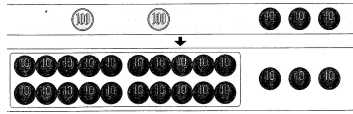
- ・図を自分でかいて考えること、数直線を使うことに慣れさせることが大切です。

IV 板書計画

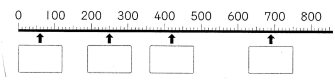
問題



問題



問題



月 日() 時間目 名前

10を 14こ あつめた 数は いくつですか。

<自分の考え>

ワークシート1

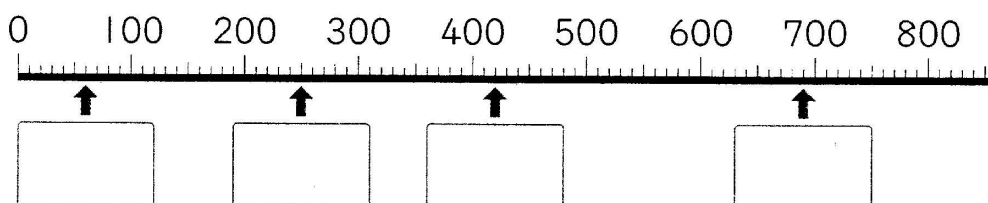
230は、10を 何こ あつめた 数ですか。

<自分の考え>

ワークシート2

下の 数の線の □に 数を 書きましょう。

ワークシート3



月

日()

時間目

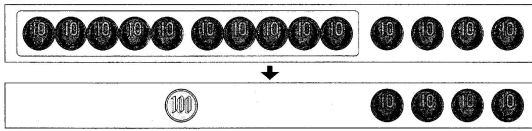
名前

解答

10を 14こ あつめた 数は いくつですか。

<自分の考え>

ワークシート1

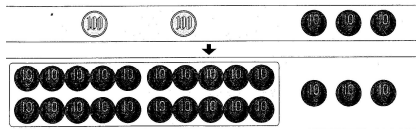


10が14こ 10が10こ → 100
 10が 4こ → 40 140

230は、10を 何こ あつめた 数ですか。

<自分の考え>

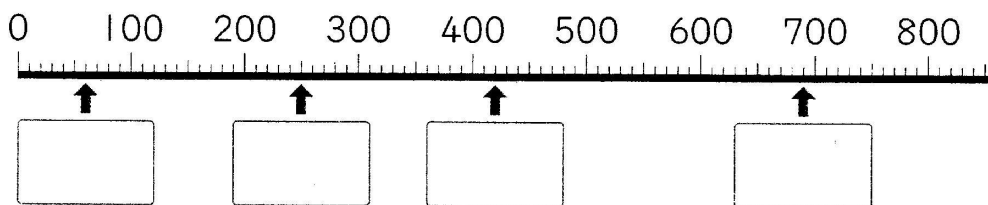
ワークシート2



230 200 → 10が20こ
 30 → 10が 3こ 10が23こ

下の 数の線の □に 数を 書きましょう。

ワークシート3



目標

・1000までの数の系列、順序について理解することができる。

(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 下の ● は ぜんぶで 何こ ありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの●を数える。 ・どのように数えたかを、ワークシートに記入する。 『百が10個ある。』 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">百を10個集めた数を千といい、1000と書きます。</div> <p>「教科書の下の数線の一番小さい1めもりはいくつでしょう。」 『1めもりは10』</p> <p>2. P60 10の問題を解く。 P61の数線の□に数を書きましょう。</p> <p>3. 3にんは、780を 下のように あらわしました。 □に あてはまる 数 を 書きましょう。</p> <p>「教科書の数線の780のところに ↓ をかきましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・780は、700と80をあわせた数です。 ・780は、800より20小さい数です。 ・780は、10を78こあつめた数です。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">1つの数でも、いろいろな見方ができる。</div> <p>4. 様々な数に指を置かせ読ませる。</p>	<p>1. かたまりを意識させるため、自由にワークシートに記入させ考えさせる。→ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">百のかたまりを意識させましょう。</div> <p style="text-align: right;">(15分)</p> <p>2. 個別に関わる。 (25分)</p> <p>3. 教科書を見ながら考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;">数直線を見ながら、関連づけて考えさせましょう。</div> <p style="text-align: right;">(40分)</p> <p>4. 教科書を見ながら読ませる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・100のかたまりを意識させることが大切です。
- ・1000を多様に見ることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・数直線と関連付けて、数を見ることが大切です。

IV 板書計画

問題

教科書P60の上の図を書く。

まとめ

問題

しほの考え

みさきの考え

りくの考え

まとめ



目標

・10や100を単位とした何十、何百の加減計算ができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 50 + 70の 答えは いくつですか。</p> <p>・10の束をもとにして考える。 50は10の束が5, 70は10の束が7 $5 + 7 = 12$ 10の束が12で120</p> <p>2. 120 - 30の計算のしかたをいみましょう。</p> <p>・10の束をもとにして考える。 120は10の束が12, 30は10の束が3 $12 - 3 = 9$ 10の束が9で90</p> <p>3. P62の1の問題を解く。</p> <p>4. 300 + 200の計算のしかたを考えましょう。</p> <p>・100の束をもとにして考える。 300は100の束が3, 200は100の束が2 $3 + 2 = 5$ 100の束が5で500</p> <p>5. 600 - 200の計算のしかたを考えましょう。</p> <p>・100の束をもとにして考える。 600は100の束が6, 200は100の束が2 $6 - 2 = 4$ 100の束が4で400</p> <p>6. P63の2の問題を解く。</p> <p>7. ① 500 + 30 ② 530 - 30の計算のしかたを考えましょう。</p> <p>① 10の束で考えると、$50 + 3 = 53$ で530 500と30で530</p> <p>② 530は100が5と10が3で、10を3個ひくから500 10や100のたばで考えるとよい。</p> <p>8. P63の3の問題を解く。</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">この時間は、教科書の図をもとにして考えさせましょう。</p> <p>1. 10をもとにすることを把握させる。 (10分)</p> <p>2. 10の束を意識させる。 (15分)</p> <p>3. 終わった子はp122のタの問題を解く。 (20分)</p> <p>4. 100をもとにすることを把握させる。 (30分)</p> <p>6. 終わった子はp122のソの問題を解く。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">100が5と10が3で、5 + 3だから80(800)と考える子には、5や3の単位が何か考えさせましょう。</p>

II 指導のポイント

- ・10や100をもとにして考えるとよいことを図をもとにして考えさせましょう。
- ・教科書の図を利用しましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・教科書の図と結び付けて考えさせることが大切です。

IV 板書計画

問題

問題

問題

問題

問題

子どもの考え

10や100のたばで考えるとよい。



目標

・数の大小を不等号を用いて表すことができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動

留 意 点

1.

3つの学校の子どもの人数をくらべましょう。
東小学校 398人 西小学校 412人
南小学校 465人

「東小学校と西小学校の人数、東小学校と南小学校の人数をくらべましょう。」

『西小学校の方が多い。』『南小学校の方が多い。』

2.

どのようにして大きさを決めましたか説明しよう。

『東小学校は、百の位が3で、他は4なので一番人数が少ない。』

『西小学校と南小学校は、両方とも百の位が4だ。』

『西小学校と南小学校は十の位を見るとわかる。』

数の大小は つぎのようなしるしを つかって あらわします。

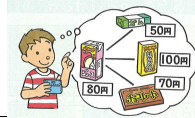
$412 > 398$ 「412は398より大きい」

$412 < 465$ 「412は465より小さい」

3. P64の1を解く。

4.

ひろしさんは150円もっています。80円のジュースとおかきを1こ買います。
どのおかしが買えますか。



ジュースとガム $80 + 50 = 130$

ジュースとキャラメル $80 + 100 = 180$

ジュースとチョコレート $80 + 70 = 150$

ガムかチョコレートが買える。

150は80+50より大きいことを、

しきで $150 > 80 + 50$ と 書きます。

$150 > 80 + 50$ 「150は80+50より大きい」

$150 < 80 + 100$ 「150は80+100より小さい」

$150 = 80 + 70$ 「150は80+70と大きさが同じ」

5. P65の2を解く。

1. 2つずつ比べさせる。

→シート1

(8分)

2. 理由をはっきりさせて説明させるようにする。

→シート2

位に着目させるようにする。

百	十	一
3	9	8
4	1	2
4	6	5

に記入して考える
とよいでしょう。

(25分)

3. 個別に関わる。(30分)

4. 順番に計算して数字を比べさせる。

不等号を使った式が書けるようにする。

→シート3

(40分)

5. P66, 67は宿題。

II 指導のポイント

- ・位に着目すると大きさがくらべられることに気付かせましょう。
- ・不等号の使い方を身につけさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・位取り表に記入させて位ごとに数字をくらべていく活動大切にしましょう。

IV 板書計画

問題

問題

位取り表
まとめ

買ったものの式
まとめ



月 日() 時間目 名前

3つの学校の子ども的人数をくらべましょう。



人数を いれましょう。シート1

百	十	一	

東小

西小

南小

<東小学校と西小学校、東小学校と南小学校をくらべましょう。>

<どのようにしてくらべたかを説明しましょう。> シート2

<まとめ>

月

日()

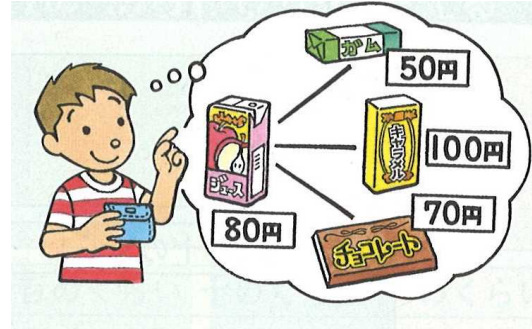
時間目 名前

ひろしさんは、150円 もって います。

80円の ジュースと おかしを 買おうと して います。

どの おかしが 買えますか。

たし算を して 考えましょう。



シート3

*ジュースとガム

*ジュースとかキャラメル

*ジュースとチョコレート

買えるものは、()

<まとめ>

月 日() 時間目 名前 解答

3つの学校の子ども的人数をくらべましょう。



人数を いれましょう。シート1

	百	十	一
東小	3	9	8
西小	4	1	2
南小	4	6	5

<東小学校と西小学校、東小学校と南小学校をくらべましょう。>

<どのようにしてくらべたかを説明しましょう。> シート2

百の位の数字で比べる。

西小と南小は百の位が4で同じ。十の位の数字を見る。

<まとめ>

数の大小は つぎのようなるしを つかって あらわします。

412 > 398 「412は398より大きい」

412 < 465 「412は465より小さい」

月

日()

時間目

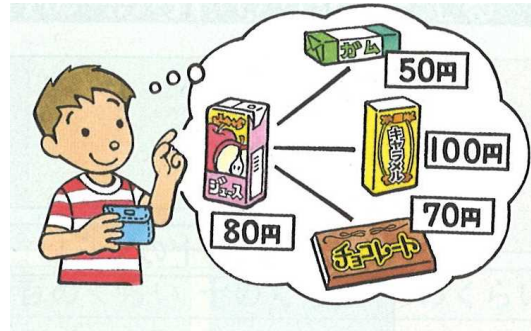
名前

解答

ひろしさんは、150円 もって います。

80円の ジュースと おかしを 1こ 買います。

どの おかしが 買えますか。



シート3

*ジュースとガム

$$80 + 50 = 130$$

*ジュースとかキャラメル

$$80 + 100 = 180$$

*ジュースとチョコレート

$$80 + 70 = 150$$

買えるものは、(ガムかチョコレート)

<まとめ>

150は80+50より大きいことを、
しきで $150 > 80 + 50$ と 書きます。
 $150 > 80 + 50$ 「150は80+50より大きい」
 $150 < 80 + 100$ 「150は80+100より小さい」
 $150 = 80 + 70$ 「150は80+70と大きさが同じ」

目標

・長さの学習経験を生かし、数値化することのよさや普遍単位の必要性をふまえ、かさのくらべ方や表し方を考えることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点								
<p>1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> どちらの水とうが、どれだけ多く水が入るでしょう。 </div> <p>2~3人のグループを作って比べさせる。</p> <p>①一人の水筒に水を入れて、友達の水筒に入れ移して比べていく。</p> <p>②水槽など一つの入れ物に移し変えて高さで比べる。</p> <p>③同じ入れ物に入れて、何杯入るかで比べる。</p> <p>*1年の時の学習を思い出し、どれだけ多いかを知るには③の方法がよいことに気付かせていく。</p> <p>2. それぞれ何杯入ったかを発表させる。</p> <p>①コップで7杯と6杯ちょっとで、1杯くらいAさんが多い。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 5px;">Aさん</td> <td style="padding: 5px;">B君</td> <td style="padding: 5px;">Cさん</td> <td style="padding: 5px;">D君</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">7はい</td> <td style="padding: 5px;">6はい</td> <td style="padding: 5px;">12はい</td> <td style="padding: 5px;">5はい</td> </tr> </table> <p>『Cさんが一番だ。』 「日本の友達とも、比べることができるだろうか。」 『長さの時と同じように、単位があると便利だ。』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>水などのかさは、1デシリットルがいくつ分あるかであらわします。 デシリットルは かさのたんいで、dLと書きます。</p> </div> <p>3. P70の1を解く。</p> <p>4. 時間があつたら、いろいろな入れ物を1dLのますで測る。</p>	Aさん	B君	Cさん	D君	7はい	6はい	12はい	5はい	<p>1. 1年の時の学習を想起させる。</p> <p style="text-align: center;">(10分)</p> <p>2. 数値で比べる良さを実感させる。</p> <p style="text-align: center;">→シート1</p> <p style="text-align: center;">(25分)</p> <p style="text-align: center;">どこでも、だれでもわかるためには共通の単位が必要であることに気付かせる。</p> <p style="text-align: center;">→シート2</p> <p style="text-align: center;">(35分)</p> <p style="text-align: center;">(45分)</p>
Aさん	B君	Cさん	D君						
7はい	6はい	12はい	5はい						

II 指導のポイント

- ・1年の学習が既習となるので、同じ大きさの入れ物で比べることの必要性を思い出させてから操作させましょう。
- ・単位の必要性を、長さの時を想起し実感させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・実際に測る活動を丁寧に行いましょう。
- ・正確に、こぼさず、めもりを見て測らせましょう。

IV 板書計画

問題

子どもの結果の表

まとめ



月

日()

時間目 名前

どちらの水とうが、どれだけ多く入るでしょう。

シート1

なまえ	かさ (何はい)

()さんが()はい多い。

シート2

<まとめ>

<れんしゅう>

.....

.....

.....

.....

.....

.....

目標

- ・ 1 L = 10 d L の関係が分かり、L を用いてかさを表すことができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 下の紙パックに 入る水のかさをしらべましょう。</p> <p>「紙パックに入る水のかさを測りましょう。」 紙パックに水を入れ、何 d L 入るか d L ますで測る。</p> <p>1 5 d L 入る。2 7 d L 入る。・・・</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大きなかさをあらわすときは、リットルというたんいをつかいます。 リットルは L と書き、1 L は 1 0 d L です。</p> </div> <p>2. L ますと、d L ますで、もう一度測らせる。 1 5 d L = 1 L 5 d L 2 7 d L = 2 L 7 d L 『リットルますで測ると、大きなかさの時に楽に測ることができる。』</p> <p>3. いろいろな入れ物に入る水のかさを、L ますと d L ますを使って測りましょう。(ワークシート)</p> <p>4. P 7 3 の 2 3 を解く。</p>	<p>1. d L ますで測らせる。 (10分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>1 L 以上入る紙パックを準備しましょう。 2 種類以上あるといいでしょう。</p> </div> <p>2. 一人一人しっかりと測る活動を保障する。 (25分)</p> <p>3. 色々な入れ物を準備しておく。(35分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>たっぷりと水のかさを測る時間を保障してあげましょう。</p> </div> <p>4. 教科書に記入する。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ この時間は測る活動をしっかりとさせることが大切です。
- ・ 一人一人しっかりと測る活動をさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 身の回りにあるものの体積について、およその見当をつけたりしながら測定させることが大切です。

IV 板書計画

問題

測った結果

まとめ



目標

・ミリリットルについて知り、かさの和や差を加法・減法を用いて求めることができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ペットボトルに 入る 水のかさをしらべましょう。</p> <p>「かんに入る水のかさを測りましょう。d Lますと、Lますのどちらを使いますか。」</p> <p>『d Lマスを使う。』</p> <p>どちらのますがよいのか見当をつけさせることが大切です。</p>	<p>1. d Lますを使い、はしただが出ることに気付かせる。</p> <p>(10分)</p>
<p>2. 『1 d Lより少ないはしただがある。』</p> <p>d Lより少ないかさをあらわすために ミリリットルがあります。ミリリットルは mLと書き、1000mLは、1Lです。</p> <p>mLマスを使って測る。</p>	<p>2. mLについて教える。</p>
<p>3. 1000mLの、紙パックに水を入れて1Lマスに移してみましょう。</p>	<p>(25分)</p>
<p>4. P74 問題4を解く。</p>	<p>4. 個別にかかわる。</p> <p>(27分)</p>
<p>5. アの水とうには1L3dL、イの水とうには1Lの水が入ります。</p> <p>① 水はあわせてどれだけになりますか。</p> <p>② 2つの水とうに入る水のかさのちがいはどれだけですか。</p> <p>$1L3dL + 1L = 2L3dL$</p> <p>$1L3dL - 1L = 3dL$</p>	<p>5. かさについても加法・減法ができることに気付かせる。</p> <p>単位でまとめて考えるよさに気付かせる。</p> <p>(40分)</p>
<p>6. P75の5を解く。</p> <p>P76, 77は宿題にする。</p>	<p>6. 個別にかかわる。</p> <p>(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・加法減法は、単位に気をつけて計算することを徹底させましょう。
- ・教科書に答えを書きこませましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・かさを測る活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

問題

かんに入る水のかさ

加法減法

式と答えを板書
子どもに書かせる

まとめ



目標

・時計を見て時刻と時間を読み取ることができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 「時計を見て時刻を答えましょう。」 ワークシートに時刻を書き込む。</p> <p>2. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">りえさんが、家を出てから、バスにのるまでに かかった時間は 何分ですか。</div></p> <p>『家を出た時刻は、9時。』 『バスに乗った時刻は、9時15分』 『バスにのっていた時間は、10分。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ある時刻からある時刻までの間を時間という。</div> <div style="text-align: center; margin: 10px auto;"> </div> <p>3. 「りえさんが 歩きはじめてから、ゴールに着くまでにかかった時間はどれだけですか。」 『ゴールに着いた時刻は11時。』 『長い針が一回りする。』『60分』『1時間』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">1時間=60分</div> <p>4. ワークシートに時間を書き込みましょう。</p> <p>5. P81の1、2の問題を解く。</p> <p>6. 「起きた時刻、家に帰った時刻は何時ですか。」 『どちらも6時だ。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">昼の12時を正午といい、その前を午前、あとを午後という。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ワークシート②を見て時刻と時間を考えましょう。</div> <p>「1日は、何時間ですか。」 『24時間』</p> <p>7. p83⑤⑥の問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">1日=24時間</div>	<p>1. 1年の学習が定着していない子にかかわる。 →シート① (5分) 時刻のみを記入させる。</p> <p>2. 時計があれば、実際に使って指導する。 →シート① (15分) 時間を記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 20px auto;">時計と数直線とを関連づけて考えさせるとよいでしょう。</div> <p>3. →シート①に記入 (22分)</p> <p>4. →シート①に記入 (35分)</p> <p>5. 個別に関わる。 (38分)</p> <p>6. →シート② 時刻を記入する。→シート② 正午、午前、午後を記入する。 (45分)</p> <p>7. 時間がなければ宿題。</p>

II 指導のポイント

- ・時計を事前に準備しておくとういでしょう。
- ・数直線と時計を関連付けて指導すると時間がわかりやすいでしょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・時計の長針の動きを、ワークシートを使って考えさせることが大切です。

IV 板書計画

時こくと時間

問題

ワークシート①の拡大コピー

ワークシート②の拡大コピー

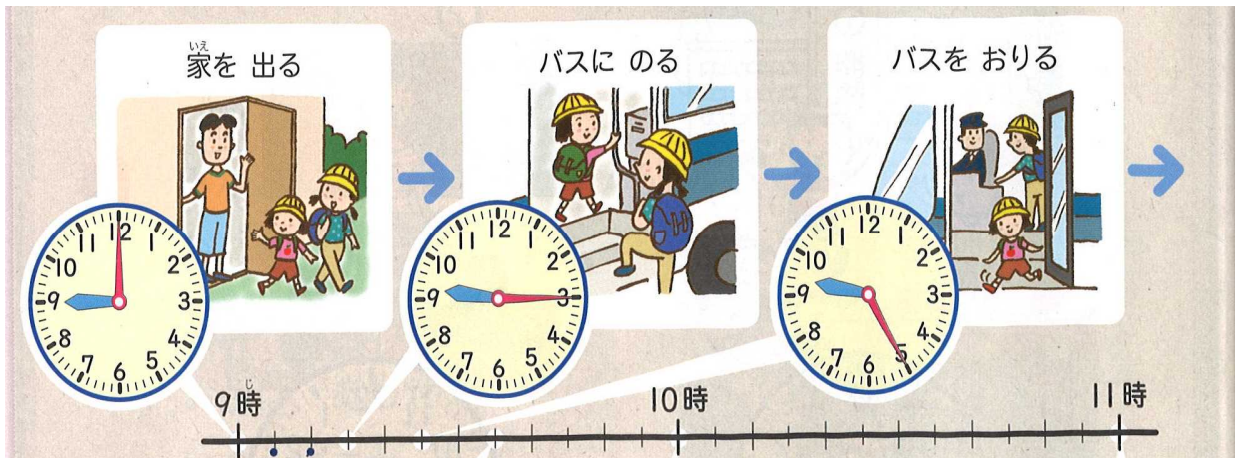
1時間 = 60分 1日 = 24時間



月 日() 時間目 名前 解答

時計を見て考えましょう。

ワークシート1



時こく

(9時)

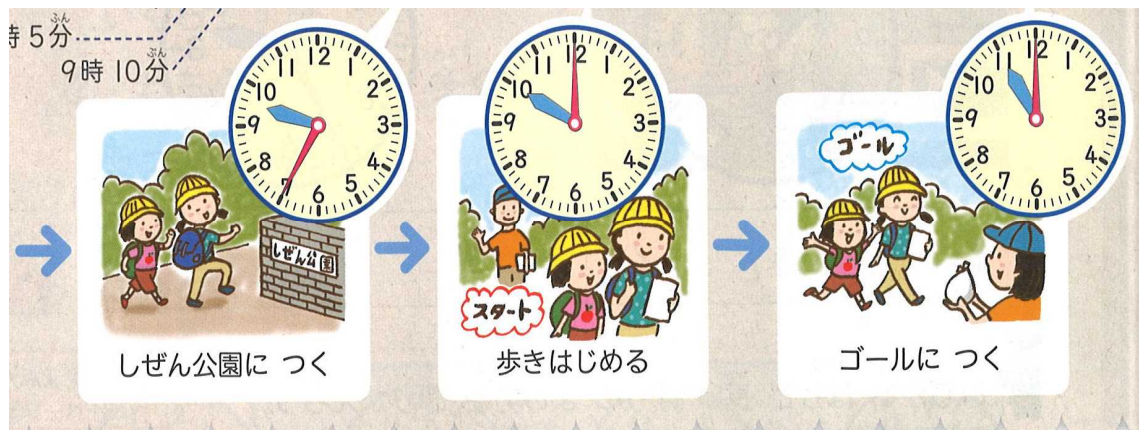
(9時15分)

(9時25分)

時間

(15分)

(10分)



時こく

(9時35分)

(10時)

(11時)

時間

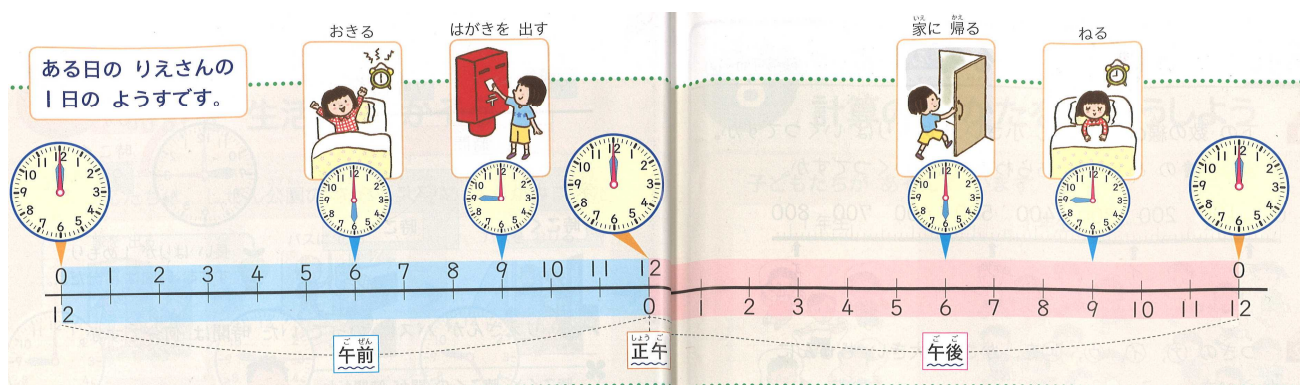
(1時間・60分)

*ほかの時間も考えてみましょう。

月 日() 時間目 名前

起きた時こく、家に帰った時こく何時ですか。

ワークシート2

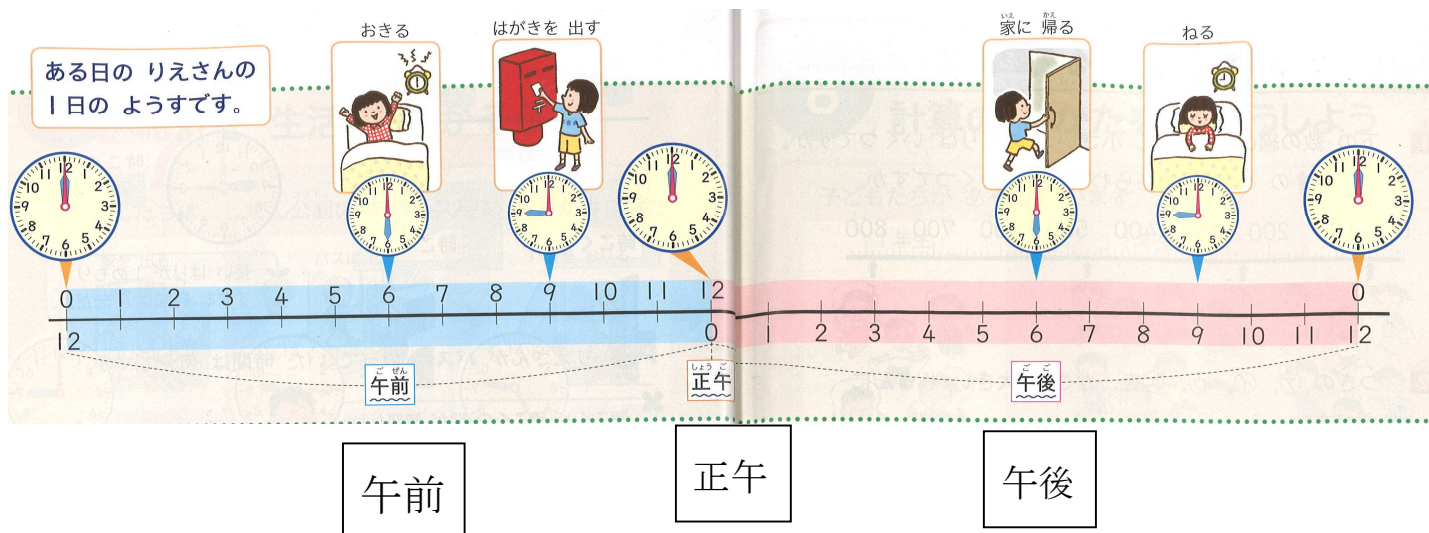


<時こく> () ()

1日 = () 時間

月 日() 時間目 名前 解答

起きた時こく、家に帰った時こく何時ですか。



<時こく>

(6 時)

(6 時)

1 日 = (2 4) 時間

目標

・() を使うよさを考えることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 校ていで、1年生が7人あそんでいます。そこへ、1年生が12人 2年生が8人きました。校ていには、みんなで何人いますか。</p> <p>「式を考えましょう。」 『7+12+8です。』</p> <p>2. 計算のしかたをくふうしよう。</p> <p>① 最初に遊んでいた人を先に計算する。 $7+12=19$ $19+8=27$ 27人 7 12 8</p> <p>② 2年生を先に計算する。 $12+8=20$ $20+7=27$ 27人 7 12 8</p> <p>2年生を先に計算した方が、簡単だ。</p>	<p>1. 前時の計算を想起させる。 (5分)</p> <p>→シート1</p> <p>2. 二通りの計算の仕方を自分で考える。 →シート2 二通りの考え方をくらべさせ説明できるようにする。</p>
<p>たし算では、たすじゅんじよをかえても、答えは同じになります。</p> <p>3. しほさんの考えを1つの式にします。 () は ひとまとまりの数をあらわし、先に計算します。</p> <p>4、P86 4の問題を解く。</p>	<p>(35分)</p> <p>3. 考えを説明できるようにする。 (42分)</p> <p>4 個別にかかわる。 (45分)</p>

2年生を先に計算すると何十となり、簡単に計算をすることができることに気付かせましょう。

II 指導のポイント

- ・考え方を自分の言葉で説明できるようにしましょう。
- ・図を書いて式と結び付けると説明がわかりやすくなります。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・図と式を結びつけて考えさせましょう。

IV 板書計画

問題

子どもの考え 1
(書かせる)

問題

子どもの考え 2
(書かせる)

まとめ



月

日()

時間目 名前

校でいて、1年生が7人あそんでいます。

そこへ、1年生が12人

2年生が8人きました。

校でいには、みんなで何人いますか。

<しき>**シート1**

<計算のしかたを 考えよう。>**シート2**

<しきを一つにしよう>**シート3**

まとめ

月

日()

時間目

名前

解答

校でいて、1年生が7人あそんでいます。

そこへ、1年生が12人

2年生が8人きました。

校には、みんなで何人いますか。

<しき>シート1

$$7 + 12 + 8$$

<計算のしかたを 考えよう。>シート2

- ① 最初に遊んでいた人を先に計算する。

$$7 + 12 = 19 \quad 19 + 8 = 27 \quad 27 \text{人}$$

7	12	8
---	----	---

- ② 2年生を先に計算する。

$$12 + 8 = 20 \quad 20 + 7 = 27 \quad 27 \text{人}$$

7	12	8
---	----	---

<式を一つにしよう>シート3

$$(7 + 12) + 8 = 27$$

$$7 + (12 + 8) = 27$$

まとめ

計算のじゅんじょをかえても、答えは 同じに なる。

() はひとまとまりの数をあらわし、先に計算します。

目標

- ・3口の加法計算で結合法則が成り立つことや()の使い方がわかる。
(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. P87 1、2の問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まきさんは、15円のあめと40円のけしゴムを買いました。えんぴつを買いわすれたので、店にもどり、30円のえんぴつを買いました。ぜんぶで、いくら つかいましたか。</p> </div> <p>「式を考えましょう。」 『$15 + 40 + 30$です。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content; margin-left: 40px;"> <p>3つの数のたし算のしかたを考えよう。</p> </div> <p>2.</p> <p>① 初めに買った分を先に計算する。</p> <p>$15 + 40 = 55$ $55 + 30 = 85$ だから $15 + 40 + 30 = 85$ 85円</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">15</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">40</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">30</div> </div> <p>② 文房具を先に計算する。</p> <p>$40 + 30 = 70$ $15 + 70 = 85$ だから $15 + 40 + 30 = 85$ 85円</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">15</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">40</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">30</div> </div> <p>3. $(15 + 40) + 30 = 85$ (はじめに買った分) $15 + (40 + 30) = 85$ (文ぼうぐのだい金)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content; margin-left: 40px;"> <p>()をつかうと、考えを もっとわかりやすくしきに あらわせるね。</p> </div>	<p>1. 個別にかかわる。 (5分) 2. 3つの数のたし算であることに着目させる。 (14分)</p> <p>➡シート1</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; width: fit-content; margin-left: 40px;"> <p>二つの方法の違いを、筋道だてて説明することが大切です。</p> </div> <p>2. 計算のくふうを考えさせる。 (30分)</p> <p>➡シート2</p> <p>3. ()の使い方を知らせる。 (40分)</p> <p>4. まとめ。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・たす順序を式と結び付けて説明させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからない子には、ブロックやテープ図を使って考えさせるとよいでしょう。

IV 板書計画

問題

子どもの考え 1
(書かせる)

子どもの考え 2
(書かせる)

まとめ



月

日()

時間目 名前

まきさんは、15円の あめと 40円の けしゴムを
買いました。

えんぴつを 買いわすれたので 店に もどり、

30円の えんぴつを 買いました。

ぜんぶで いくら つかいましたか。

<しき>シート1

計算の しかたを 考えましょう。

シート2

まとめ

月

日()

時間目

名前

解答

まきさんは、15円の あめと 40円の けしゴムを
買いました。

えんぴつを 買いわすれたので 店に もどり、

30円の えんぴつを 買いました。

ぜんぶで いくら つかいましたか。

<しき>シート1

$$15 + 40 + 30$$

計算の しかたを 考えましょう。

シート2

- ① 初めに買った分を先に計算する。

$$15 + 40 = 55 \quad 55 + 30 = 85 \quad \text{だから}$$

$$15 + 40 + 30 = 85 \quad 85 \text{円}$$

15	40	30
----	----	----

- ② 文房具を先に計算する。

$$40 + 30 = 70 \quad 15 + 70 = 85 \quad \text{だから}$$

$$15 + 40 + 30 = 85 \quad 85 \text{円}$$

15	40	30
----	----	----

$$(15 + 40) + 30 = 85$$

(はじめに買った分)

$$15 + (40 + 30) = 85$$

(文房具の代金)

まとめ

()をつかうと、考えを もっとわかりやすく しきに あらわせるね。

目標

- ・ 簡単な加減の暗算ができる。 (数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 26 + 7の 計算の しかたを 考えましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 26 \\ 20 \end{array} + 7 = 33$ <p>① $6 + 7 = 13$ ② $20 + 13 = 33$</p> </div> <div style="text-align: center;"> $26 + \begin{array}{r} 7 \\ 4 \end{array} = 33$ <p>① $26 + 4 = 30$ ② $30 + 3 = 33$</p> </div> </div> <p>2. P88の1を解く。</p> <p>3. 42 - 7の 計算の しかたを 考えましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 42 \\ 30 \end{array} - 7 = 35$ <p>① $12 - 7 = 5$ ② $30 + 5 = 35$</p> </div> <div style="text-align: center;"> $42 - \begin{array}{r} 7 \\ 2 \end{array} = 35$ <p>① $42 - 2 = 40$ ② $40 - 5 = 35$</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>数字をじょうずにわけると、暗算で計算することができる。</p> </div> <p>4. P88の2を解く。 P89は宿題。</p>	<p>1. 26を分解する方法と、7を分解する方法を考えさせる。 (15分)</p> <p>→シート1</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>二つの方法を比較し説明することができるようにしましょう。</p> </div> <p>2. 個別にかかわる。 (23分)</p> <p>3. たし算の時と同じように分解する方法を考える。 →シート2 (38分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>わからない子には、ブロックを用いて考えさせるとよいでしょう。</p> </div> <p>4. 個別にかかわる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 最初の数を分解する方法と後ろの数を分解する方法を比較させながら考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ どのように分解するとよいかを考えさせましょう。

IV 板書計画

問題

子どもの考え 1
(書かせる)

問題

子どもの考え 2
(書かせる)

まとめ



月 日() 時間目 名前

26 + 7 の 計算の しかたを 考えましょう。

シート1

42 - 7 の 計算の しかたを 考えましょう。

シート2

月 日() 時間目 名前 解答

26 + 7 の計算のしかたを考えましょう。

シート1

$$\begin{array}{r} 26 \\ + 7 \\ \hline 20 \quad 6 \end{array}$$

- ① $6 + 7 = 13$
- ② $20 + 13 = 33$

$$\begin{array}{r} 26 \\ + 7 \\ \hline 4 \quad 3 \end{array}$$

- ① $26 + 4 = 30$
- ② $30 + 3 = 33$

42 - 7 の計算のしかたを考えましょう。

シート2

$$\begin{array}{r} 42 \\ - 7 \\ \hline 30 \quad 12 \end{array}$$

- ① $12 - 7 = 5$
- ② $30 + 5 = 35$

$$\begin{array}{r} 42 \\ - 7 \\ \hline 2 \quad 5 \end{array}$$

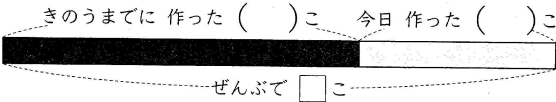
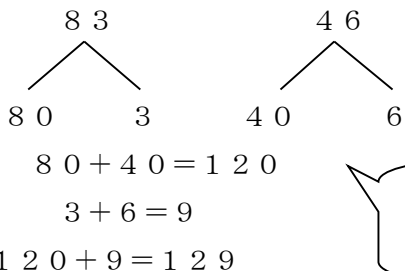
- ① $42 - 2 = 40$
- ② $40 - 5 = 35$

目標

・百の位に繰り上がりのあるたし算の筆算のしかたを考えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点									
<p>1. ゆきさんの クラスでは、きのうまでに メダルを 83こ 作りました。 今日、46こ 作りました。 メダルは、ぜんぶで 何こ できましたか。</p> <p>「テープ図にかき表してみましょう。」</p>  <p>『式は、$83 + 46$』</p> <p>2. $83 + 46$ の、ひっ算のしかたを考えよう。</p> <p>①</p> <table border="1" data-bbox="226 996 475 1220"> <tr> <th>百</th> <th>十</th> <th>一</th> </tr> <tr> <td></td> <td> $\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$ </td> <td> $\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$ </td> </tr> <tr> <td></td> <td> $\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$ </td> <td> $\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$ </td> </tr> </table> <p>②</p>  <p>③</p> $\begin{array}{r} 83 \\ + 46 \\ \hline 129 \end{array}$ <p>くりあがりのあるたし算も、ひっ算をつかうと かんたん にできる。</p> <p>3. P92の2を解く。</p>	百	十	一		$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$	$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$		$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$	$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$	<p>1. 問題文をテープ図に表し、たし算になることを確かめる。</p> <p>→シート1</p> <p>→シート2</p> <p>2. 単に筆算形式を覚えるのではなく、意味を考えさせる。</p> <p>→シート3</p> <p>3つの方法に関連づけながら説明できるようにしましょう。</p> <p>3. 個別にかかわる。終わった子は、P124のナを解く。</p>
百	十	一								
	$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$	$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$								
	$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$	$\begin{array}{c} \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \\ \text{10} \end{array}$								

II 指導のポイント

- ・筆算の意味を考えさせることを通して、十進数の素晴らしさを感じ取らせるとよいでしょう。
- ・図と式を結びつけて考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからない子どもには、ブロックを使うことも必要です。

IV 板書計画

問題

子どもの考え 1
(書かせる)

子どもの考え 2
(書かせる)

子どもの考え 3
(書かせる)

まとめ



月 日() 時間目 名前

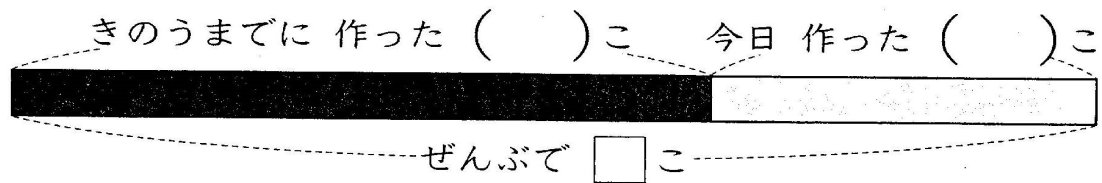
ゆきさんの クラスでは、きのうまでに

メダルを 83こ 作りました。

今日は、46こ 作りました。

メダルは、ぜんぶで 何こ できましたか。

<テープ図にかいてみましょう。> **シート1**



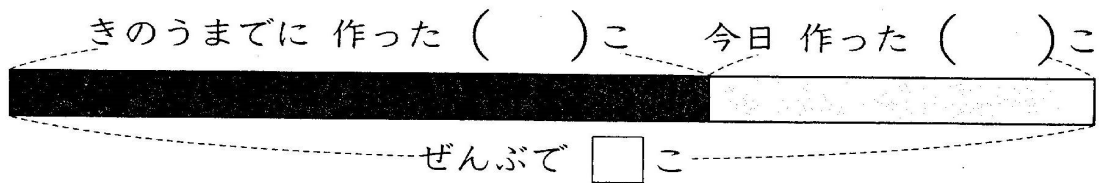
<しき> **シート2**

<ひっ算のしかたを考えましょう。> **シート3**

月 日() 時間目 名前 解答

ゆきさんの クラスでは、きのうまでに
メダルを 83こ 作りました。
今日は、46こ 作りました。
メダルは、ぜんぶで 何こ できましたか。

<テープ図にかいてみましょう。> **シート1**



<しき> **シート2**

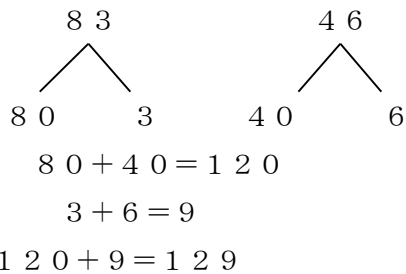
$$83 + 46$$

<ひっ算のしかたを考えましょう。> **シート3**

①

百	十	一

②



③

$$\begin{array}{r} 83 \\ + 46 \\ \hline 129 \end{array}$$



目標

- ・ 2位数 + 2位数 = 3位数の筆算ができる。
(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 76 + 58のひっ算のしかたを考えましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> $\begin{array}{r} 76 \\ + 58 \\ \hline 14 \\ \underline{120} \\ 134 \end{array}$ <p>①一の位を計算する。 $6 + 8 = 14$</p> <p>②十の位を計算する $70 + 50 = 120$</p> <p>③ $14 + 120 = 134$</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>1. 繰り上がりが2回あることに着目させる。</p> <p>順序よく筆算のしかたを説明させる。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> $\begin{array}{r} 1 \\ 76 \\ + 58 \\ \hline 4 \\ 1 \\ 76 \\ + 58 \\ \hline 134 \end{array}$ <p>①一の位を計算する。 $6 + 8 = 14$ 十の位に1繰り上げる。</p> <p>②十の位を計算する 繰り上げた1と7と5で $1 + 7 + 5 = 13$</p> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>繰り上がった1を十の位の上に書くことを徹底させましょう。</p> </div> <p>(15分)</p> </div> </div>	
<p>2. 46 + 57、93 + 8のひっ算をしましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> $\begin{array}{r} 1 \\ 46 \\ + 57 \\ \hline 103 \end{array}$ $\begin{array}{r} 1 \\ 93 \\ + 8 \\ \hline 101 \end{array}$ </div> <div style="width: 45%;"> <p>2. 空位の0に気をつけて筆算させる。 (25分)</p> <p>3. 個別にかかわる。 終わった子は、P124の二、又を解く。 (45分)</p> </div> </div>	
<p>3. P93の3、4を解く。 P94は宿題。</p>	

II 指導のポイント

- ・ この時間は、筆算を正確に行う時間としましょう。
- ・ 位をしっかりとそろえて筆算をするように気をつけさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ わからない子には、図などを用いて考えさせましょう。

IV 板書計画

問題 1

問題 2

の
子どもの考え 1
(書かせる)

子どもの考え 2
(書かせる)

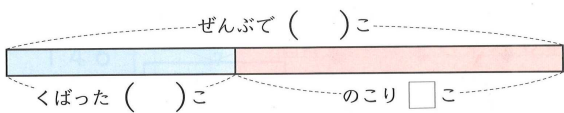
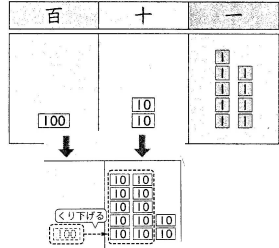
3, 4の答えを書かせる。



目標

・繰り下がりのある減法の筆算のしかたを考えることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. メダルを ぜんぶで 129こ 作りました。 53こ くばると、のこりは 何こですか。</p> <p>「テープ図にかき表してみましょう。」</p>  <p>『式は、129-53』</p> <p>2. 129-53の、ひっ算のしかたを考えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="199 918 550 1187"> <p>①</p>  </div> <div data-bbox="590 918 1021 1299"> <p>②</p> $\begin{array}{r} 129 \\ - 53 \\ \hline 6 \\ 129 \\ - 53 \\ \hline 76 \end{array}$ <p>一の位の計算 $9 - 3 = 6$</p> <p>十の位の計算 2から5はひけな い。 百の位から1繰り 下げる。 $12 - 5 = 7$</p> </div> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>くり下がりのあるひき算も、ひっ算をつかうとかんたんに できる。</p> </div> <p>3. P96の2を解く。 終わった子は、P124ネを解く。</p>	<p>1. 問題をテープ図に表し、ひき算になることを確かめる。 (5分)</p> <p>→シート1 →シート2</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>図と筆算を結びつけて説明させましょう。</p> </div> <p>2. 筆算の意味をしっかりと考えさせる。 →シート3</p> <p>(30分)</p> <p>3. 個別にかかわる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・たし算の時と同様に、筆算の意味を考えさせ十進数の素晴らしさに気付かせましょう。
- ・図と式を関連付けて考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからない子には、ブロックを使うことも必要です。

IV 板書計画

問題

子どもの考え 1
(書かせる)

子どもの考え 2
(書かせる)

まとめ



月

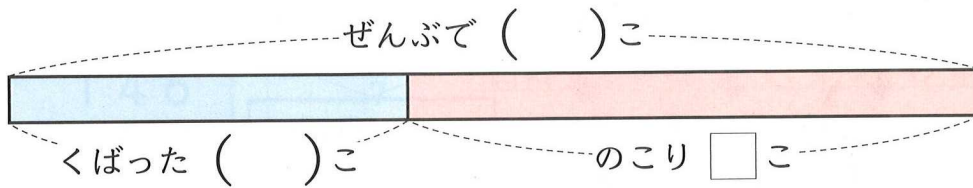
日()

時間目 名前

メダルを ぜんぶで 129こ 作りました。

53こ くばると、のこりは 何こですか。

<テープ図で考えましょう。> シート1



<しき>シート2

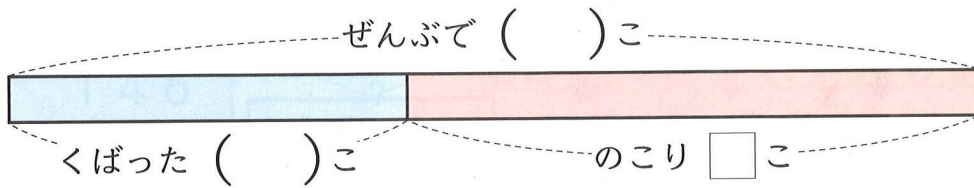
<ひっ算のしかたを 考えましょう。>シート3

月 日() 時間目 名前 解答

メダルを ぜんぶで 129こ 作りました。

53こ くばると、のこりは 何こですか。

<テープ図で考えましょう。> シート1

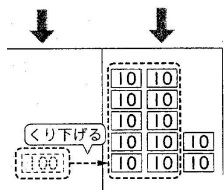


<しき> シート2

$$129 - 53$$

<ひっ算のしかたを 考えましょう。> シート3

百	十	一
100	10 10	1 1 1 1 1 1 1 1

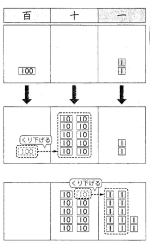


1 2 9	一の位の計算
- 5 3	9 - 3 = 6
6	十の位の計算
1 2 9	2から5はひけな
- 5 3	い。
7 6	百の位から1繰り下げる。
	1 2 - 5 = 7

目標

・ 3位数-2位数の計算ができる。 (数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. 146-89のひっ算のしかたを考えましょう。</p> <p>・一の位も十の位もひけないよ。 ・繰り下がりが2回ある。 まず、十の位から1繰り下げる。</p> $\begin{array}{r} 31 \\ 146 \\ - 89 \\ \hline 57 \end{array}$ <p>つぎに、百の位から1繰り下げる。</p> $\begin{array}{r} 13 \\ 146 \\ - 89 \\ \hline 57 \end{array}$	<p>1. 位をしっかりとそろえて書かせる。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">十の位から繰り下げていくことを位取りを意識させ、理解させましょう。</p> <p style="text-align: right;">(12分)</p>
<p>2. P97の3の問題を解く。</p> <p>3. 102-65のひっ算のしかたを考えましょう。</p> <p>・ひかれる数の十の位が0になっている。 ・十の位から1繰り下げるにはどうしたらよいだろう。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>十の位から繰り下げられないので、 百の位から十の位に1繰り下げる。 つぎに、十の位から一の位に1繰り下げる。</p> </div> </div> $\begin{array}{r} 10 \\ 102 \\ - 65 \\ \hline 37 \end{array}$ $\begin{array}{r} 9 \\ 102 \\ - 65 \\ \hline 37 \end{array}$ <p>4. P99の4~8の問題を解く。</p>	<p>2. 個別にかかわる。 (20分)</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">十の位が0の場合、繰り下がり のしかたの間違いを することがあるので、 図と結び付けて 考えさせましょう。</p> <p>3. くり下がりのしかたを しっかりと理解させる。 (35分)</p> <p>4. 個別にかかわる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 筆算の過程で、繰り下がりを書くように指導しましょう。
- ・ 位取りをそろえ、数字を丁寧に書かせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

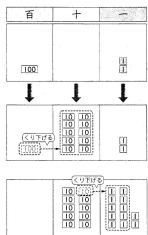
- ・ 繰り下がりとは図を結びつけて考えさせましょう。

IV 板書計画

問題

問題

子どもの考え1
筆算



子どもの考え2
筆算



目標

・3位数-2位数・1位数の筆算ができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 筆算で しましょう。</p> <p>問題1</p> <p>(1) $415 + 32$ (2) $345 - 21$</p> <p>(1) $\begin{array}{r} 415 \\ + 32 \\ \hline 447 \end{array}$ (2) $\begin{array}{r} 345 \\ - 21 \\ \hline 323 \end{array}$</p> <p>問題2</p> <p>(1) $18 + 345$ (2) $526 + 9$</p> <p>(3) $483 - 27$ (4) $524 - 6$</p> <p>(1) $\begin{array}{r} 18 \\ + 345 \\ \hline 363 \end{array}$ (2) $\begin{array}{r} 526 \\ + 9 \\ \hline 535 \end{array}$ (3) $\begin{array}{r} 483 \\ - 27 \\ \hline 456 \end{array}$ (4) $\begin{array}{r} 524 \\ - 6 \\ \hline 518 \end{array}$</p>	<p>1. この時間は、習熟の時間として使う。</p> <p>一人一人のペースに合わせて取り組ませる。</p> <p>筆算のわからない子に、しっかりと関わりできるようにさせることが大切です。</p>
<p>この時間は、ひっ算をしっかりと身につける時間としましょう。 ノートに筆算を書かせましょう。</p>	<p>スピードではなく、間違わずに丁寧に解くことを心がけさせましょう。 数字は丁寧に、位をしっかりとそろえて書かせましょう。</p>
<p>2. p101の1, 2の問題を解く。</p> <p>3. 終わった子は、P102, 103を解く。 できなかった場合は宿題とする。</p>	<p>子どものノートを見て回り○をつけてあげましょう。</p> <p>答えを紙に書いて準備し、自分で○をつけさせてもよいです。</p> <p style="text-align: right;">(45分)</p>

II 指導のポイント

・この時間は、筆算の習熟の時間としてたっぷり使いましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・わからない子には、図を利用させたり、前の時間までのワークシートを振り返らせたりして考えさせましょう。

IV 板書計画

問題1

の
子どもに筆算と答えを書かせる。

問題2

子どもに筆算と答えを書かせる。

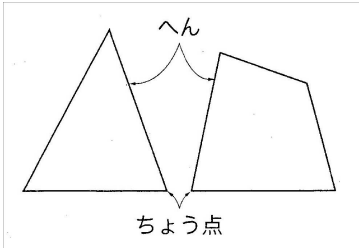
まとめ



目標

・三角形、四角形の内容を理解する。(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. あからくの形を、2つのなかまに分けます。 どのように分けたらよいでしょうか。</p> <p>『どこを見て分けたか、はっきりさせて分けてください。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線の数に目をつけて分けた。 ・かどの数に目をつけて分けた。 <p>① あ、う、え、か が同じ仲間 3本の直線で囲まれている。 かどが3つある。</p> <p>② い、お、き、く が同じ仲間 4本の直線で囲まれている。 かどが4つある。</p> <p>3本の直線がかこまれた形を三角形といいます。 4本の直線がかこまれた形を四角形といいます。</p>	<p>1. p133のパズルを切り取って使用します。</p> <p>どこに着目して分けたかを意識させ、仲間分けをさせましょう。</p> <p>(25分)</p>
<p>2. 三角形や四角形で直線のところをへんといい、かどの点を ちょう点といいます。</p> 	<p>2. 用語を知らせる。 (35分)</p> <p>手で触らせて、用語を理解させましょう。</p>
<p>3. 三角形や四角形を使って、p104の形を作りましょう。</p>	<p>3. 自由に作らせる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ p133のパズルを使って、仲間分けをさせましょう。
- ・用語をしっかりとおぼえさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

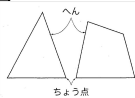
- ・子どもたちがパズルを使い、時間を確保して活動することが大切です。

IV 板書計画

問題

三角形

四角形



月

日()

時間目 名前

2つのなかまに 分けましょう。

--

--

--

--

--

--

月

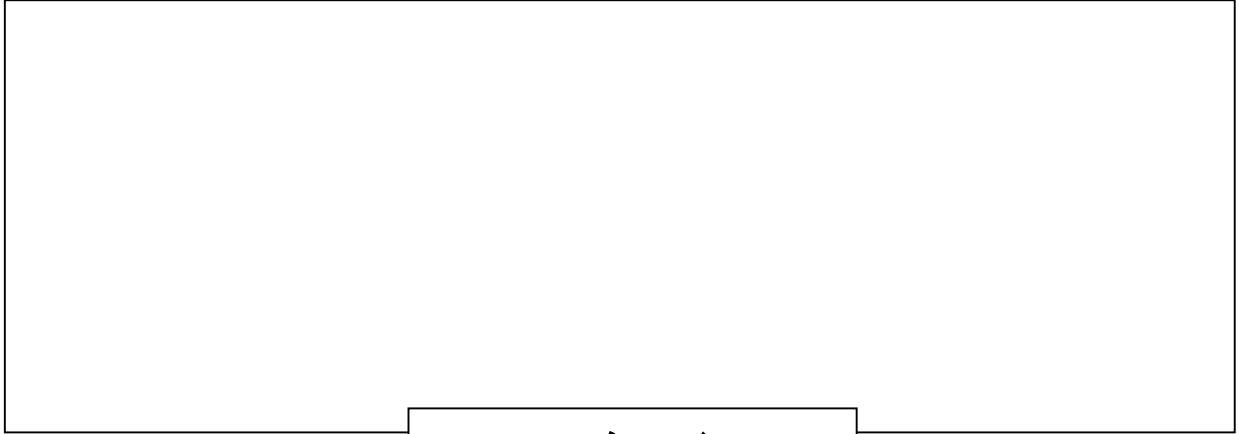
日()

時間目

名前

解答

2つのなかまに 分けましょう。



三角形

3本の 直線で かこまれた 形を 三角形と いいます。



四角形

4本の 直線で かこまれた 形を 四角形と いいます。

目標

- ・三角形、四角形の概念を確実にする。
- ・直角の概念を理解する。(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 三角形や四角形を見つけましょう。</p> <p>教科書の図を見ながら、三角形と四角形を見つける。 三角形～ア、カ 四角形～キ</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>三角形や四角形は、囲まれた直線が閉じている。 かどが丸まっていると、三角形や四角形とは言えない。</p> </div> <p>2. p 107の2, 3の問題を解く。 定規を使って、曲がらずしっかりと直線をひきながら三角形や四角形をかく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>三角形や、四角形をかく活動をとりましょう。教科書の問題が終わったら、ノートに自由に三角形や四角形を書かせ、定規を上手に使うことができるようにしましょう。</p> </div> <p>3. 教科書やノートのかどの形をしらべてみましょう。</p> <p>「紙を折って、教科書やノートのかどの形を作ってみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書やノートのかどと合わせながら紙を折る。 ・紙を半分に折り、へりが重なるように折ってみせる。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>このように、紙を折ってできるかどの形を直角といいます。</p> </div> <p>4. 三角定規のかどには直角がありますか。 上で作った直角のかどをあててしらべましょう。</p> <p>5. p 109の1の問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>この時間は直角探しを通して、直角の概念を定着させましょう。</p> </div>	<p>1. 教科書を使って学習する。</p> <p style="text-align: right;">(10分)</p> <p>2. 教科書にかきこませる。</p> <p style="text-align: right;">(25分)</p> <p>3. 教科書のように周りを切ってある紙を準備する。</p> <p style="text-align: right;">(30分)</p> <p>4. 事前に三角定規をもってくるように知らせておく。</p> <p style="text-align: right;">(35分)</p> <p>5. 直角探しは、いろいろなものを見つけさせる。直角の紙と、三角定規を使って調べさせる。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・三角形、四角形の概念をしっかりと定着させましょう。
- ・直角を探す活動を通して直角という概念を定着させる時間です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・三角形、四角形をかく活動をとりましょう。
- ・直角を紙で作ったり、三角定規で直角を探したりする活動を大切にしましょう。

その1

IV 板書計画

問題

三角形

三角形ではない

四角形

四角形ではない

まとめ



その2

IV 板書計画

問題

子どもの作った直角

三角定規の直角の部分に印
をつけた図をかく。

まとめ


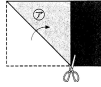


目標

・長方形・正方形の定義や性質がわかる。

(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 下のよう、紙をおります。できた四角形のかどの形をしらべましょう。</p>  <p>2. 直角のかどはいくつありますか。 三角定規の直角の部分でかどの大きさを確かめる。 直角のかどは4つある。</p> <p>4つのかどが、みんな直角になっている四角形を長方形といいます。</p> <p>3. 長方形のむかい合っているへんの長さをしらべましょう。 折って重ねて辺の長さを調べる。</p> <p>長方形の むかい合っ て い る へん の 長 さ は 同 じ で す。</p> <p>4. p 1 1 0 の 2, 3 の 問 題 を 解 く。</p> <p>5. 右のよう、長方形の紙をおって切ります。アをひらいてできた四角形の形をしらべましょう。</p>  <p>「4つのかどの形とへんの長さをしらべましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角定規をあてて、角の形を調べる。 ・紙を折って辺の長さをくらべる。 <p>4つのかどがみんな直角で、4つのへんの長さがみんな同じになっている四角形を正方形といいます。</p> <p>6. p 1 1 1 の 4 の 問 題 を 解 く。</p>	<p>1. 一人ずつに紙を準備し、しっかりと折らせる。(5分)</p> <p>2. 三角定規の直角部分にシールを貼っておくとよいです。(12分)</p> <p>三角定規の直角の部分を使って角を測る活動、長方形を折って長さを調べる活動をたっぷりと保障して活動させましょう。</p> <p>3. (20分)</p> <p>4. 個別にかかわる。(25分)</p> <p>5. 折り方を丁寧に順序よく示す。 長方形の時と同様に、三角定規の使う活動、折る活動を丁寧に行う。(40分)</p> <p>6. 個別にかかわる。(45分)</p>

II 指導のポイント

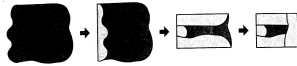
・この時間はたっぷりと活動させることが大切です。特に三角定規の直角部分を使って直角を測る活動に難しさを感じる子どもがいるので、個別に関わりましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・折る活動、三角定規を使う活動を大切に、自分がした活動を説明できるようにすることが大切です。

IV 板書計画

問題

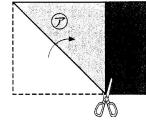


長方形

黒板で、かど、辺の長さを
確かめる。

まとめ

問題



正方形

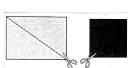

まとめ



目標

・直角三角形の定義や性質がわかる。(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. 長方形、正方形の紙を、下のように切ります。 どのような形ができますか。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも、同じ形が2つできた。 ・三角形が2つできた。 ・かどに直角がある。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">直角のかどがある三角形を、直角三角形といいます。</p> <p>2. 三角定規の形は直角三角形でしょうか。 ・直角があるので直角三角形だ。</p> <p>3. p 112の5の問題を解く。</p> <p>4. つぎの形を方がん紙にかきましょう。 ①たて3cm、よこ5cmの長方形 ②1つのへんの長さが4cmの正方形 ③3cmのへんと4cmのへんの間に、直角のかどがある直角三角形</p> <p>・ワークシートにかきこむ。</p> <p style="text-align: center;">← ワークシート</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">直線をひくことが難しいので、ゆっくりと丁寧にひかせましょう。 直線で囲まれているか、図形が閉じているかをしっかりと見てあげましょう。</p> <p>5. p 114, 115は宿題とする。</p>	<p>1. 長方形の紙と正方形の紙を準備しておく。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">丁寧に折ることと、きれいに切ることに気をつけさせましょう。</p> <p style="text-align: right;">(15分)</p> <p>2. まとめに照らし合わせて考えさせる。(20分)</p> <p>3. 実際に紙を与えて活動させ、考えさせる。 (30分)</p> <p>4. かく活動を丁寧にを行う。 定規で線をひくときに、定規の位置が下になるようにしてひかせましょう。</p> <p style="text-align: right;">(45分)</p> 

II 指導のポイント

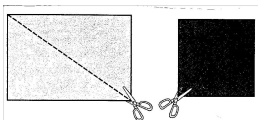
- ・長方形、正方形を分割してできた三角形を観察する活動を大切にしましょう。
- ・かく活動を丁寧にいきましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・直角三角形を作る活動、かく活動を大切にしましょう。

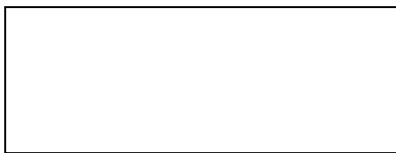
IV 板書計画

問題



直角三角形の図

問題



まとめ



月

日()

時間目 名前

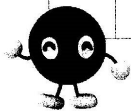
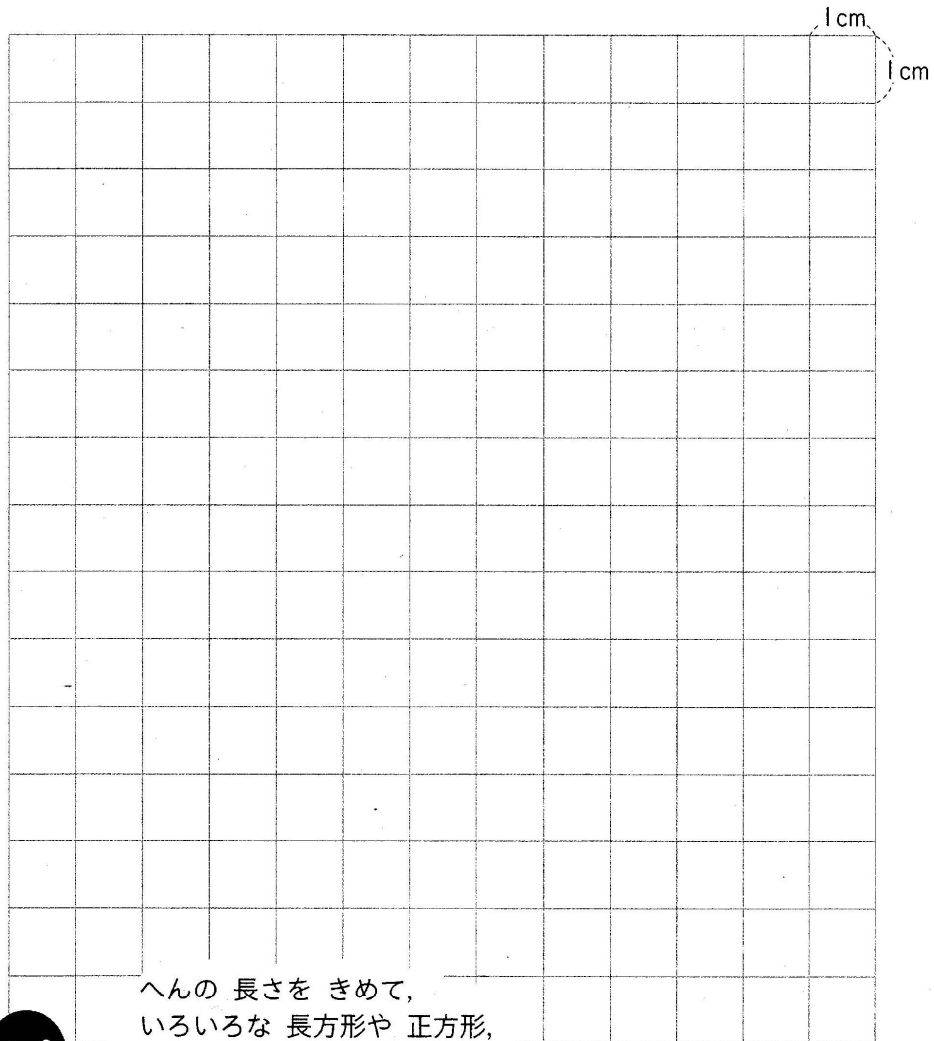
つぎの 形を 方がん紙に かきましょう。

① たて 3 cm、よこ 5 cmの 長方形

② 1つの へんの 長さが 4 cmの 正方形

③ 3 cmのへんと 4 cmのへんの間に、直角の かどが

ある直角三角形



へんの 長さを きめて、
いろいろな 長方形や 正方形、
直角三角形を かこう。

目標

・数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. p 2 の遊園地の絵を見て、並んでいる様子をくらべる。</p> <p>どちらのほうが、人数が 数えやすいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②は、5人ずつ並んで数えやすい。 ①は、ばらばらで数えにくい。 <p>2. のりものに のって いる 人数を しらべましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの人数をワークシートに記入する。 2とびで数える。 $\cdot 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2$ 4のまとまりを3回たす。 <p>「人数を数えて、気付いたことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> テークップは人数が同じでない。 汽車は続きがあるね。 <p>3. 「自転車には、何人ずつのっていますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> おはじきを置いて考える。 1台ずつに数字で人数を書く。 <p>自転車には、1台に2人ずつ、6台分で12人のっています。</p> <p>4. ほかののりものの人数も、同じようにあらわしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ひこうき：1台に3人ずつ4台分で12人。 観覧車：1台に4人ずつ5台分で20人。 <p>同じ数のまとまりにすると、数えやすい。</p>	<p>1.</p> <p>かたまりを○で囲ませるとわかりやすいでしょう。</p> <p>自由に思ったことださせる。(5分)</p> <p>2. 2とびで数えたり、たし算で計算する子を認めてあげる。(15分)</p> <p>この時間は、教科書にかきこませましょう。</p> <p>3. 「～には、1台に～人ずつ、～台分で、～人」という言い方に慣れさせる。(30分)</p> <p>おはじきを置きながらかたまりを意識させましょう。</p> <p>4. 時間があれば、他の乗り物も同じように言わせる。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・まとまりで数える数えやすさに目がいくように子供の活動を支援していきましょう。
- ・かたまりとたし算をくらべたときに、同じ数字が並ぶこととを関連させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・おはじきを置いたり、同じ数ずつ○で囲む活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

P 3, 4の絵

じてんしゃ 12人 1台に2人ずつ6台

くるま 12人.....


まとめ



目標

・『1つ分の数』と『いくつ分』の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解することができる。
(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. みんなで 何人 のって いますか。</p>  <p>→ワークシート (15分)</p> <p>・おはじきを並べる。 ○○○○○ ○○○○○ ○○○○○</p> <p>・図にかく。 □□□□□ □□□□□ □□□□□</p> <p>のっている人数は、 1台に5人ずつの3台分で、15人です。</p>	<p>1. おはじきを置かせ、かたまりを意識させる。</p>
<p>2. このことを式で書くと、 $5 \times 3 = 15$ 「五 かける 三は 十五」</p> <p>5 × 3 = 15 1つ分の数 × いくつ分 = ぜんぶの数</p> <p>ワークシートにおいたおはじきを、そのまま図にかかせましょう。</p> <p>×のかき方をしっかりと身につけさせましょう。</p> <p>言葉をしっかりとおぼえさせましょう。</p>	<p>2. ×の書く順序をゆっくりと指導する。 (20分)</p>
<p>「1つ分の数」と「いくつ分」がわかれば、ぜんぶの数を もとめる ことができる。</p>	
<p>3. 教科書 p 7 ⑤の□に書き込む。</p> <p>5 × 3 や 2 × 6 のような計算を、かけ算といいます。</p>	<p>3. 教科書にかきこませる。 (25分)</p>
<p>4. p 8 の 1, 2 の問題を解く。</p> <p>2は、教科書のノートの部分を見ながら同じように書かせましょう。</p>	<p>4. ノートに答えを書かせる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・「一つ分」の大きさと「いくつ分」を確実に理解させましょう。
- ・おはじき、図、式、読み方を関連付けて理解させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・おはじきを並べる活動、それを図にかく活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

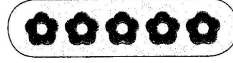
問題

$$5 \times 3 = 15$$

1つ分の^{かず}数

いくつ分

ぜんぶの数



まとめ



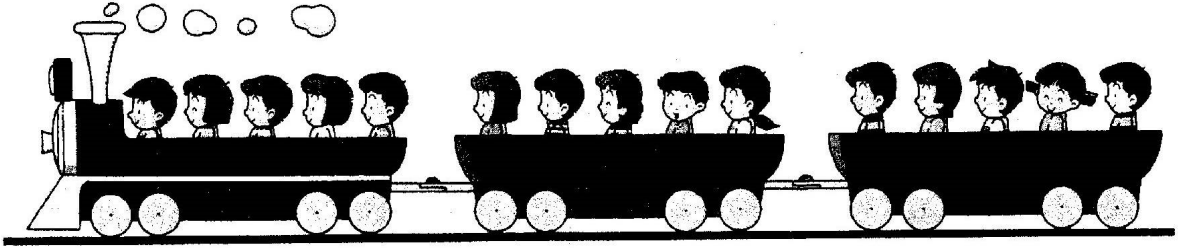
月

日()

時間目 名前

なんにん

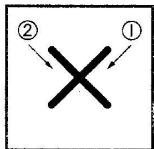
みんなで 何人 のって いますか。



<おはじきを おいて みましよう>

<図に かいて みましよう>

<しきに かいて みましよう>



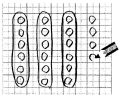
--	--	--	--	--

目標

- ・乗法の答えは加法を用いて求められることに気付く。(数学的な考え方)
- ・ある量が、もとにする量の何倍になっているかをとらえることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. 1はこに おかしが 6こずつ 入って います。 4はこでは、おかしは 何こに なりますか。</p> <p>『かけ算の式になる。』 『6×4だ。』</p> <p>6 × 4 の答えのもとめ方を考えよう。</p>  <p>$6 + 6 + 6 + 6 = 24$ $6 \times 4 = 24$</p> <p>6 × 4 の答えは、$6 + 6 + 6 + 6$ の計算でもとめることができる。</p> <p>2. p 10 の 4, 5 の問題を解く。</p> <p>3. 3 cm の テープの 2 つ分の 長さは、何 cm ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープで 3 cm の 2 つ分の長さをとり、切る。 ・3 cm のところに印をつける。 <p>『3 cm と 3 cm で 6 cm だ。』 『3×2 で 6 となる。』</p> <p>3 cm の 2 つ分のことを、3 cm の 2 ばいといいます。 3 cm の 2 ばいに長さをもとめるときも、3×2 のかけ算のしきになります。</p> <p>4. p 11 の①を解く。</p> <p>3 つ分、4 つ分のことを 3 ばい、4 ばいといいます。 1 ばいは 1 つ分のことです。</p> <p>5. p 11 の 6 の問題を解く。 p 12 は宿題</p>	<p>1. 図とたし算を関連付けて考えさせる。 (15分) →ワークシート1</p> <p>図をかく活動を大切にしましょう。おはじきを置かせてからかかするとよいです。</p> <p>2. 個別に関わる。 →ワークシート2 (20分)</p> <p>実際に紙テープを切る活動をしましょう。</p> <p>3. テープを使い倍の概念を定着させる。 (30分)</p> <p>4. テープを示し理解させる。 (35分)</p> <p>5. 個別に関わる。 (45分) →ワークシート3</p>

II 指導のポイント

- ・同じ数字のたし算でかけ算の答えが出せることに気付かせることが大切です。
- ・テープを使い倍の概念を確実に定着させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・図をかく活動を丁寧に行うことが大切です。

IV 板書計画

問題

問題

こどもの考え
(書かせる)

テープをはる

まとめ

まとめ



月

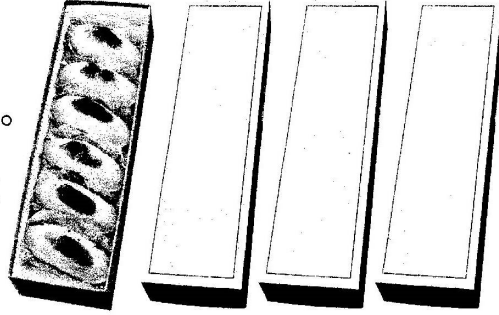
日()

時間目 名前

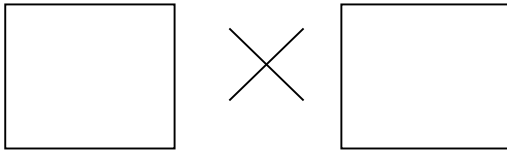
ワークシート1

1はこに おかしが
6こずつ 入っています。

4はこでは、おかしは
なん何こに なりますか。



<しきを かきましょう。>



答えの もとめ方を 考えましょう。

<おはじきを おきましょう>

<図をかきましょう。>

<しきで>

月

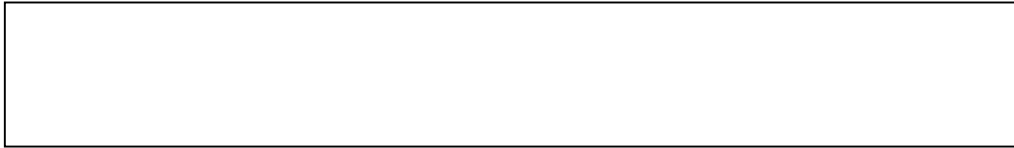
日()

時間目 名前

ワークシート2

3 cmの テープの 2つ分の 長さは、 何 cmですか。
なが なん

<きった テープを はりましょう。>



<しき と 答え>

月

日()

時間目

名前

かけ算の ばめんさがし

絵、しゃしん
え

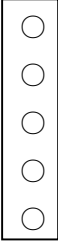
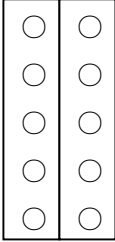
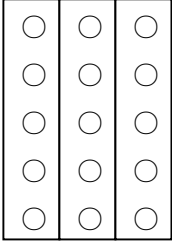
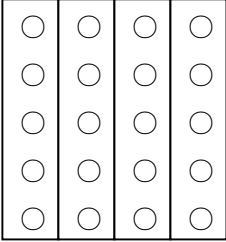
ことば

しき

目標

- ・ 答えが5ずつ増えていくことに着目し、5の段の九九を構成することができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. おかしが 1はこに 5こずつ 入っています。はこは、何はこか あります。おかしの 数を しらべましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おはじきを5個ずつ並べて場面を理解する。 ・ ワークシートに図をかく。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>$5 \times 1 = 5$</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>$5 \times 2 = 10$</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>$5 \times 3 = 15$</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>$5 \times 4 = 20$</p> </div> </div> <p>同じように、9箱までの図をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たし算で求める。 <p> $5 \times 1 = 5$ $5 \times 2 = 5 + 5 = 10$ $5 \times 3 = 5 + 5 + 5 = 15$ $5 \times 4 = 5 + 5 + 5 + 5 = 20$ $5 \times 5 = 5 + 5 + 5 + 5 + 5 = 25$ $\dots \cdot 5 \times 9 =$ </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $5 \times 2 = 5 + 5$ $5 \times 3 = 10 + 5$ $5 \times 4 = 15 + 5 \dots$ <p>2. 「気がついたことを言いましょう。」</p> <p>『5ずつ増えていく。』</p> <p>『前の数に5をたすと、次の答えが出る。』</p> <p>『階段になっている。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>5のだんの九九がつくることができた。</p> </div>	<p>1. 問題の意味をしっかりととらえさせる。 順番に考えるようにさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>今までのことを使って、いろいろと考えさせましょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>それぞれの考え方のよさを認めてあげましょう。</p> </div> <p style="text-align: right;">(25分)</p> <p>2. 図を使った考えから発表させる。 次にたし算の考えを発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>図と数字を結びつけて考えることができるようにしましょう。</p> </div> <p style="text-align: right;">(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 5の段の九九を構成する、一人一人の活動を十分に保障しましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 図をかくことに慣れさせましょう。今後も大切になる活動です。

IV 板書計画

問題

こどもの考え（図）

図の下に、たし算の式を書く。

一番下にかけ算の式を書く。



月

日()

時間目 名前

おかしが 1はこに 5こずつ 入って います。

はこは、何はこか あります。

おかしの 数を しらべましょう。

<図をかきましよう>

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

月 日() 時間目 名前

--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

<気がついたことを書きましょう>

か

--

目標

- ・ 5の段の九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 5のだんの九九をおぼえましょう。</p> <p>「5の段の九九を書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $5 \times 1 \sim 5 \times 9$までをカードに書く。 ・ カードの裏に、九九の答えを書く。 <p>2. 「5の段の九九の唱え方を覚えましょう。」</p> <p>五一が 5 (ごいちが ご) 五二 10 (ごに じゅう) 五三 15 (ごさんじゅうご) 五四 20 (ごし にゅじゅう) 五五 25 (ごご にじゅうご) 五六 30 (ごろく さんじゅう) 五七 35 (ごしち さんじゅうご) 五八 40 (ごは しじゅう) 五九 45 (ごっく しじゅうご)</p> <p>3. 5のだんの九九を唱える練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で唱える。 ・ 順番に唱えさせる。 <p>4. p14の1, 2の問題を解く。</p> <p>5. カードを使って、p26の練習をする。</p> <p style="text-align: center;">友達と練習する。</p>	<p>1. カードに記入するしかたを教える。</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">カードはこの後も使うので、画用紙で6cm×3cmのカードを作っておきましょう。</p> <p>5ずつ増えていることに着目させながら答えを書かせる。(10分)</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;">板書にしっかりと書き、読みながら唱える練習をしましょう。</p> <p>2. 唱え方をゆっくりと教える。(20分)</p> <p>3. スピードよりも、しっかりと唱えることができるようにする。(35分)</p> <p>4. 個別に関わる。(40分)</p> <p>5. カードを混ぜて、式を見て答えを言う。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 5の段のかけ算九九をしっかりと覚えさせましょう。
- ・ 5の段を作った時のことを想起させながら、カード作りをさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ この時間は、覚えることが中心なので特になし。

IV 板書計画

問題

5の段の九九

しき	読み方	
5×1	五一が	5
5×2	五二	10
.....		


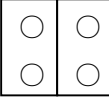
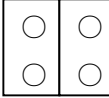
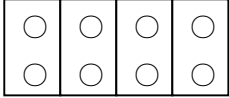
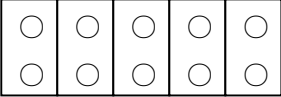


目標

・2の段の九九の構成を考えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 1さらに すしが 2こずつ のって います。さらは、何さらか あります。すしの かずを しらべましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはじきを2個ずつ並べて場を理解する。 ・ワークシートに図をかく。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>$2 \times 1 = 2$</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>$2 \times 3 = 6$</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>$2 \times 2 = 4$</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>$2 \times 4 = 8$</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>$2 \times 5 = 10$</p> </div> <p>同じように、9皿までの図をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たし算で求める。 <p style="margin-left: 40px;"> $2 \times 1 = 2$ $2 \times 2 = 2 + 2 = 4$ $2 \times 3 = 2 + 2 + 2 = 6$ $2 \times 4 = 2 + 2 + 2 + 2 = 8$ $2 \times 5 = 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 10$... $2 \times 9 =$ </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $2 \times 2 = 2 + 2$ $2 \times 3 = 4 + 2$ $2 \times 4 = 4 + 2 \dots$ <p>2. 気がついたことを言いましょう。</p> <p>『5の段の時と同じように、2ずつ増えていく。』</p> <p>『前の数に2たすと、次の答えが出る。』</p> <p>『答えが階段になっている。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>2のだんの九九も 5のだんのように作ることができた。</p> </div>	<p>1. 問題の意味をしっかりとらえさせる。 5の段の時のように順番に考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>5の段の九九の構成のしかたを思い出させながら活動させるとよいでしょう。</p> </div> <p style="text-align: right;">(25分)</p> <p>2. 図を使った考えから発表させる。 次にたし算の考えを発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>図と数字を結びつけて考えることができるようにしましょう。</p> </div> <p style="text-align: right;">(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・2の段の九九を構成する時、一人一人の活動を十分保障しましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・5の段の活動を思い出し、図をかけるようにしましょう。

IV 板書計画

問題

こどもの考え（図）

図の下に、たし算の式を書く。

一番下にかけ算の式を書く。



月

日()

時間目 名前

1 さらに すしが 2 こずつ のって います。

さらは、何さらか あります。

すしの 数を しらべましょう。
かず

< 図をかきましょう。 >

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

<気がついたことを書きましょう。>

--

目標

- ・ 2の段の九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 2のだんの九九をおぼえましょう。</p> <p>「2の段の九九を書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2×1～2×9までをカードに書く。 ・ カードの裏に、九九の答えを書く。 <p>2. 「2の段の九九の唱え方を覚えましょう。」</p> <p>二一が 2 (にいちが に) 二二が 4 (ににが し) 二三が 6 (にさんが ろく) 二四が 8 (にしが はち) 二五 10 (にご じゅう) 二六 12 (にろく じゅうに) 二七 14 (にしち じゅうし) 二八 16 (にはち じゅうろく) 二九 18 (にく じゅうはち)</p> <p>3. 2の段の九九を唱える練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で唱える。 ・ 順番に唱えさせる。 <p>4. p 16の3, 4の問題を解く。</p> <p>5. カードを使って、p 26の練習をする。</p>	<p>1. カードに記入させる。</p> <p>6 cm×3 cmのカードを作っておきましょう。</p> <p>2ずつ増えていることに着目させながら答えを書かせる。(10分)</p> <p>板書にしっかりと書き、読みながら唱える練習をしましょう。</p> <p>2. 唱え方をゆっくりと教える。(20分)</p> <p>3. スピードよりも、しっかりと唱えることができるようにする。(35分)</p> <p>4. 個別に関わる。(40分)</p> <p>5. カードを出し合って、答えを言う。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 2の段の九九をしっかりと覚えさせましょう。
- ・ 2の段を作った時のことを想起させながら、カード作りをさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ この時間は、覚えることが中心なので特になし。

IV 板書計画

問題

2のだんの九九

しき

$$2 \times 1 = 2$$

$$2 \times 2 = 4$$

よみ方

二一が 2

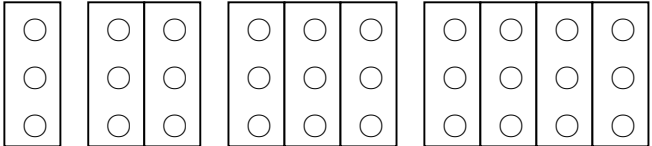
二二が 4



目標

- ・ 答えが3ずつ増えていくことに着目し、3の段の九九を構成することができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 3のだんの九九をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5の段、2の段の時を思い出し、おはじきを並べたり、図をかいたりして3の段の九九を考える。 ・  <p>$3 \times 1 = 3$ $3 \times 3 = 9$</p> <p style="margin-left: 100px;">$3 \times 2 = 6$ $3 \times 4 = 12$</p> <p>同じように、3×9までの図をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たし算で求める。 <p>$3 \times 1 = 3$ $3 \times 2 = 3 + 3 = 6$</p> <p>$3 \times 3 = 3 + 3 + 3 = 9$</p> <p>$3 \times 4 = 3 + 3 + 3 + 3 = 12$ \dots $3 \times 9 = 27$</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $3 \times 2 = 3 + 3$ $3 \times 3 = 6 + 3$ $3 \times 4 = 9 + 3 \dots$ <p>2. 「気がついたことを言いましょう。」</p> <p>『5の段、2の段の時と同じよう3ずつ増える。』</p> <p>『前の数に3をたすと、次の答えが出る。』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>3のだんの九九をつくることができた。</p> <p>3×9のしきで、3をかけられる数といい、9をかける数といいます。</p> </div>	<p>1. 5の段、2の段を想起し、活動させる。</p> <p style="text-align: right;">(25分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>図と式をかくことができるようになってきているといいでしょう。</p> </div> <p>2. 図と数字を結びつけて発表させる。</p> <p>かけられる数、かける数の用語をしっかりと押さえる。</p> <p style="text-align: right;">(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 3の段を構成する時間を保障しましょう。
- ・ 用語をしっかりと覚えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 図と結び付けて説明する力をつけさせることが大切です。

IV 板書計画

問題

こどもの考え (図)

図の下に、たし算の式を書く。

一番下にかけ算の式を書く。

$$\begin{array}{ccc} 3 & \times & 9 = 27 \\ \vdots & & \vdots \\ \text{かけられる数} & & \text{かける数} \end{array}$$

まとめ



月

日()

時間目 名前

3のだんの 九九を つくりましょう。

<図をかきましよう。>

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

月

日()

時間目

名前

--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

<まとめ>

3

×

9

=

--

--

目標

- ・ 3のだんの九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
(数量や図形についての技能)

学習活動	留意点
<p>1. 3のだんの九九をおぼえましょう。</p> <p>「3の段の九九を書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $3 \times 1 \sim 3 \times 9$までをカードに書く。 ・ カードの裏に、九九の答えを書く。 <p>2. 「3のだんの九九の唱え方を覚えましょう。」</p> <p>三一が 3 (さんいちが さん) 三二が 6 (さんにが ろく) 三三が 9 (さざんが く) 三四 12 (さんし じゅうに) 三五 15 (さんご じゅうご) 三六 18 (さぶろく じゅうはち) 三七 21 (さんしち にじゅういち) 三八 24 (さんぱ にじゅうし) 三九 27 (さんく にじゅうしち)</p> <p>3. 3の段の九九を唱える練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で唱える。 ・ 順番に唱えさせる。 <p>4. p18の1, 2の問題を解く。</p> <p>5. カードを使って、p26の練習をする。</p>	<p>1. カードに記入させる。</p> <p>6 cm × 3 cmのカードを使いましょう。</p> <p>3ずつ増えていることに着目させながら答えを書かせる。(10分)</p> <p>板書にしっかりと書き、読みながら唱える練習をしましょう。</p> <p>2. 唱え方をゆっくり教える。(20分)</p> <p>3. スピードよりも、しっかりと唱えることができるようにする。(35分)</p> <p>4. 個別に関わる。(40分)</p> <p>5. カードを出し合って、相手の答えを言う。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 3のかけ算九九をしっかりと覚えさせましょう。
- ・ 3の段を作った時のことを想起させながら、カード作りをさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ この時間は、覚えることが中心なので特になし。

IV 板書計画

問題

こどもの考え1
(書かせる)

こどもの考え2
(書かせる)

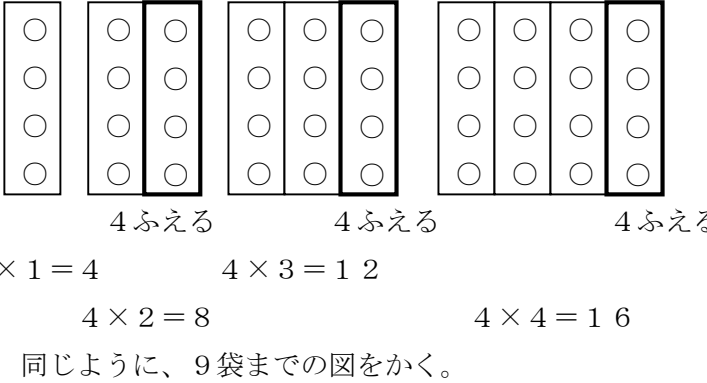
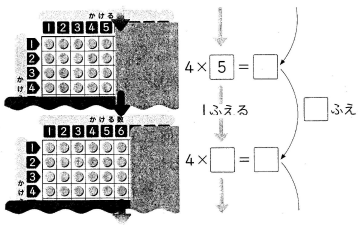
まとめ



目標

- ・乗法について成り立つ性質を用いて、4のだんの九九を構成することができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 4のだんの九九をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みかんの袋の絵を見て、場面を理解する。 ・ワークシートに図をかく。  <p>4 × 1 = 4 4 × 3 = 12 4 × 2 = 8 4 × 4 = 16</p> <p>同じように、9袋までの図をかく。</p> <p>2. 「4 × 5のかける数が1増えると、答えはいくつ増えますか。」</p>  <p>かける数が1増えると 答えは4増える。</p> <p>教科書に書きこむ。</p> <p>3. 4のだんの九九の答えを確かめる。</p> <p>4 × 1 = 4 4 × 2 = 4 + 4 = 8 4 × 3 = 8 + 4 = 12 4 × 4 = 12 + 4 = 16 4 × 5 = 16 + 4 = 20 …</p> <p>4. 1つまえの九九の答えに4ずつたすと答えがでる。</p>	<p>1. 3の段までの既習を生かして活動させる。 (15分)</p> <p>図を、すぐにかけるようになっていっているとよいでしょう。</p> <p>図と結び付けながら発表させる。 (25分)</p> <p>2. 増え方を図と結び付けながら見ていく。 (35分)</p> <p>かける数と答えの増え方に着目させましょう。</p> <p>3. いくつかの九九を取り上げ、具体的に確かめていく。 (40分)</p> <p>4. 言葉でまとめる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・既習を生かしながら4の段の九九を構成させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・図をかくこととともに、増え方を図を使って説明することができるようになることが大切です。

IV 板書計画

問題

子供の考え (図)

図の下に、子どもの考えた式をかく。

図で、増えた部分の枠を赤で囲む。

まとめ



月

日()

時間目 名前

4のだんの 九九を つくりましょう。

<図をかきましよう。>

--

--	--

--	--	--

--	--	--	--

--	--	--	--

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

<まとめ>

--

目標

- ・4の段の九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 4のだんの九九をおぼえましょう。</p> <p>「4の段の九九を書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$4 \times 1 \sim 4 \times 9$までをカードに書く。 ・カードの裏に、九九の答えを書く。 <p>2. 「4の段の九九の唱え方を覚えましょう。」</p> <p>四一が 4 (しいちが し) 四二が 8 (しにが はち) 四三 12 (しさん じゅうに) 四四 16 (しし じゅうろく) 四五 20 (しご にじゅう) 四六 24 (しろく にじゅうし) 四七 28 (ししち にじゅうはち) 四八 32 (しは さんじゅうに) 四九 36 (しく さんじゅうろく)</p> <p>3. 4の段の九九を唱える練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で唱える。 ・順番に唱える。 <p>4. p 20の3, 4の問題を解く。</p> <p>5. カードを使って、p 26の練習をする。</p>	<p>1. カードに記入させる。</p> <p>5, 2, 3の段の時に言えたことを確かめながら記入させる。(10分)</p> <p>2. 唱え方をゆっくりと教える。(20分)</p> <p>3. スピードよりも、しっかりと間違えなく唱えるようにすることが大切です。(35分)</p> <p>4. 個別に関わる。(40分)</p> <p>5. 裏返しに並べて、相手の言った九九の答えのカードをとる。(45分)</p>

前に作っているカードに書かせましょう。

板書に書いて、しっかりと読ませながら唱える練習をしましょう。

時間があれば、二人でお互いに九九を言って聞き合う活動をするとういでしょう。

II 指導のポイント

- ・4の段の九九をしっかりと覚えさせましょう。
- ・既習をもとに九九を構成させていくことが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・この時間は、覚えることが中心なので特になし。

IV 板書計画

問題

4のだんの九九

しき	読み方	
4×1	四一が	4
4×2	四二が	8
4×3	四三	12
.....		



目標

- ・乗法の用いられる場面をとらえ、言葉や式であらわすことができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. つぎの 2つの もんだいの、しきと 答えを それぞれ書き、くらべて みましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>えんぴつを 1人に 2本ずつ、5人に くばります。 えんぴつは、ぜんぶで 何本 いきますか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>えんぴつを 2人に 5本ずつ くばります。 えんぴつは、ぜんぶで 何本 いきますか。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの問題をしっかりと読ませる。 ・一つ分の数にあたる部分を赤で囲ませる。 ・いくつ分にあたる部分を鉛筆で囲ませる。 <p>2. ①、②の、問題の、式と答えを教科書に書かせる。</p> <p>3. p 21の5の問題を解く。</p> <p>4. P22、23のたしかめようを行う。</p> <p>5. p 24は宿題とする。</p>	<p>1. 問題を板書し、一つ分の数、いくつ分を明確にする。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>一つ分の数と、いくつ分をしっかりとおさえさせましょう。</p> </div> <p>2. (15分)</p> <p>3. 個別に関わる。(20分)</p> <p>4. 一人一人チェックして回りましょう。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・この時間は教科書を使って書きこませながら学習しましょう。
- ・一つ分の数と、いくつ分をしっかりとおさえ式を書かせること、文を作らせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・式から問題文を書かせるときに、一人一人丁寧に見てあげましょう。

IV 板書計画

問題

式と答え①

式と答え②



目標

・学習内容を適用して、問題を解決することができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 九九カードを使って、九九ビンゴをしましょう。</p> <p>p 25の九九ビンゴをする。</p> <p>①、②、③の要領で行うことを説明する。</p> <p>ワークシートに、3の段と4の段の答えの中から好きな数字を書かせる。</p> <p>2. 3の段、4の段のカードを重ねてゲームをスタートさせる。ビンゴになったら、他の段でもやってみる。</p> <p>3. p 27のかけ算九九表に記入させる。2, 3, 4, 5の段九九を言いながら、記入させる。</p> <p>4. p 26の九九のれんしゅうを友達とやる。4つのパターンを順番にやる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>この時間は、楽しく算数の活動に浸らせましょう。</p> <p>楽しく活動する中で、かけ算九九をしっかりと定着させましょう。</p> </div>	<p>1. ビンゴのやり方をしっかりと説明する。</p> <p>ワークシートに数字を丁寧に書かせる。</p> <p>→ワークシート (10分)</p> <p>2. 答えを確かめながら活動させる。 (25分)</p> <p>3. 表を板書し確かめる。 (35分)</p> <p>4. 今までのカードを使って楽しく活動させる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・九九がしっかりと定着しているかを確かめながら活動を見取っていきましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・カードを使いながら、楽しい活動にしていきましょう。コミュニケーション力も身につきます。

IV 板書計画

九九ビンゴ

①

②

③

かけ算九九の 表



月

日()

時間目

名前

九九ビンゴ

< 3のだと 4のだと >

<

>

<

>

<

>

目標 ・6の段の九九を構成することができる。

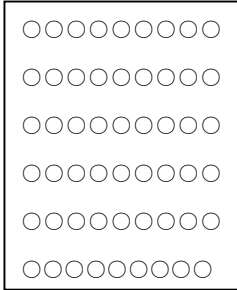
(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
1. 6のだんの九九を、くふうしてつくみましょう。 5, 2, 3, 4の段を作った時のことを思い出し見通しをもつ。	1. 見通しをもたせる。 (5分)
2. 6の段の九九を構成する。 ・かける数の分だけ6をたす。 $6 \times 1 = 6$ $6 \times 2 = 6 + 6 = 12$ $6 \times 3 = 6 + 6 + 6 = 18 \dots$ $6 \times 9 = 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 = 54$ ・6ずつ増えることを利用する。 $6 \times 1 = 6$ $6 \times 2 = 12 \leftarrow 6 + 6$ $6 \times 3 = 18 \leftarrow 12 + 6 \dots$ $6 \times 9 = 54 \leftarrow 48 + 6$	2. 2つの方法を理解させる。 (25分)
3. 6の段の構成を振り返る。 6の段の答えを発表する。 ・6ずつ増えている。 ・6の段では、かける数が1増えると答えは6増える。	3. 図と関連させて確認する。 (35分)
4. 教科書、p29 6の段に答えを記入する。 5. p27の表に、6の段を記入する。	4. 丁寧に書かせる。 (40分) 5. 唱えながら記入させる。 (45分)

今までのことを使って6の段を構成させましょう。

わからない子には、図を使って考えさせましょう。



II 指導のポイント

- ・既習を想起させて活動させましょう。
- ・かけ算(1)のワークシートを見習い、自分のノートに書かせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・関連付けて説明する力を育てましょう。

IV 板書計画

問題

こどもの考え1
(6を足していく)

こどもの考え2
(6ずつ増える)

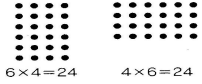
6のだんの九九



目標

・6の段の九九の構成を見直しながら、乗法について成り立つ性質を考えることができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 6のだんの九九をおぼえましょう。</p> <p>「6の段のカードを作りましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6の段のカードを作る。 <p>2. 「6の段の九九の唱え方を覚えましょう。」</p> <p>六一が 6 (ろくちが ろく) 六二 12 (ろくに じゅうに)</p> <p>六三 18 (ろくさん じゅうはち) 六四 24 (ろくし にじゅうし)</p> <p>六五 30 (ろくご さんじゅう) 六六 36 (ろくろく さんじゅうろく)</p> <p>六七 42 (ろくしち しじゅうに) 六八 48 (ろくは しじゅうはち)</p> <p>六九 54 (ろっく ごじゅうし)</p> <p>3. 6の段の九九を見直す。</p> <p>「かけ算九九表の、6の段と他の段を見て気がつくことを見つけてみましょう。」</p> <p>『6×4の答えは、4×6の答えと同じになっています。</p> <p>$6 \times 4 = 4 \times 6$』</p>  <p>『6×3の答えは4×3の答えと2×3の答えをたした数になっています。』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>$6 \times 2 = 2 \times 6$、$6 \times 3 = 3 \times 6$、$6 \times 4 = 4 \times 6$ $6 \times 5 = 5 \times 6$となる。 6の段は、4の段と2の段をたすとできる。</p> </div> <p>4. P30 1の問題を解く。</p>	<p>1. 準備しているカードを使う。 (10分)</p> <p>2. 板書し、ゆっくりと唱えさせる。 (20分)</p> <p>3. p27のかけ算ひょうを見て考えさせる。 →ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content;"> <p>図と関連付けて説明するとわかりやすいでしょう。</p> </div> <p>図と関連させて説明させる。 (40分)</p> <p>4. 個別にかかわる (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・習った九九は家庭でも練習するようにさせましょう。
- ・6の段の九九の答えが他の段にあることに気付かせたり、2の段と4の段をたしたら答えが出ることなど、発見する楽しさを味わわせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・他の段との関連で九九を見直す際、図と関連づけて考えさせましょう。

IV 板書計画

問題

6のだんの九九

こどもの考え2
(書かせる)

こどもの考え1
(書かせる)

まとめ



月 日() 時間目 名前

かけ算九九ひょうの 6のだと ほかのだんを 見て
気がつくことを かきましょう。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54

<気がついたこと>

月

日()

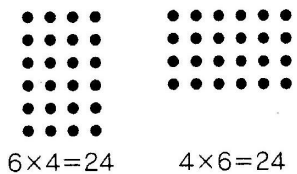
時間目 名前

かけ算九九ひょうの 6のだとと ほかのだとを 見て
気がつくことを かきましょう。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54

<気がついたこと>

6×4の答えは、4×6の答えと同じになっています。6×4=4×6

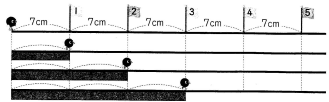


6×3の答えは4×3の答えと2×3の答えをたした数になっています。

目標

- 乗法の九九について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたを
考えることができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. 7のだんの九九を、くふうして つくりましょう。</p>  <p>「7cmのテープの2倍、3倍…の長さを求めよう。」 今まで習った九九を作った時のことを思い出し、テープ図を見ながら対応させて考える。</p> <p>2. 7の段の九九を構成する。 <ul style="list-style-type: none"> かける分だけ7をたす。 7ずつ増えることを利用する。 今まで習ったかけ算のかける数とかけられる数を逆にしておかるところを見つける。 </p> <p>3. 7の段の構成を振り返る。 7の段の答えを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 7ずつ増えている。 7の段では、かける数が1増えると答えは7増える。 7×2の答えは、2×7の答えと同じ・・・ </p> <p>4. 教科書、p 31 7の段に答えを記入する。</p> <p>5. p 27の表に、7の段を記入する。</p>	<p>1. 図を見て見通しをもたせる。(5分)</p> <p>2. 3つの方法の中で、かける数の分だけたす方法が大変であることに気付かせる。(25分)</p> <p>3. 図と、3つの方法を関連させて説明させる。(35分)</p> <p>4. 丁寧に書かせる。(40分)</p> <p>5. 唱えながら記入させる。(45分)</p>

今までのことを使って7の段を構成させましょう。

わからない子には、図を使って考えさせましょう。

II 指導のポイント

- 既習を想起させて活動させましょう。
- 6の段の時と同じように、これまでのワークシートを見ながら、自分のノートに書かせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- 関連付けて説明する力を育てましょう。

IV 板書計画

問題

こどもの考え1
(7をたす)

こどもの考え2
(7ずつ増える)

7の段

今まで習った九九を利用



目標

- ・ 7のだんの九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。
(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 7のだんの九九をしあげましょう。</p> <p>「7の段の九九を書きましょう。」</p> <p>・ $7 \times 1 \sim 7 \times 9$までをカードに書き、裏に答えを書く。</p> <p>2. 「7の段の九九の唱え方を覚えましょう。」</p> <p>七一が 7 (しちいちが しち) 七二 14 (しちに じゅうし)</p> <p>七三 21 (しちさん にじゅういち) 七四 28 (しちし にじゅうはち)</p> <p>七五 35 (しちご さんじゅうご) 七六 42 (しちろく しじゅうに)</p> <p>七七 49 (しちしち しじゅうく) 七八 56 (しちは ごじゅうろく)</p> <p>七九 63 (しちく ろくじゅうさん)</p> <p>3. 7の段の九九を見直す。</p> <p>「かけ算九九表の、7の段と他の段を見て気がつくことを見つけましょう。」</p> <p>『$7 \times 2 = 14$と$2 \times 7 = 14$ $7 \times 3 = 21$と$3 \times 7 = 21$ ・・・かけられる数とかける数を入れ替えても答えは同じ。』</p> <p>『7の段は、5の段+2の段、3の段+4の段となっている。』</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;"> $7 \times 9 \left\{ \begin{array}{l} \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \end{array} \right.$ </div> <div style="margin-right: 20px;"> $\left. \begin{array}{l} \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \end{array} \right\} 5 \times 9$ </div> <div> $\left. \begin{array}{l} \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \\ \text{〇} \end{array} \right\} 2 \times 9$ </div> </div>	<p>1. カードに丁寧に書かせる。 (10分)</p> <p style="text-align: center;">今までのカードを使う。</p> <p>2. 板書し、ゆっくりと唱えさせる。 (20分)</p> <p>3. ワークシートを見て考えさせる。 →ワークシート</p>
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>$7 \times 2 = 2 \times 7, 7 \times 3 = 3 \times 7, 7 \times 4 = 4 \times 7,$ $7 \times 5 = 5 \times 7, 7 \times 6 = 6 \times 7$となる。 7の段=5の段+2の段 7の段=3の段+4の段</p> </div> <p>4. p 32、2, 3の問題を解く。</p>	<p style="text-align: center;">図と関連付けて説明させましょう。</p> <p>図と結び付ける。 (40分)</p> <p>4. 個別にかかわる(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 習った九九は、家庭でも練習させましょう。
- ・ 7の段の九九の答えが他の段にあることに気付かせたり、5の段と2の段をたすと答えが出たりするなど、発見する楽しさを味わわせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 他の段との関連で九九を見直す際、図と関連付けて考えさせましょう。

IV 板書計画

問題

7のだんの九九

こどもの考え2

こどもの考え1

まとめ



月

日()

時間目 名前

かけ算九九ひょうの 7のだと ほかのだんを 見て
気がつくことを かきましょう。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63

<気がついたこと>

月

日()

時間目 名前

かけ算九九ひょうの 7のだとと ほかのだんを 見て
気がつくことを かきましょう。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7	7	14	21	28	35	42	49	56	63

<気がついたこと>

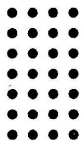
7×2の答えは2×7の答えと同じ

7×3の答えは3×7の答えと同じ

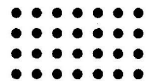
7×4の答えは4×7の答えと同じ

7×5の答えと5×7の答えは同じ

7×6の答えと6×7の答えは同じ



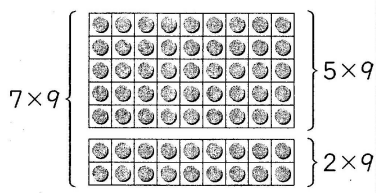
$7 \times 4 = 28$



$4 \times 7 = 28$

7のだんの九九は、5のだとと2のだんの九九をたした答えになっている。

4のだとと3のだんの九九をたした答えにもなっている。



目標

・ 8の段、9の段を構成することができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 8の段、9の段の九九をくふうしてつくみましょう。</p> <p>今までのかけ算を構成した時のことを思い出させ見通しをもたせる。</p> <p>2. 8の段の九九と9の段の九九を構成する。</p> <p>①かける数の分だけかけられる数をたす。</p> <p>②かける数が1増えると、答えはかけられる数ずつ増えていく。</p> <p>③習ったかけ算を利用し、かけられる数とかける数を逆にして答えを求める。</p> <p>④習った九九同士をたすと答えが出る。</p> <p>3. 「8の段の答えを確かめましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8の段の九九の構成のしかたを話し合い、まとめる。 「9の段の答えを確かめましょう。」 ・ 9の段の九九の構成のしかたを話し合い、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>今までのかけ算九九を構成した時のことを思い出しながら、まとめていくとよいでしょう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今まで つかっていた くふうが、8の段や9の段にも つかうことができる。</p> </div> <p>4. 教科書 p 33の8の段、p 35の9の段の九九の答えを記入する。</p> <p>5. p 27の表に8の段、9の段の九九の答えを記入する。</p>	<p>1. 見通しをもたせる。(5分)</p> <p>2. 今までに習ったことを使って構成させる。 →ワークシート (25分)</p> <p>3. わからない子には、図と関連させて考えさせる。(37分)</p> <p>4. 唱えながら記入させる。(45分)</p>

II 指導のポイント

・ 九九構成の終わりの時間なので、今までも工夫を活用して考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・ 構成の工夫を説明することのできる力を身につけさせましょう。

IV 板書計画

問題

8のだんの九九
くふう

9のだんの九九
くふう

まとめ



月

日()

時間目 名前

8のだん、9のだんの 九九を、くふうして つくりましょう。

8のだん・9のだんも、かける数が1ふえるところは……

8×6 のこたえは、 5×6 の答えと 3×6 の答えをたせば……

8×2 や 9×2 は、 $2 \times \square$ 、 $2 \times \triangle$ と同じになるから……

< 8のだん >

< 9のだん >

目標

- ・ 8の段、9のだんの九九を唱えることができ、それを用いて問題を解決することができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点																		
<p>1. 8のだん、9のだんの九九をおぼえましょう。</p> <p>「8の段、9の段の九九を書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までのカードと同じように、8の段、9の段のカードを作る。 <p>2. 「8の段、9の段の九九の唱え方を覚えましょう。」</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>八一が 8 (はちいちが はち)</td> <td>九一が 9 (くいちが く)</td> </tr> <tr> <td>八二 16 (はちに じゅうろく)</td> <td>九二 18 (くに じゅうはち)</td> </tr> <tr> <td>八三 24 (はちさん にじゅうし)</td> <td>九三 27 (くさん にじゅうしち)</td> </tr> <tr> <td>八四 32 (はちし さんじゅうに)</td> <td>九四 36 (くし さんじゅうろく)</td> </tr> <tr> <td>八五 40 (はちご しじゅう)</td> <td>九五 45 (くご しじゅうご)</td> </tr> <tr> <td>八六 48 (はちろく しじゅうはち)</td> <td>九六 54 (くろく ごじゅうし)</td> </tr> <tr> <td>八七 56 (はちしち ごじゅうろく)</td> <td>九七 63 (くしち ろくじゅうさん)</td> </tr> <tr> <td>八八 64 (はっば ろくじゅうし)</td> <td>九八 72 (くは しちじゅうに)</td> </tr> <tr> <td>八九 72 (はっく しちじゅうに)</td> <td>九九 81 (くく はちじゅういち)</td> </tr> </table> <p>3. 8の段、9の段の九九を唱える練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員で唱える。 ・ 順番に唱える。 ・ ペアになって唱える。 	八一が 8 (はちいちが はち)	九一が 9 (くいちが く)	八二 16 (はちに じゅうろく)	九二 18 (くに じゅうはち)	八三 24 (はちさん にじゅうし)	九三 27 (くさん にじゅうしち)	八四 32 (はちし さんじゅうに)	九四 36 (くし さんじゅうろく)	八五 40 (はちご しじゅう)	九五 45 (くご しじゅうご)	八六 48 (はちろく しじゅうはち)	九六 54 (くろく ごじゅうし)	八七 56 (はちしち ごじゅうろく)	九七 63 (くしち ろくじゅうさん)	八八 64 (はっば ろくじゅうし)	九八 72 (くは しちじゅうに)	八九 72 (はっく しちじゅうに)	九九 81 (くく はちじゅういち)	<p>1. カードに数字を丁寧に書く。(10分)</p> <p>2. 板書を見ながら、唱える。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>九九を、早く唱えるといった意識の子が出てくると思うので、ゆっくりと間違わずに唱えるということを重視しましょう。</p> </div> <p>(20分)</p> <p>3. 家でも練習するように働きかける。(30分)</p>
八一が 8 (はちいちが はち)	九一が 9 (くいちが く)																		
八二 16 (はちに じゅうろく)	九二 18 (くに じゅうはち)																		
八三 24 (はちさん にじゅうし)	九三 27 (くさん にじゅうしち)																		
八四 32 (はちし さんじゅうに)	九四 36 (くし さんじゅうろく)																		
八五 40 (はちご しじゅう)	九五 45 (くご しじゅうご)																		
八六 48 (はちろく しじゅうはち)	九六 54 (くろく ごじゅうし)																		
八七 56 (はちしち ごじゅうろく)	九七 63 (くしち ろくじゅうさん)																		
八八 64 (はっば ろくじゅうし)	九八 72 (くは しちじゅうに)																		
八九 72 (はっく しちじゅうに)	九九 81 (くく はちじゅういち)																		
<p>4. カードを使って、p26の練習をする。</p> <p>5. p34の1、p35の2の問題を解く。</p>	<p>4. 楽しく活動させる。(40分)</p> <p>5. 個別に関わる。(45分)</p>																		

II 指導のポイント

- ・ 8の段、9の段の九九をしっかりと覚えさせましょう。
- ・ 今までの九九の構成を想起させ活動させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ この時間は、覚えることが中心なので特になし。

IV 板書計画

問題

8のだんの九九

9のだんの九九



目標

・1の段の九九を構成し、唱えることができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">お楽しみ会で、1人に みかんを 2こと、ケーキを 1こ くばります。 6人分では、みかんと ケーキはそれぞれ 何こ いらいますか。</div> 「式を書いて、答えを求めましょう。」 ・みかん $2 \times 6 = 12$ 12こ ・ケーキ $1 \times 6 = 6$ 6こ</p> <p>2. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">1のだんの 九九を つくりましょう。</div> ・今まで学習したことを使って、1の段の九九を作る。 ① $1 \times 1 = 1$ $1 \times 2 = 1 + 1 = 2$ $1 \times 3 = 2 + 1 = 3$ ② $1 \times 2 = 2 \times 1$ $1 \times 3 = 3 \times 1$. . .</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ① 1の段の答えは1ずつ増えていく。 ② 1にどんな数をかけても答えはかける数と同じになる。 </div> <p>p 27の表に1の段を書き加える。</p> <p>3. 1の段の九九を覚えよう。 一一が 1 (いにちが いち) 一二が 2 (いんにが に) 一三が 3 (いんさんが さん) 一四が 4 (いんしが し) 一五が 5 (いんごが ご) 一六が 6 (いんろくが ろく) 一七が 7 (いんしちが しち) 一八が 8 (いんはちが はち) 一九が 9 (いんくが く)</p> <p>4. 1の段のカードを作る。 5. 1の段を唱える。 6. p 26の九九練習をする。</p>	<p>1. 式を書かせ、答えを求めさせる。(10分)</p> <p>→ワークシート</p> <p>2. 今まで使った性質をもとに構成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 乗法の性質を確認しながら活動させましょう。 </div> <p>(20分)</p> <p>3. 板書し、ゆっくりと唱えさせる。(30分)</p> <p>4. カードに丁寧に書かせる。(35分)</p> <p>5. 個別に行う。(40分)</p> <p>6. 個別に行う。(45分)</p>

II 指導のポイント

・1の段の九九をしっかりと覚えさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・1の段の九九の構成を既習をもとに考えさせましょう。

IV 板書計画

問題

こどもの考え

1のだんの 九九

まとめ



月 日() 時間目 名前

お楽しみ会で、1人に みかんを 2 こと、ケーキを 1 こと
くばります。

6人分では、みかんと ケーキは、それぞれ 何こ いらいますか。

<みかん>

<ケーキ>

1のだんの 九九を つくりましょう。

$$1 \times 1$$

$$1 \times 2$$

$$1 \times 3$$

$$1 \times 4$$

$$1 \times 5$$

$$1 \times 6$$

$$1 \times 7$$

$$1 \times 8$$

$$1 \times 9$$

目標

- 九九表をもとに、かける数が1増えると、積はかけられる数分だけ増えることや交換法則を説明することができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 九九の ひょうを 見ながら、九九を つくった ときに つかった きまりを ふりかえりましょう。</p> <p>「4の段を見て、気付いたことを発表しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かける数が1ふえると、答えは4ふえる。 <p>「ほかの段でも言えるか、調べてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの段も、その段の数ずつ増えている。 ・ 7×8 と 8×7 の答えは同じになっている。 ・ ほかの段でも同じことが言える。 <p>2. p 39の九九表を見て、答えが15になる九九を見つけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3×5 と 5×3 (例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①かける数が 1 ふえると、答えは かけられる数だけ ふえます。 $4 \times 8 = 4 \times 7 + 4$</p> <p>②かけられる数と かける数を 入れかえて 計算しても、 答えは 同じに なります。 $7 \times 8 = 8 \times 7$</p> </div> <p>3. p 40の1, 2, 3の問題を解く。</p> <p>4. いろいろな かけ算の きまりを つかって、九九の ひょうを 広げて みましょう。</p> <p>「あ、い、うには、それぞれどんな式の答えが入りますか。」</p> <p>「あ、い、うに入る数を求めましょう。」</p> <p>「あいているところに式に書いて答えを書きいれましょう。」</p>	<p>1. 今までに見つけたかけ算の性質を振り返りながら調べさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>九九表を見て、気付いたことを出し合いましょう。</p> </div> <p>→ワークシート1</p> <p style="text-align: right;">(15分)</p> <p>2. 答えが同じかけ算を見つけさせる。</p> <p>今までに見つけた性質をまとめる。</p> <p style="text-align: right;">(25分)</p> <p>3. 個別に関わる(35分)</p> <p>4. わかるところから考えさせる。(45分)</p> <p>→ワークシート2</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発展的扱いです。わかるところに記入させましょう。</p> </div>

II 指導のポイント

- 九九表をもとに、今まで見つけた性質を確認しながらまとめていくことが大切です。
- 10の段以上は、今までの性質を使って解決する力を育てるために大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- 根拠をもって説明する力を育てましょう。
- を使った図(p 33の図)で説明することも大切です。

IV 板書計画

問題

子どもの考え1
(書かせる)

子どもの考え2
(書かせる)

まとめ



月

日()

時間目

名前

ワークシート1

九九の ひょうを 見ながら、九九を つくった ときに つかった
きまりを まとめましょう。

		かける数								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1のდან	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2のდან	2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
3のდან	3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
4のდან	4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
5のდან	5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
6のდან	6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
7のდან	7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
8のდან	8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
9のდან	9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

<気がついたことを書きましょう>

目標

- ・ある量が、もとにする量の何倍になっているのかをとらえることができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. かけ算九九を言いましょう。</p> <p>① 1の段から、9の段まで順番に唱える。</p> <p>② 9×9, 9×8, 9×7といったように、逆から唱える。 8の段～1の段まで同じように唱える。</p> <p>③ 友達とカードを使って答えを言い合う。</p> <p>2.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>アのテープの 3ばいの 長さに、それぞれ 色をぬりましょう。</p> </div> <p>3倍の部分に色を塗りましょう。</p> <p>ひとつ分・・・もとの長さ 3つ分・・・もとの長さの3ばい</p> <p>アのテープの長さは2cmです。色を塗ったところの長さは、それぞれ何cmですか。</p> <p>アのテープの3倍の長さ $2 \times 3 = 6$ 6cm</p> <p>3. イのテープの長さは、アのテープの長さの何倍ですか。 4倍</p> <p>4. p42の1、p106のアの問題を解く。</p>	<p>1. 九九を唱える練習をする。 (15分)</p> <p>2. もとの長さを把握させる。 教科書にかかせましょう。 (25分)</p> <p>3. 式、答えをしっかりと書かせる。 (35分)</p> <p>4. 個別に関わる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・長さのいくつ分かにあたる大きさを求める活動を通して、何倍の意味を理解させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・テープの図を把握させましょう。

IV 板書計画

問題

テープ図

子供の考え
しき 答え

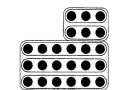
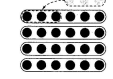
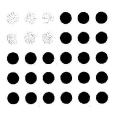


目標

・ものの数のもとめ方を、かけ算を活用し工夫して考えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。いろいろなもとめ方をくふうしましょう。</p> <p>①  $6 + 18 = 24$ 24こ</p> <p>②  $6 \times 4 = 24$ 24こ</p> <p>③  $6 \times 5 = 30$ $3 \times 2 = 6$ $30 - 6 = 24$ 24こ</p> <p>2. p45の1の問題を解く。</p>	<p>2. かたまりを意識させ、かけ算を考えさせる。 →ワークシート1</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">いろいろな区切り方を考え、工夫する楽しさを味わわせましょう。</p> <p>それぞれの考えを図をもとにして説明させる。 (40分)</p> <p>2. 個別に関わる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・一つの方法だけでなく、終わったら、他の方法も考えるようにすることが大切です。
- ・「まとまりの数」と「いくつ分」を図と結び付けて考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・図と式を結びつけて考え説明する力を育てましょう。

IV 板書計画

問題

問題

子どもの考え
☒ しき

子どもの考え
☒ しき



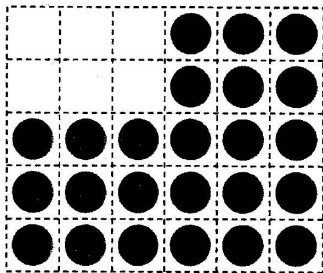
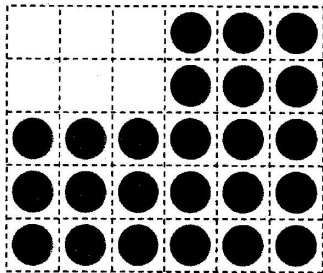
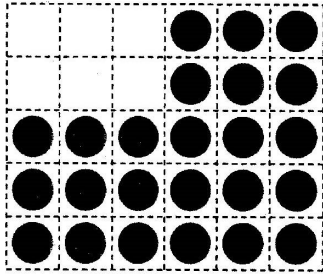
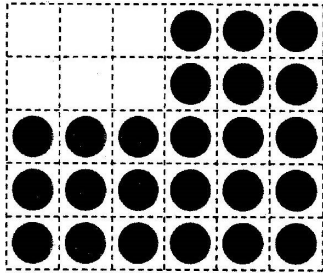
月

日()

時間目 名前

ワークシート1

はこの 中の チョコレートは、ぜんぶで 何こ ありますか。
いろいろな 、もとめ方を くふうしましょう。



目標

・九九を用いて答えを求めることができる。

(数量や図形に関する技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. p48、49の「たしかめよう」を解く。</p> <div data-bbox="279 560 997 750" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ノートにきれいに問題を書き、式・答えを書かせましょう。 問題を視写することも大切にしましょう。</p> </div>	<p>1. 2. 個別に関わり、一人一人のペースに合わせて問題を解かせる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・この時間は、かけ算九九がまだ十分できない子に、かかわるようにしましょう。
- ・急がず、しっかり丁寧に問題を解かせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからないときには、図を使って考えさせることが大切です。

IV 板書計画

全員がわからない問題を取り上げ、解決の手順を板書していく。



目標

・問題文を読み、既習事項を活用し問題を解くことができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. p 50、51の「算数の目」「おぼえているかな」を解く。</p> <div data-bbox="331 577 855 831" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>今までの復習の時間です。 じっくりと時間をかけて、今までのことを定着させる時間としましょう。</p> </div> <p>2. 問題をすべて終わった子には、p 46の「算数マイノート」をつくらうと、今まで使ったワークシートとを見比べさせ、自分のノートを作るてがかりとさせましょう。</p> <p>3. 早く終わった児童は、P106、107イウの問題に取り組む。</p>	<p>1. 一人一人のペースに合わせて考えさせる。 個別に関わる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・復習の時間なので、一人一人にしっかりと関わり、わからない部分は、前の教科書に戻り、前に使ったワークシートを見ながら考えさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・わからないときには、図をかいて考えることが大切です。

IV 板書計画

問題

全員がわからない問題を板書し、解決していく。



目標

・10や100や1000のまとまりを作って工夫して数えることができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点								
<p>1. 1円玉は 何こ ありますか。</p> <p>p 52の教科書の1円玉を見て考える。 「100のかたまりは、何個ありますか。」 『23個』 「1000のまとまりは何個できますか。」 『2個』</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>100が10こで1000になる。 1000が2こだから2000</p> </div> <p>『あと、100が3こと、10が5こと1が4こで、 三百五十四』 『二千と三百五十四をあわせて、二千三百五十四』</p> <p>2. 数字で書くと、 <table border="1" style="margin: 10px auto; text-align: center;"> <tr> <td style="font-size: small;">千のくらい</td> <td style="font-size: small;">百のくらい</td> <td style="font-size: small;">十のくらい</td> <td style="font-size: small;">一のくらい</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </table> </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>二千三百五十四は、2354と書きます。</p> </div> <p>3. 「2354の千の位の数字は何ですか。」 『千の位の数字は2です。』</p>	千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい	2	3	5	4	<p>1. 1円玉を数える。 →ワークシート1 100のかたまりを意識させる。</p> <p>→ワークシート2</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>1000のかたまりをしっかりと意識させましょう。</p> </div> <p style="text-align: right;">(35分)</p> <p>2. 位を意識させて数字を書く。 (40分)</p> <p>3. 他の位の数字も聞いてみましょう。(45分)</p>
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい						
2	3	5	4						

II 指導のポイント

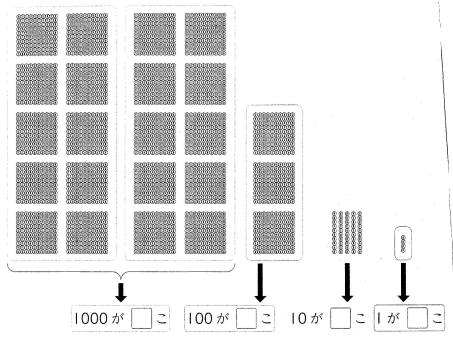
- ・10、100、1000のまとまりをつくり数えることのよさを実感させることが大切です。
- ・10ずつ、100ずつ、1000ずつのまとまりの数と対応させて、言い表すことに気付かせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・図と数字を対応させて考えさせましょう。

IV 板書計画

問題



$\begin{array}{c} 1000 \\ 1000 \end{array}$	$\begin{array}{c} 100 \\ 100 \\ 100 \end{array}$	$\begin{array}{c} 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \end{array}$	$\begin{array}{c} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{array}$
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい
2	3	5	4

まとめ



月

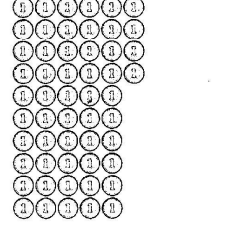
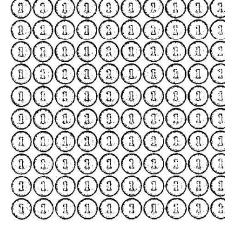
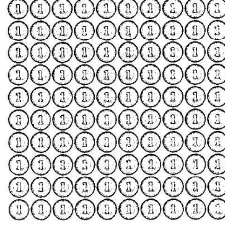
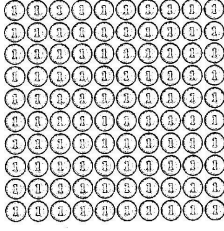
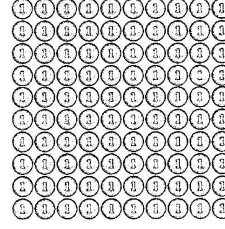
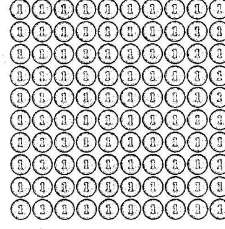
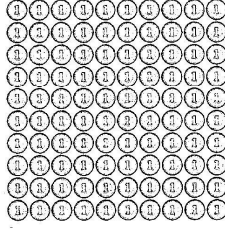
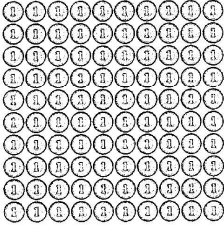
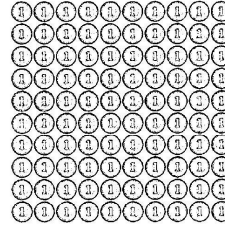
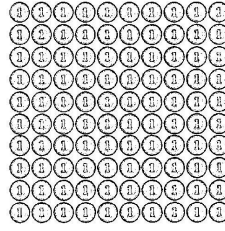
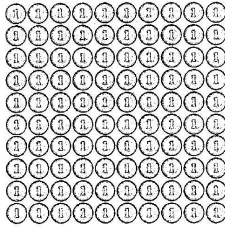
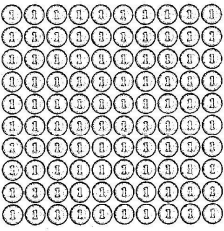
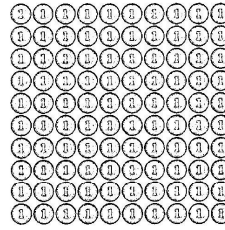
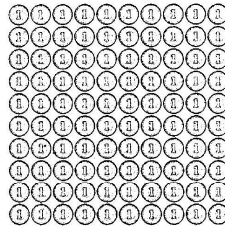
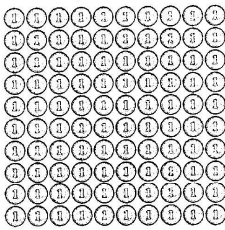
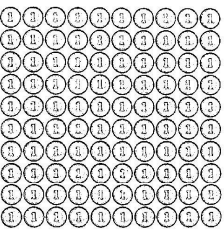
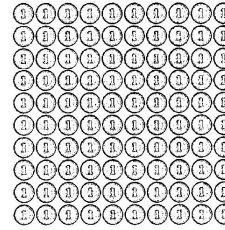
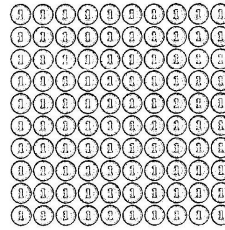
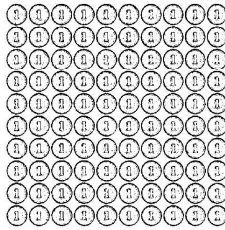
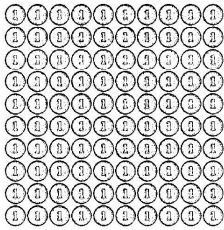
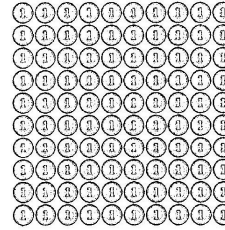
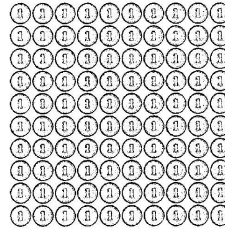
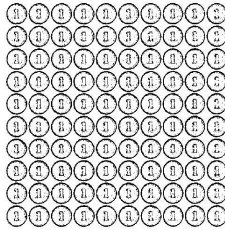
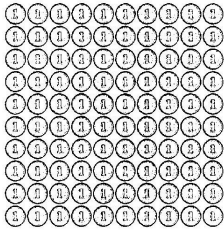
日()

時間目

名前

ワークシート1

1円玉をかぞえよう。



月 日() 時間日 名前

ワークシート2

1000が こ 100が こ 10が こ 1が こ

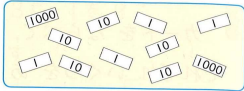
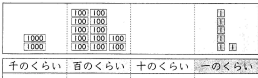
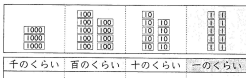
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1000</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1000</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">100</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">100</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">100</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</div>
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい
-	-	-	-

目標

・具体物の個数を位取りの原理をもとに書き表すことができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. いくつですか。 数字で書きましょう。</p>  <p>『1000, 10, 1はあるけど、100が1枚もない。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数カードを分類整理して数字であらわす。 <p>『1000が2こで2000、あと54と合わせて、二千五百四と読み、2054』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位取り板に表す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">二千五百四は2054と書きます。</div> <p>2. 2054の千のくらい、百のくらいの数字はそれぞれ何ですか。 千のくらい～2 百のくらい～0</p> <p>3. p55の2, 3, 4の問題を解く。</p> <p>4. カードをならべて、数をあらわしました。それぞれいくつをあらわしていますか。</p>   <ul style="list-style-type: none"> ・1000, 100, 10, 1は、それぞれいくつありますか。 ・千の位、百の位、十の位、一の位に数字を書きましょう。 3 2 0 6 4 0 0 0 <p>5. 3265, 6047, 9008を数カードであらわしましょう。</p> <p>6. p56, 57の5, 6, 7, 8, 9の問題を解く。</p>	<p>1. 数カードを分類し、ワークシートに記入させる。 (10分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">教師用の数カードを準備しておくといいでしょ う。</div> <p>ワークシートに、数字を記入する。 (15分)</p> <p>2. 位取り表を見て答えさせる。 (17分)</p> <p>3. 個別に関わる。 (25分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">数カードと位取りを関連付けてみる ことが大切です。</div> <p>4. ワークシートに記入させる。 (35分)</p> <p>5. 数カードを書かせる。 (40分)</p> <p>6. できない場合は宿題とする。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・空位のある4位数の書き方を通して、十進位取り記数法
のよさを感じさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・数カードを位取りを関連付けて考えるように
しましょう。

IV 板書計画

問題

$\begin{array}{c} 1000 \\ 1000 \end{array}$		$\begin{array}{c} 10 \\ 10 \\ 10 \end{array}$	$\begin{array}{c} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{array}$
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい
2	0	3	6

問題

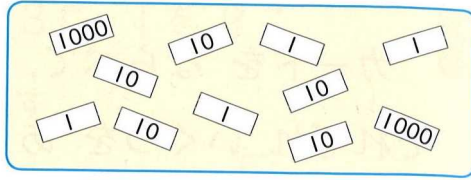
$\begin{array}{c} 1000 \\ 1000 \end{array}$	$\begin{array}{c} 100 \\ 100 \\ 100 \\ 100 \\ 100 \end{array}$		$\begin{array}{c} 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \end{array}$
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい

$\begin{array}{c} 1000 \\ 1000 \\ 1000 \\ 1000 \end{array}$	$\begin{array}{c} 100 \\ 100 \\ 100 \\ 100 \end{array}$	$\begin{array}{c} 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \\ 10 \end{array}$	$\begin{array}{c} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{array}$
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい



月 日() 時間目 名前

いくつですか。 数字で 書きましょう。



千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい

数カードを ならべて、数を あらわしました。

それぞれ どんな 数を あらわして いますか。

<table border="1"> <tr><td>1000</td></tr> <tr><td>1000</td></tr> </table>	1000	1000	<table border="1"> <tr><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td><td>100</td></tr> </table>	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		<table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td></tr> </table>	1	1	1	1	1	1	1
1000																								
1000																								
100	100																							
100	100																							
100	100																							
100	100	100																						
100	100	100																						
1																								
1																								
1																								
1																								
1																								
1	1																							
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい																					

<table border="1"> <tr><td>1000</td></tr> <tr><td>1000</td></tr> <tr><td>1000</td></tr> </table>	1000	1000	1000	<table border="1"> <tr><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td></tr> <tr><td>100</td><td>100</td></tr> </table>	100	100	100	100	100	100	100	100	100	<table border="1"> <tr><td>10</td></tr> <tr><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>10</td><td>10</td></tr> </table>	10	10	10	10	10	10	10	10	10	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td></tr> </table>	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1000																																		
1000																																		
1000																																		
100																																		
100	100																																	
100	100																																	
100	100																																	
100	100																																	
10																																		
10	10																																	
10	10																																	
10	10																																	
10	10																																	
1	1																																	
1	1																																	
1	1																																	
1	1																																	
1	1																																	
千のくらい	百のくらい	十のくらい	一のくらい																															

目標

・100を単位にして4位数の大きさをとらえることができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 100を 18こ あつめた 数は いくつですか。</p> <p>① 100のかずのカードを1こずつ100, 200・・・と数えて、1800</p> <p>② 100, 10個を1000に変える。100が8こで800 1000と800で1800</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>2. 2300は 100を 何こ あつめた 数ですか。</p> <p>① 2300は、1000が2個。100に変えると、2000は100が20個300は100が3個。あわせて23個。</p> <p>②</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>3. p 58の10, 11の問題を解く。</p> <p>4. 下の 数の線を見て 答えましょう。</p> <p>①一番小さい1めもりはいくつですか。 100</p> <p>②□にあてはまる数を書きましょう。 3000 4000</p> <p>③ア、イ、ウのめもりが表す数はいくつですか。 ア～600 イ～1700 ウ～5100</p> <p>④2800、4500を表すめもりに、↑をかきましょう。</p> <p>5. p 59の12の問題を解く。</p>	<p>1. わからない子には、数のカードをつくっておく。 →ワークシート (15分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>数カードと対応させて考えるようにしましょう。</p> </div> <p>2. 2000は、1000が2個、1000は100が10個、2000は100が20個と、くずす手法を丁寧に扱う。 →ワークシート (30分)</p> <p>3. 個別に関わる。(35分)</p> <p>4. 1めもりがいくつなのかしっかりとおさえる。教科書に記入させる。(45分)</p> <p>5. 時間がなければ宿題とする。</p>

II 指導のポイント

- ・数を相対的に見ることはいろいろな計算結果を見積もったり除法の商を考えたりするとき大切な考え方なので、丁寧に扱きましょう。
- ・普段から数の線を活用することが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

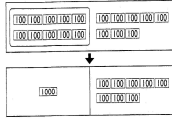
- ・形式的な数の操作だけではなく、具体的な操作活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

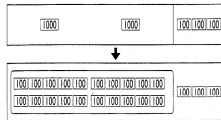
問題

問題

問題



$$100 \text{ が } 18 \text{ こ} \left\{ \begin{array}{l} 100 \text{ が } 10 \text{ こ} \rightarrow 1000 \\ 100 \text{ が } 8 \text{ こ} \rightarrow 800 \end{array} \right\} \square$$



$$2300 \left\{ \begin{array}{l} 2000 \rightarrow 100 \text{ が } 20 \text{ こ} \\ 300 \rightarrow 100 \text{ が } 3 \text{ こ} \end{array} \right\} 100 \text{ が } \square \text{ こ}$$



月 日() 時間目 名前

100を 18こ あつめた 数は いくつですか。

100	100	100	100	100
100	100	100	100	100

100	100	100	100	100
100	100	100		

↓

--	--

2300は、100を 何こ あつめた 数ですか。

1000	1000	100	100	100
------	------	-----	-----	-----

↓

--

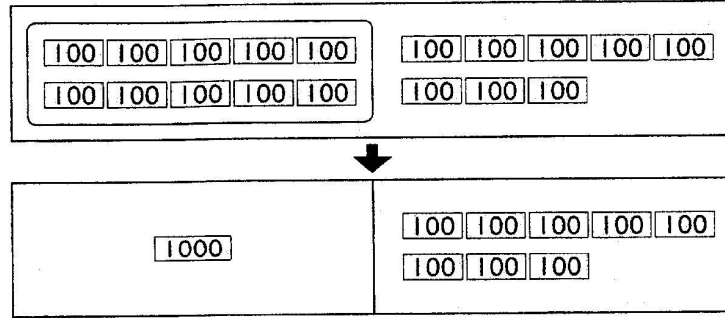
月

日()

時間目 名前

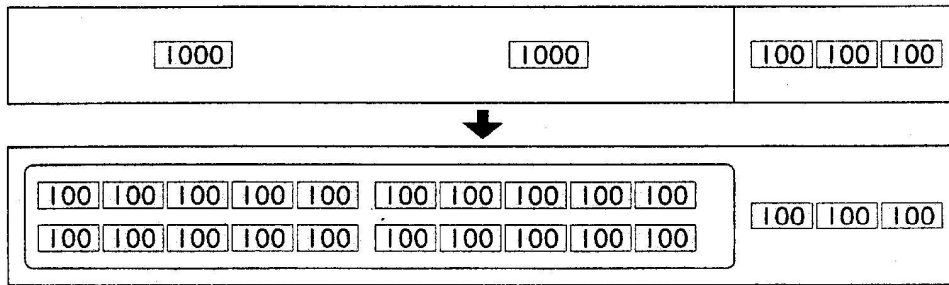
解答

100を 18こ あつめた 数は いくつですか。



100が 18こ $\left\langle \begin{array}{l} 100が 10こ \rightarrow 1000 \\ 100が 8こ \rightarrow 800 \end{array} \right\rangle$ 1800

2300は、100を 何こ あつめた 数ですか。



2300 $\left\langle \begin{array}{l} 2000 \rightarrow 100が 20こ \\ 300 \rightarrow 100が 3こ \end{array} \right\rangle$ 100が 23 こ

目標

・10000の構成、数の読み方、書き方を理解する。(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学習活動	留意点
<p>1. ○は ぜんぶで 何こ ありますか。</p> <p>○100ずつ数える。 100が100個、100が10個で1000</p> <p>①1000個が何個ありますか。 1000が10個</p> <p>2. ①千が10個集まったのだから、百や千と同じように新しい言い方が必要だ。 ②数字を書く新しい位の部屋も必要だ。 ③千は百の左に書いたから、千の左に新しい位の部屋を置けばよい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>千を 10こ あつめた 数を 一万と いい、 10000と 書きます。 1000が10こあつまって10000 100が100こあつまって10000</p> </div> <p>3. 9000は、あといくつで10000になりますか。 1000</p> <p>6. p61の13, 14, 15の問題を解く。</p>	<p>1. 数え方を考えさせる。 (10分)</p> <p>→ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>100のかたまり、1000のかたまりを意識させましょう。</p> </div> <p>2. 既習の数の仕組みから、類推させる。 (25分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>数直線を見ながら考えさせましょう。</p> </div> <p>3は数直線と対応させる。 (32分)</p> <p>6. 個別に関わり、最後に全員で数直線と対応させながら確認する。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・既習の位取りの原理、記数法から類推させ考えさせることが大切です。
- ・数直線の見方を大切に扱きましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・数のカード、数直線を使った活動を丁寧に扱きましょう。

IV 板書計画

問題

子どもの考え1
(書かせる)

子どもの考え2
(書かせる)

まとめ



目標

・4位数の多様な見方について考え、説明することができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 3人は、3800を つぎのように あらわしました。 □に あてはまる 数を書きましょう。</p> <p>「数の線で、3800を表すめもりに↓をかきましょう。」 ・教科書の数の線に↓を入れる。</p> <p>2. 3800のいろいろな表し方について考える。 「□に数字を入れましょう。」 はると：3800は、3000 と 800をあわせた数です。 あ み：3800は、4000より 200 小さい数です。 こうた：3800は、100を 38 こあつめた数です。</p> <p>3. はるとさんの考えを式に表しましょう。 <math>3800 = \text{3000} + \text{800}</math></p> <p>4. 3800を2400にかえます。上の3人と同じように、 2400をあらわしてみましよう。 ①2400は、2000と400をあわせた数です。 ②2400は、3000より600小さい数です。 ③2400は、100を24こあつめた数です。</p> <p>5. p62の16の問題を解く。</p> <p>6. p63の「いかしてみよう」p64「たしかめよう」p65「算数の目」を解く。</p>	<p>1. 数直線の1めもりがいくつになるかをはっきりさせ考えさせる。 (8分)</p> <p>2. 多様な見方をさせる。 (15分)</p> <p>3. 個別に関わる(20分)</p> <p>4. 自分なりに説明できるようにさせる。 (28分)</p> <p>5. 時間があれば、いろいろな数でも考えさせる。 (33分)</p> <p>6. できない場合は宿題とする。 (45分)</p>

数直線と関連付けて考えさせましょう。

II 指導のポイント

- ・教科書に記入させましよう。
- ・4位数を多様に見る見方を大切に扱いましよう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・数直線の見方をしっかりと身につけさせることが大切です。

IV 板書計画

問題

数直線

3800の
それぞれの表し方

2400について



目標

- ・ 1 m のものさしを用いて長さを測定することができ、その長さを適切な単位を用いて表すことができる。(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. p 67 の写真を見て、長いものの長さへの興味・関心を高める。</p> <p>2. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ここねさんが りょう手を 広げた 長さは、30 cm のものさしで、ちょうど 4 つ分でした。 ここねさんが りょう手を 広げた 長さは、どれだけですか。 </div></p> <p>1 m 20 cm のテープを切っておき、測らせる。</p> <p>・ $30 + 30 + 30 + 30 = 120$ 120 cm</p> <p>『30 cm のものさしで測ると、何回も使わないとだめだから大変だ。』</p> <p>『数が大きくて、計算を間違えやすい。』</p> <p>『みんな同じ長さなのに、測った長さが違うのはおかしい。』</p> <p>3. 「正しく、簡単に測る方法はないだろうか。」</p> <p>『もっと長いものさしを使うとよい。』</p> <p>『新しい単位を考えるとよい。』</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 長いものの長さをあらわすときは、メートルというたんいをつかいます。 メートルは m と書き、1 m は 100 cm です。 $1 m = 100 cm$ </div> <p>4. ここねさんが りょう手を 広げた 長さは、何 m 何 cm ですか。</p> <p>120 cm だから 1 m 20 cm</p> <p>5. P 68 の 1 の問題を解く。</p>	<p>1. 長さへの興味をもたせる。(5分)</p> <p>2. 個人、又はグループで測らせる。(20分)</p> <p>→ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 実際にテープを準備し測らせるとよいでしょう。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 1 m のものさしを準備しましょう。 </div> <p>3. 新しい単位の必要性を感じ取らせる。 m の書き方を練習させる。(35分)</p> <p>4. m と cm の関係を把握させる。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ 30 cm のものさしで測る活動を通して、長いものを測るときの手間から、「1 m」の長さの便利さを味わせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 実際にもものさしで測る活動を大切にしましょう。

IV 板書計画

問題

30 cmのものさしを使った結果

1 mのものさしの結果
mの書き方

まとめ



月

日()

時間目 名前

ここねさんが りょう手を 広げた 長さは、30cmの
ものさしで、ちょうど 4つ分でした。

ここねさんが りょう手を 広げた 長さは、何cmですか。

<はかった けっか>

<まとめ>

.....

.....

.....

月

日()

時間目

名前

解答

ここねさんが りょう手を 広げた 長さは、30cmの
ものさしで、ちょうど 4つ分でした。

ここねさんが りょう手を 広げた 長さは、何cmですか。

<はかった けっか>

120cm

<まとめ>

長い ものの 長さを あらわすときは、メートルと いう
たんいを つかいます。

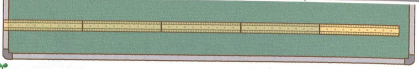
メートルは mと 書き、1mは 100cmです。

$1\text{ m} = 100\text{ cm}$

m

目標 ・ m と c m の単位の関係を理解することができる。(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. p 69 の問題を解く。</p>  <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2 けいじばんのよこの長さをはかったら、1mのものさしで5つ分と20cmでした。けいじばんのよこの長さは、どれだけですか。</p> </div> <p>○掲示板の横の長さを○m○cmで答える。 ○掲示板の横の長さをcmのみで答える。</p> <p>2. P69 2, 3の問題を解く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3. 1mの長さだと思つてものを見つけましょう。また、ものさしをつかって長さをはかりましょう。</p> </div> <p>①自分の体で、床から1mの高さだと思つるところを予想し、確かめる。</p> <p>②自分で測りたい物を決める。 グループをつくつて活動してもよい。 予想を立ててから記録用紙に記入する。</p> <p>③気付いたことや困つたことなどを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>はかって気付いたことや困つたことについて自由に話し合ひましょう。</p> </div> <p>3. p 70 の6の問題を解く。 4. p 72、p 73は宿題とする。</p>	<p>1. 全体で指導する。 1m = 100cmを意識させる。</p> <p style="text-align: right;">(10分)</p> <p>3. 1mのものさしを使って測らせる。 →ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>長さを予想してから測らせることが大切です。</p> </div> <p style="text-align: right;">(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ m と c m の関係をしっかり把握させましょう。
- ・ ものさしの使い方、端をそろえる、まっすぐにあてて測ることに注意させましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ はかる活動をたっぷりと保障しましょう。

IV 板書計画

問題

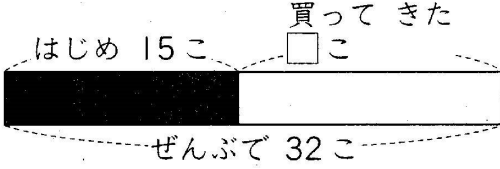
はかったものの長さ



目標

- ・数量の関係を表したテープ図を見て、加法逆の減法の問題を解決することができる。
(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. みかんが 15こ あります。何か 買って きたので、 ぜんぶで 32こに なりました。 買って きた みかんは 何こですか。</p> <p>・図を考えましょう。</p> <p>① はじめに 15こ ② つぎに 何か 買った ③ ぜんぶで 32こ</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>はじめに つぎに ぜんぶでが キーワードです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>図がかけない子には、教科書の図を順番に 見せ、考えさせましょう。 教科書の図を隠しながら、順番に見せま しょう。</p> </div> <p>2. 式を考えましょう。</p> <p style="margin-left: 40px;">$15 + \square = 32$</p> <p>しき $32 - 15 = 17$ 17こ</p>	<p>1. 問題文を読み、図を考 えさせる。 問題文の構造を理解さ せ、順番に考えさせる。</p> <p>→ワークシート</p> <p>図と関連付けながら考 えを全体で確認する。</p> <p style="text-align: right;">(35分)</p> <p>2. □を使った式と図か ら、式を考えさせる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・順序よく考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・テープ図は今後も解決するための大切な手段となるので、
丁寧に扱きましょう。

IV 板書計画

問題

テープ図

□を使った式
しき
答え



月

日()

時間目 名前

みかんが 15こ あります。

どこか 買って きたので、

ぜんぶで 32こに なりました。

買って きた みかんは どこですか。

<図>

□を つかって しきを つくりましょう。

しき

答え

月

日()

時間目

名前

解答

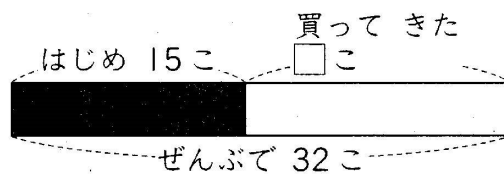
みかんが 15こ あります。

何かか 買って きたので、

ぜんぶで 32こに なりました。

買って きた みかんは 何こですか。

<図>



□を つかって しきを つくりましょう。

$$15 + \square = 32$$

しき

$$32 - 15 = 17$$

答え

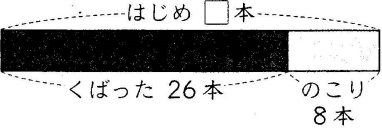
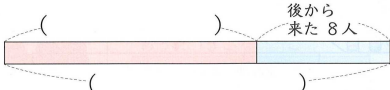
17こ

目標

・数量の関係を表した図を見て、減法逆の加法の問題を解決することができる。

(数量や図形についての技能)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ジュースが 何本か あります。26本 くぼったので、のこりが 8本に なりました。ジュースは、はじめ 何本 ありましたか。</p> <p>・図を考えましょう。</p> <p>①はじめに □本 ②つぎに 26本 くぼった。 ③のこりは 8本</p>  <p>2. 式を考えましょう。</p> <p style="padding-left: 40px;">$\square - 26 = 8$</p> <p>①はじめの数は、残っている数に配った数をたせばよい。</p> <p style="padding-left: 40px;">しき $8 + 26 = 34$ 34本</p> <p>②はじめの数は、配った数に残りの数をたせばよい。</p> <p style="padding-left: 40px;">しき $26 + 8 = 34$ 34本</p> <p>3. 教室に 何人か います。後から 8人 来たので、みんなで 23人に なりました。はじめに いたのは 何人ですか。</p> <p>・図を考えましょう。</p>  <p>4. 式を考えましょう。</p> <p style="padding-left: 40px;">$\square + 8 = 23$ $23 - 8 = 15$ 15人</p> <p>5. p78の1の問題は宿題にする。</p>	<p>1. 問題文を読み、図を考えさせる。 問題文の構造を理解させ、順番に考えさせる。</p> <p>→ワークシート</p> <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">はじめに つぎに のこりは が キーワードです。</p> <p>図と関連付けながら考えを全体で確認する。</p> <p>2. □を使った式と図から、式を考えさせる。 (20分)</p> <p>3. 全体で確認する。</p> <p>4. 個別で関わる。</p> <p style="text-align: right;">(45分)</p>

II 指導のポイント

・順序よく考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・テープ図を丁寧に扱い、自分でかけるようにすることが大切です。

IV 板書計画

問題

問題

テープ図

テープ図

□を使った式
しき
答え

□を使った式
しき
答え



月 日() 時間目 名前

ジュースが 何本か あります。 26本 くぼったので、
のこりが 8本に なりました。

ジュースは、はじめ 何本 ありましたか。

<図>

を つかって しきを つくりましょう。

しき

答え

教室に 何人か います。後から 8人 来たので、みんなで
23人に なりました。 はじめに いたのは 何人ですか。

<図>

を つかって しきを つくりましょう。

しき

答え

月

日()

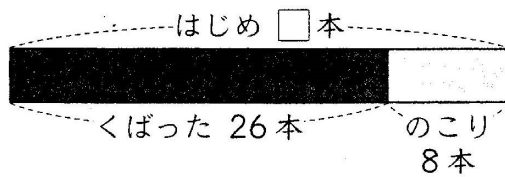
時間目 名前

解答

ジュースが 何本か あります。 26本 くぼったので、
のこりが 8本に なりました。

ジュースは、はじめ 何本 ありましたか。

<図>



□を つかって しきを つくりましょう。

$$\square - 26 = 8$$

しき

答え

$$8 + 26 = 34$$

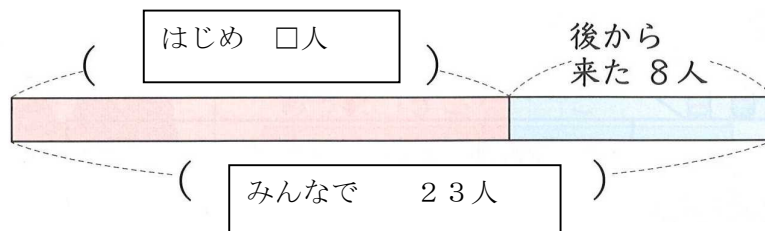
$$34 \text{本}$$

$$26 + 8 = 34$$

$$34 \text{本}$$

教室に 何人か います。後から 8人 来たので、みんなで
23人に なりました。はじめに いたのは 何人ですか。

<図>



□を つかって しきを つくりましょう。

$$\square + 8 = 23$$

しき

$$23 - 8 = 15$$

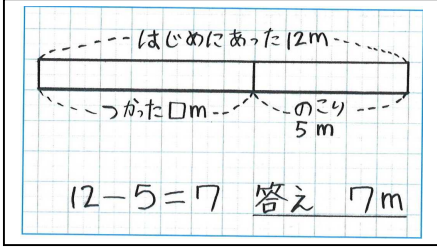
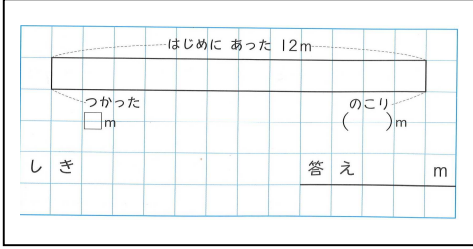
答え

15人

目標

・問題構造を図に表すと、加減の相互関係がとらえやすくなることに気付くことができる。
(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. リボンが 12m あります。何mか つかって、まだ () m のこっています。つかった リボンは 何mですか。</p> <p>図を p 79 にかく。</p>  <p>自分で決めた図をかく。</p>  <p>2. p 80 の「たしかめよう」の問題を解く。</p> <p>3. p 81 の「算数の目」の問題を解く。</p>	<p>1. 教科書に記入させる。 (15分)</p> <p>2. 個別に対応する。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ p 77 の図を参考にして考えさせるとよいでしょう。
- ・ 図と式を対応させて考えさせましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ テープ図と問題文を対応させて考えさせることが大切です。

IV 板書計画

問題

テープ図

テープ図


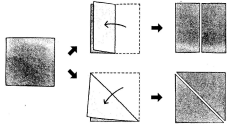
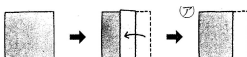



目標

・ $1/2$, $1/4$ など簡単な分数について知る。

(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 同じ大きさに分けたことがありますか。</p>  <p>子どもから分けた経験を出させましょう。(5分)</p>	<p>1. 自由に出させる。</p>
<p>2. 正方形の紙をおって、半分の大きさを作しましょう。</p>  <p>「どんな形がいくつできたでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ形の長方形が2つ。 ・ 同じ形の直角三角形が2つ。 <p>同じ大きさに2つに分けた1つ分を、もとの大きさの二分の一といい $1/2$ と書きます。</p>	<p>2. 正方形の紙を準備しておく。</p> <p>切ったのを重ねて確認させましょう。</p> <p>書き方を指導する。(20分)</p>
<p>3. りくさんは、はもとの大きさの $1/2$ といえますか。</p>  <p>半分でないので $1/2$ ではない。</p>	<p>3. 紙を折って見せ考えさせる。(25分)</p>
<p>4. 長方形の紙をおって、それをまた半分におった大きさを作しましょう。</p>  <p>紙を半分におって、さらに半分に折るんだ。</p> <p>「どんな形がいくつできたでしょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ形の長方形が4つできた。 <p>同じ大きさであることを重ねて確かめさせましょう。</p>	<p>4. 長方形の紙を準備する。(30分)</p> <p>5. 長方形の紙を一人に3枚ずつ配る。</p>
<p>6. p84の1, 2, p86の3, 4, 5の問題を解く。</p> <p>同じ大きさに4つに分けた1つ分を、もとの大きさの四分の一といい、$1/4$ と書きます。$1/2$ や $1/4$ のような数を分数といいます。</p>	<p>(40分)</p> <p>6. 個別に関わる。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ もとの大きさと、1つ分の大きさをしっかりとらえさせて考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 紙を切る活動、重ねる活動の中から、分数を理解させることが大切です。

IV 板書計画

問題

問題

正方形の紙を切ってできた図形

長方形の紙を切ってできた図形

まとめ




まとめ



目標

- ・ $1/3$ など簡単な分数について知る。
- ・ 倍や分数の意味について捉えることができる。(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 同じ長さになるように、テープを3つに分けました。1つ分の長さを分数をつかってあらわしましょう。</p>  <p>同じ大きさに3つに分けた1つ分を、もとの大きさの三分の一といい $1/3$ と書きます。</p>	<p>1. 教科書 p 117 の紙テープを切り取って分ける。(5分)</p>
<p>2. p 87 の6の問題を解く。</p> <p>「あみさんから見ると」「りくさんから見ると」と互いの見方を考えよう。</p>	<p>2. 個別で問題を解く。(10分)</p>
<p>3. 2人のテープの長さを比べましょう。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・りくさんのテープは、あみさんのテープの2倍ですね。 ・あみさんのテープは、りくさんのテープの $1/2$ 倍ですね。 	<p>3. りくさんのテープから考えさせる。(20分)</p>
<p>4. 倍と分数について考えよう。</p>  <p>前の問題の学習を通して考えよう。</p>	<p>4. 個別で取り組ませる。(30分)</p>
<p>5. p 89 の1、p 90 「算数の目」の問題を解く。</p>	<p>5. 個別に関わる。(45分)</p>

II 指導のポイント

- ・ もとの大きさと、1つ分の大きさをしっかりととらえさせて考えさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・ 紙を切る活動、重ねる活動の中から、分数を理解させることが大切です。
- ・ 「〇〇から見ると～」とみている側を理解させる。

IV 板書計画

問題

問題

テーブル図

テーブル図

まとめ

まとめ



目標

・はこの形について、面の数や形をとらえることができる。

(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ア、イのような形の はこを 作ります。それぞれの たいらな ところの 形や、たいらな ところの 数な などを しらべましょう。</p> <p>・面の用語を教える。</p> <p>2. 面の形を、紙に うつとりましょう。 紙に面をあてて写し取る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちが持ってきた箱の形を写し取 らせましょう。</p> </div> <p>3. 写し取った面を見て気がついたことをかきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長方形の面や正方形の面がある。 ・全部で面は、6つある。 ・同じ形の面がある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アのはこは、 同じ長方形の面が2つずつ、3種類ある。 イのはこは、 同じ形の正方形が6つある。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>自分の持ってきた箱や、友達の箱につい ても同じようにまとめてみましょう。</p> </div>	<p>1. 持ち寄せた箱を見なが ら、面を触らせ、用語 を教える。 (7分)</p> <p>2. 丁寧に写し取らせる。 (20分)</p> <p>→ワークシート</p> <p>3. 気がついたことをワー クシートに記入させる。 (35分)</p> <p>見つけたことを発表さ せまとめる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

・前もって、箱をもって来るように指示しておきましょう。

・箱を触ったり、見たりする活動を十分とり、面の概念をとらえさせることが大切です。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・箱を触ったり、写し取ったりする活動が大切です。

IV 板書計画

問題

アの形

イの形



月

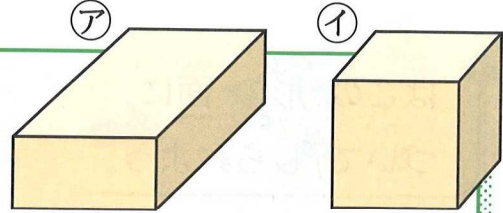
日()

時間目 名前

1

右の ㊦, ㊧のような
形の はこを 作ります。

それぞれの たいらな ところの 形や,
たいらな ところの ^{かず}数などを しらべましょう。




<じぶんの もってきた はこの 面を うつしとりましょう。>

目標

・隣り合う面や向かい合う面の特徴や関係をとらえ、
組み立て方を考えることができる。

(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. 切りとった面をテープでつないで、はこを組み立てましょう。</p>  <p>「切りとって、組み立てましょう。」</p> <p>2. 組み立てたはこで、面の四角形の同じ長さのへんに同じ色のテープをはってみましょう。そして、気づいたことをいみましょう。 アの箱は、同じ長さのへんが4本あり、3種類の長さがある。 イの箱は、同じ長さのへんが12本ある。</p> <p>3. ひごとねん土玉をつかって、アのはこの形を作りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3種類のひごと粘土を使って、はこの形を作る。 友達と協力して作らせるとよいでしょう。 <p>4. どんな長さのひごを何本ずつ用意するとよいですか。 6cmのひご 4本 8cmのひご 4本 12cmのひご 4本</p> <p>5. ねん土玉は、何個必要ですか。 8こ</p> <p>はこの形には、へんが12、ちょう点は、8つあります。</p> <p>6. p96 5の問題を解く。</p>	<p>1. はさみを準備させる。</p> <p>工作用紙に印刷し準備しましょう。</p> <p>(10分)</p> <p>2. 辺に着目させる。</p> <p>ペンで色分けさせてもよいでしょう。</p> <p>(20分)</p> <p>3. 何本ずつ使うかに着目させる。(35分)</p> <p>6cm、8cm、12cmのひごと粘土を準備しておきましょう。</p> <p>4, 5 全員でまとめる。 (40分)</p> <p>6. 個別に関わる。 (45分)</p>

II 指導のポイント

- ・たつぷりと時間をとり活動に浸らせましょう。
- ・教師の準備が必要な時間です。前もって準備しておきましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・作る活動がとても重要です。

IV 板書計画

問題

アのはこ
イのはこ

問題

6 cmのひご
8 cmのひご
12 cmのひご

まとめ

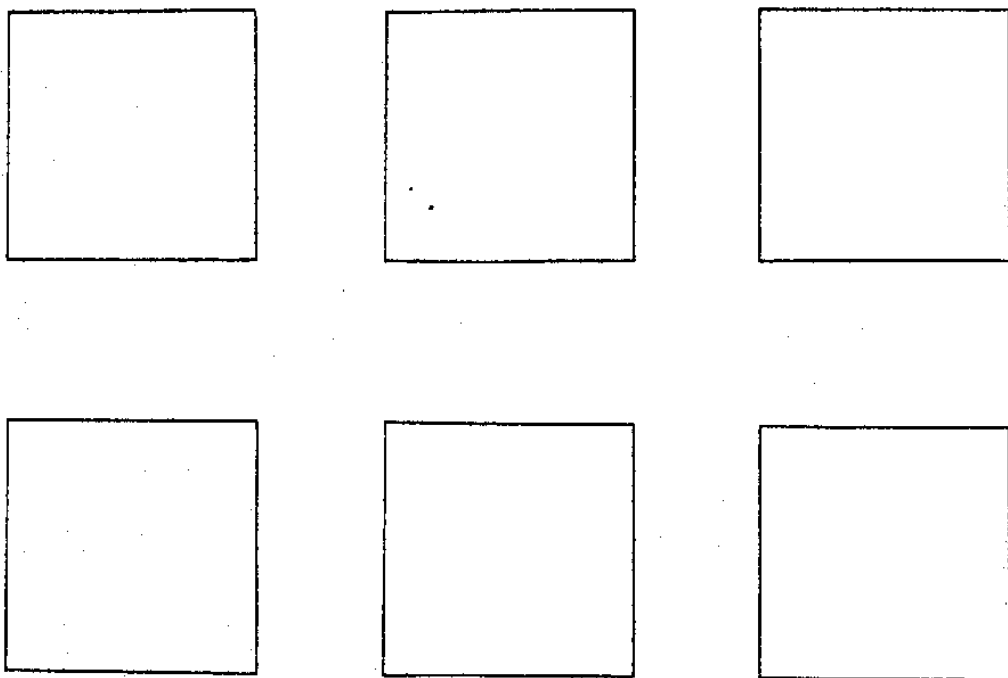
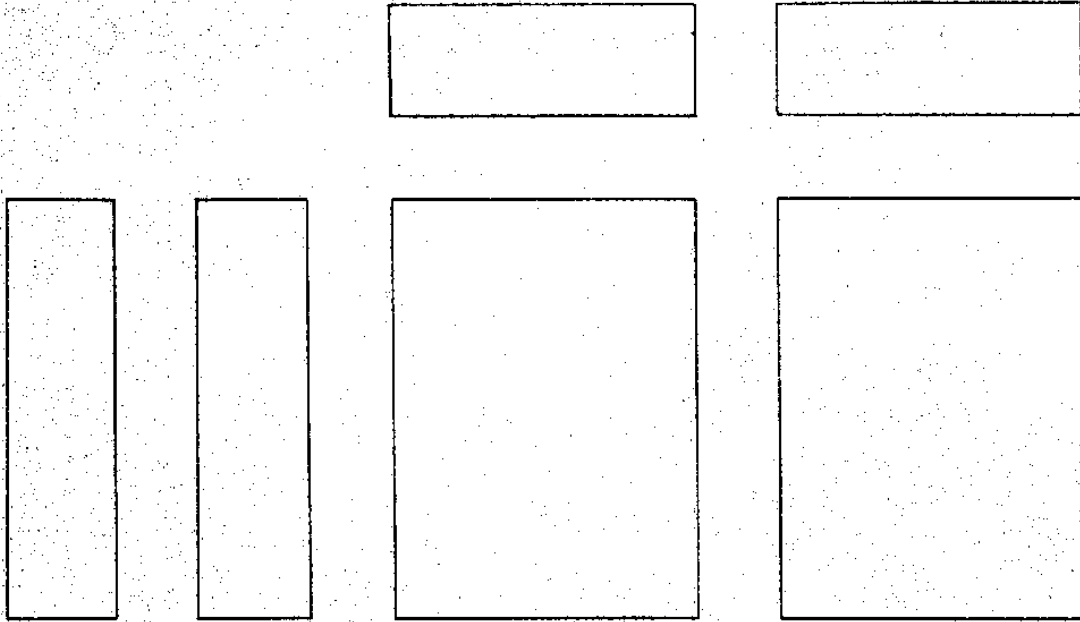


月

日()

時間目 名前

切って 組み立てましょう。



- 目標**
- ・基礎的な学習内容を身につけている。(数量や図形についての知識・理解)
 - ・きまりを見つけ解決することができる。(数学的な考え方)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. P97の問題を解く。</p> <p>2. 計算ピラミッドを解く。</p> <div data-bbox="304 680 884 1014" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 20px auto; width: 80%;"> <p>この時間は、はこの形の復習と、計算のおもしろさを感じ取る時間です。</p> <p>個別に関わり、箱の形について定着させましょう。</p> <p>計算ピラミッドは、決まりを解決する楽しさを味わわせましょう。</p> </div>	

II 指導のポイント

- ・しあげのもんだいに関しては答えをしっかりと確認しましょう。
- ・個別にしっかりと関わりましょう。

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

- ・特になし

IV 板書計画

計算ピラミッドの回答をかく。



目標

・既習内容について解決のしかたを理解することができる。

(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ノートに、丁寧に答えを書く。</p> <div data-bbox="319 515 837 896" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>一人一人のペースに合わせ、じっくりと解決に取り組ませる。 2年のまとめであるので、わからないところは教科書を見直し振り返らせることが大切です。</p> </div>	<p>1. 個別に関わり、答えに○をつける。(45分)</p>

II 指導のポイント

・個別にしっかりと関わってあげることが大切です。

・

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・特になし。

IV 板書計画

多い間違いに関して、板書で答えを確認する。



目標

・既習内容について解決のしかたを理解することができる。

(数量や図形についての知識・理解)

I 本時の流れ

学 習 活 動	留 意 点
<p>1. ノートに、丁寧に答えを書く。</p> <div data-bbox="319 515 837 896" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>一人一人のペースに合わせ、じっくりと解決に取り組ませる。 2年のまとめであるので、わからないところは教科書を見直し振り返らせることが大切です。</p> </div>	<p>1. 個別に関わり、答えに○をつける。(45分)</p>

II 指導のポイント

・個別にしっかりと関わってあげることが大切です。

・

III 子どもにさせる算数的活動のポイント

・特になし。

IV 板書計画

多い間違いに関して、板書で答えを確認する。



くらいの表

つみきをおいてかんがえましょう。

十のくらい	一のくらい